第十七條　署内ノ文書ハ署長ノ許可ナクシテ他人ニ示シ若クハ謄寫セシムルコトヲ得ス

第十八條　凡警察署ニ到達スル文書ハ署長之ヲ受ケ開緘査閲シテ檢印ヲ捺シ書記ニ交付ス其事件ノ輕重ニ依リ署長自ラ處分シ又ハ處分方ヲ指示シテ主務者ニ配付スヘシ

第十九條　文書ノ往復ハ收受發送ノ二ニ區分シ書記之ヲ擔當ス其記載例左ノ如シ

一　文書ノ收受ニ起ルモノハ別紙第一號收受件名簿ニ又發送ニ起ルモノハ別紙第二號發送件名簿ニ登記スルモノトス

一　一事件ニシテ數回往復スルト雖モ番號ハ收受發送共各終始同番號ヲ用ユ

一　件名簿ニハ發出ノ官衙又ハ氏名及番號收受發送月日ヲ記スヘシ

第二十條　主務者事件ノ配付ヲ受クレハ件名簿ニ受領印ヲ捺シ速カニ處分案ヲ起シ署長ノ決判ヲ受クヘシ

第二十一條　主務者受クル所ノ文書ニシテ即日調理シ難キモノハ豫メ處分ノ日限ヲ定メ署長ノ承認ヲ受クヘシ

第二十二條　議決ノ成案ハ主務者又ハ書記之ヲ淨寫シ本書ト成案ニ發送番號ヲ記入シ及件名簿ニ登記シ速カニ發送ノ手續ヲナスヘシ且其至急ヲ要スル者ハ本書及封筒ニ（急）ノ印ヲ捺スルヲ要ス

但シ文書ノ番號ハ毎年一月ニ起リ十二月ニ止ム

第二十三條　凡ソ淨寫ハ正確明瞭ヲ要ス若シ淨書ノ際原文ニ誤謬又ハ文例ニ違フト認ムルモノハ主任ニ通知シ訂正ヲ經テ淨寫スヘシ

第二十四條　文書ノ處分完結セシトキハ主務者又ハ書記ハ其月日ヲ件名簿ニ記入シ各類別ニ從ヒ簿冊ニ編綴スヘシ

第二十五條　凡ソ長官宛進達ノ文書ハ警察部長ヲ經由シ分署長ノ警察部長ニ宛テタルハ本屬警察署長ヲ經由スヘシ

但シ至急ヲ要シ又ハ特例アルモノハ此限ニアラス

第二十六條　常例アリテ事ノ輕易ナルモノニ係ル照會應答又ハ指令ハ別ニ草案ヲ要セス直ニ本書ヲ作リ其要領ヲ件名簿竝關係書ニ記シ署長ノ檢印ヲ受ケ發送スルコトヲ得

第二十七條　凡ソ收受文書中現金金券又ハ印紙切手及物品等ヲ添附シアルモノハ受附ニ於テ帳簿ニ「金券金高又ハ印紙何程領收」又ハ「何品何個領收」ト記載シ其現金金券若クハ物品等ヲ當該主任ニ交付シ認印ヲ徵シ置クヘシ

第二十八條　署長ハ毎日收受件名簿ヲ點檢シ其完結ノモノハ完了認印ヲ捺シ故ナク延滯ノモノナカラシムルヲ要ス

第二十九條　人民ノ諸願屆ニシテ事輕易ナルモノハ書面ヲ要セス口頭ニテ願屆ヲナサシムルコトヲ得

但シ別紙第三號雛形口頭願屆件名簿ニ其願屆出ノ年月日事由竝其住所身分職業氏名ヲ記入シ本人ヲシテ名下ニ押印セシメ置クヘシ但シ金錢物品等ニ係ルモノハ此限ニアラス

第三十條　各分署ノ處務及文書收發ハ本章各節ニ依準スヘシ

第五章　管區及巡査ノ配置勤務

第一節　管區

第三十一條　警察署長ハ部内ヲ數管區ニ分チ左ノ方法ニ依リ駐在所派出所ヲ定メ警察部長ノ認可ヲ受クヘシ

一　警察署分署所在地ニ在テハ一管區ニ受持巡査一名ヲ配置シ更ニ數管區ヲ聯合シ共同巡行區域ヲ定ム

但シ便宜ニ依リ巡行一區域ニ派出所ヲ置キ又ハ一管區ニ派出所ヲ設ケ二名以上ノ巡査ヲ置クコトヲ得

二　警察署分署所在地外ニ在テハ一管區ニ駐在所ヲ設ケ巡査一名若クハ二名ヲ置ク

第三十二條　管區巡査ハ必ス其區内ニ居住シ駐在所ハ其宿所ヲ以テ之ニ充ツ

但シ駐在所ニ二名ヲ置クトキハ壹名ハ駐在所外ニ宿スルヲ得且警察署分署所在地ニ在テハ署長ノ認可ヲ受ケ管區外ニ居住スルコトヲ得

第三十三條　便宜ニ依リ數派出所駐在所ヲ合セテ組合區ヲ定メ上席巡査ヲ以テ組長ニ充テ傳令其他ノ事ヲ取扱ハシムルヲ得

第三十四條　派出所駐在所及巡査宿所ニハ第四號雛形ノ標札ヲ掲クヘシ

第二節　巡査ノ勤務

第三十五條　管區巡査ハ巡査服務心得ニ依リ其區内ニ係ル警察事務ヲ擔任ス

第三十六條　管區巡査事故アルトキハ豫備巡査又ハ組合巡査ナシテ補助セシムヘシ

第三十七條　管區巡査ハ別紙第五號雛形ノ事故報告表ヲ作リ毎日執行シタル事故ヲ其署長ニ報告スヘシ

但シ駐在所ニ在テハ緊急事件ヲ除ク外毎週報告スヘシ

第三十八條　巡査部長並ニ管區巡査毎日勤務ハ八時乃至十二時間隔日勤務ハ十四時間乃至十八時間トス

第三十九條　豫備巡査ハ前條ノ時間ニ準シ内外ノ勤務ニ服セシム

第四十條　警察署分署ニ於テハ當直巡査一名ヲ置ク

第四十一條　警邏度數ハ一管區ニ就キ警察署分署所在ノ市街ハ一晝夜四回乃至八回村落ハ一箇月十回以上トス

但シ持區廣漠又ハ山間僻遠ノ村落ニシテ本條ノ度數ヲ實施シ難キモノハ警察部長ノ認可ヲ得テ其數ヲ減スルコトヲ得

第四十二條　戸長役場其他必要ト認ムル場所ニ別紙第六號雛形巡廻一覽表ヲ備ヘ置キ村落警邏ノ都度巡廻員ヲシテ月日時等ヲ記入捺印セシメ前月分ヲ毎一箇月署長ニ呈出シ檢印ヲ受クヘシ

第四十三條　派出所駐在所ニハ別紙第七號雛形ノ日誌ヲ備ヘ置キ諸般ノ事故及巡廻發著時ヲ記載シ置キ上官巡視ノ際檢印ヲ受クヘシ

第四十四條　警察署分署派出所駐在所ニ於テハ各其部内ノ地圖ヲ備ヘ置キ諸般ノ便利ニ供シ置クヘシ

第四十五條　警察署分署派出所駐在所部内ノ居住者ニシテ官吏醫師産婆藥種店代言人及諸會社社長其他警察上必要ト見認ル者ノ住居番地氏名職業等ヲ詳記シタル簿冊ヲ備ヘ置クヘシ

第三節　巡査ノ監督

第四十六條　（二十七年五月訓第百八十二號ニ依リ廢止）

第四十七條　警察署長ハ所在地ヲ三畫夜ニ一回部内分署ヲ四箇月ニ一回各駐在所一年ニ二回又ハ一回巡視監督スヘシ

第四十八條　外勤警部ハ警察署所在地ヲ一畫夜ニ二回部内各駐在所ヲ一箇月ニ二回又ハ一回巡視監督スヘシ

内勤兼務警部ノ巡視ハ前項ニ準シ署長之ヲ定ム

第四十九條　分署長ハ分署所在地ヲ一畫夜ニ二回部内駐在所ヲ一箇月ニ二回又ハ一回巡視監督スヘシ

第五十條　警察署分署ノ巡査部長並ニ管區組合長ノ巡視度數ハ警察署長之ヲ定ム

第五十一條　警察署分署長警部巡査部長巡視ノ節ハ警邏簿ニ檢印シ巡査ニ指命スヘキコトアレハ指達簿ニ其旨記入スヘシ

第六章　附則

第五十二條　警察署長ハ此規程ノ範圍内ヲ以テ細則ヲ規定シ警察部長ノ認可ヲ得テ施行スヘシ

（別紙）

第一號收受件名簿

第何號			第何號			第何號			第何號		
何月何日	何何ノ件ニ付照會	警察部警務課	何月何日	何何ノ件ニ付願	何郡何町何番地 氏名	何月何日	何何ノ件ニ付願	何郡何町何番地 氏名	何月何日	何何ノ件ニ付願	何郡何町何番地 氏名
受付	主任		受付	主任		受付	主任		受付	主任	
第何號			第何號			第何號			第何號		
回答	何月何日	警察部警務課ヘ照會	回答	何月何日	何郡何町何番地 氏名	回答	何月何日	何郡何町何番地 氏名	回答	何月何日	何郡何町何番地 氏名
處分	何月何日	回答	處分	何月何日	許可ス	處分	何月何日	許可ス	處分	何月何日	許可ス
照會	何月何日	某警察署ヘ	回答	何月何日		回答	何月何日		回答	何月何日	
第何號			第何號			第何號			第何號		
受付			受付			受付			受付		

日
號
處分　月　日
照會　月　日
回答

主任

第二號發送件名簿

何月何日　第　何號
何何ノ件ニ付照會
何
主任

何月何日回答

何月何日再照

何月何日　第　何號
何何ノ件ニ付照會
何分署
主任

何月何日回答

何月何日再照

何月何日何官何ニ移ス

何月何日　第　何號
何何ノ件ニ付照會
何
主任

何月何日回答

何月何日再照

第三號口頭願屆件名簿

何月何日受　主任印
何月何日結了　署長印
件名
願屆ノ理由ヲ記ス
何月何日受　主任印
何月何日結了

何府縣何國何郡何町村
士族（平民）何職
何
署

月日受

月日	月日受	月日

第四號　長八寸

北海道廳巡査　何　某

堅三尺

何警察署地又ハ何警察署何分署何郡何村何村管區巡査駐在所

第五號

何警察署地又ハ何警察署何分署何名巡査派出所

堅三尺

事故報告表　何管區受持　巡査　何　某

番號	月日事故件名	執行シタル事由	執行セラレタルモノ住所氏名
第何號	何月何日乞丐者何時何分制止	何町ニ於テ何巳ニ立寄リ乞食ヲ爲シ居ルニ付制止セリ	何縣何郡何村何某 何年何月
第何號	何月何時口論設諭ヲ爲ル	何町何某方ニ於テ何誰ト爭論ヲ爲ノシ居ルニ付設諭	――
同	同	同	同

第六號

第　管區駐在警邏表

明治　年　月

巡視官印	警邏日	時	官氏名印	巡視官印	警邏日	時	官氏名印
○	一日	午時分	○		十七日	午時分	○
○	二日	午時分	○		十八日	午時分	○
○	三日	午時分	○		十九日	午時分	○
○	四日	午時分	○		二十日	午時分	○
○	五日	午時分	○		二十一日	午時分	○
○	六日	午時分	○		二十二日	午時分	○
○	七日	午時分	○		二十三日	午時分	○
○	八日	午時分	○		二十四日	午時分	○
○	九日	午時分	○		二十五日	午時分	○
○	十日	午時分	○		二十六日	午時分	○

第七號

何月何日　何曜　晴雨　巡視氏

巡回

一　巡回發著云云

一　道路破損　巡回中注意シタル理由云云、、、、、

一　迷兒　理由、、、、、

一　盜難屆　、、、、、

一　遺失屆　、、、、、

○明治二十七年一月十一日北海道廳訓第四號

文書編纂及保存規定別冊之通相定ム（別冊六第一類文書ノ部ニ出ツ）

○明治二十四年八月二十五日北海道廳訓第八十三號（警察部、警察署、警察分署宛）

警察官事務引繼手續左之通定ム

警察官事務引繼手續

第一條　課長警察署長分署長及課署在勤警部轉任免官等ノ節ハ左ノ期限內ニ於テ主管事務ノ引繼ヲ爲シ附錄第一號書例ニ據リ課長警察署長分署長（所屬警察署長ヲ總稱以下同シ）ハ警部長ニ課署在勤警部ハ其長ニ

届出ベシ但後任未定ノトキハ特ニ警部長又ハ課署長ヨリ指名シタルモノニ對シ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

一　課長警察署長　七日以内

一　分署長及課署在勤警部　五日以内

第二條　前條ノ期限内ニ引繼ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テハ其事情ヲ詳悉具狀シ課長警察署長分署長ハ警部長ノ認可ヲ受ケ其他ハ其長ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　部内ノ民情風俗貧富等緊要ノ事項ハ附錄第二號演説書例ニ據リ細大漏サス其要領ヲ詳悉スヘシ

第四條　主管ノ事務中未結了ノモノ若クハ未著手ノモノアルトキハ將來ノ處辨方ニ就キ意見ヲ詳述シ演説書中ニ登載スヘシ

第五條　現ニ取調中ノ犯罪事件ニシテ其犯狀簡易ナルモノ若クハ捜査中ニ係ルモノハ一件毎ニ意見書ヲ付スヘシ

犯狀疑難ニシテ繼續取調ヲ必要ト認ムル事件ハ其取調ヲ結了スヘシ但本項ノ場合ト雖トモ第一條ノ期限ヲ經過スルトキハ第二條ノ手續ヲ爲スヘキモノトス

第六條　機密ニ係ル書類ハ別ニ目錄ヲ作リ授受スヘシ

第七條　後任者ニ於テ引繼條件ノ内其處分成例ニ乖ルカ又ハ將來弊害トナルヘキモノト認ムルトキハ其事情ヲ具申シ課長警察署長分署長ハ警部長ノ指揮ヲ受ケ其他ハ其長ノ指揮ヲ受クヘシ

第八條　會計上ニ關スル引繼ハ別ニ定ムル所ニ依ル

（附錄第一號）

事務引繼濟届

今般何官某儀何何ヘ轉任（免官）ニ付何課署事務別紙ノ通授受相濟候條連…ヲ以テ此段及御届候也

年　月　日

前何課署長　官　氏　名　印

何課署長　官　氏　名　印

某官氏名　殿

（附錄第二號）

引繼演説書

當署ハ本廳ヲ距ル何里ノ方位ニ在リテ地勢何何郡ニ連リ南ハ何國郡ニ界シ西北ハ何何面積何程ニシテ何箇町何箇村戸數何程ニシテ人口何程有之而シテ其内最モ多キハ何業ニシテ始ント十分ノ何ニ當ル云々等ノ如シ

生計ノ模樣

何何何何　重ナル物産

何何　學校及諸工場ノ盛衰
何何　土地ノ貧富及慣習
何何　官民ノ折合及町村ノ睦否
何何　孝子順孫節婦義僕者
何何　犯罪ノ疑アリ視察中ノ者
何何　高利貸ヲ爲ス者
何何　政黨政社ノ狀況及新聞紙雜誌ノ盛衰
何何　不平ヲ官廳ニ抱ク者
何何

何何　行政上視察中ノ者
何何　課署員品行ノ正否職務ノ勉否及其長所
何何　諸規則ノ創定及改正ニ關スル件
何何　將來ノ計畫ニ係ル事項
何何
（前各項ノ外引繼ヲ必要ト認ムル件ハ細大洩サス記述スヘシ）

年　月　日

前何課署長
何課署長
官　氏　名　殿

（文例）
書類引繼書
一　何何圖面　何通
一　何帳簿　何冊

官　氏　名　印

一　何何　　何通

右授受候也

月　日

前課署長　官　氏　名　印

何課署長　官　氏　名　印

○明治二十四年十月十日北海道廳訓第百三十五號（警察部內一般）

水上警察所規程左ノ通定ム

水上警察所規程

第一條　水上警察所ハ各港灣ニ屬スル水上及沿岸地（其直轄ニ屬スル部分）ノ警邏査察ヲ行フ所トス

第二條　水上警察所長ハ該港灣所在地警察署在勤警部ヲ以テ之ニ充ツ

所長ハ警察署長ノ命ヲ承ケ部下ノ巡査及水夫ヲ指揮監督ス

第三條　水上警察所ハ特ニ左ノ事項ニ注意スヘシ

一　碇船船ノ動靜ヲ視察スル事

一　船舶ノ出入毎ニ其船名積荷船主ノ氏名鑑札ヲ調査スル事

一　火藥其他危險物ノ船積陸揚ニ注意スル事

一　船燈點火ニ注意スル事

一　船中ニ出火アルトキハ一面陸上ニ警報シ一面消防ニ著手スル事

一　難破船アルトキハ速ニ救援シ若シ其力及ハサルトキハ他ノ助力ヲ求ムル事

一　死体又ハ漂著物ヲ發見シタルトキハ一面現場取締ヲ爲シ一面警察署長ニ報告スル事

一　總テ異變アルトキハ一面相當ノ手續ヲ爲シ一面警察署長ニ急報スル事

第四條　巡邏船ノ乘込ミ人員ハ所長之ヲ定メ上班官吏ニ號令司ヲ命ス可シ

第五條　勤務細則ハ警察署長之ヲ定メ警部長ノ認可ヲ受ク可シ

○明治二十四年十月十日北海道廳訓第百三十六號（警察部內一般宛）

水上巡邏船禮式左ノ通定ム

水上巡邏船禮式

第一條　警察禮式ニ依リ行禮スヘキ人ノ乘船ニ逢ヒ又ハ其人ノ沿岸ニアルヲ見認メルトキハ左ノ禮式ヲ爲スヘシ

第二條　禮式ハ最敬禮敬禮ノ二種トシ其區別ハ警察禮式法ニ依ル

第三條　最敬禮ハ端艇ニ在テハ橈手一齊ニ橈ヲ立テ汽船ニ在テハ進行ヲ止ムヘシ

第四條　敬禮ハ端艇ニ在テハ橈手橈ヲ上ケ汽船ニ在テハ進行ヲ緩ムヘシ

第五條　端艇ニ在テ最敬禮ヲ爲ストキハ號令司左ノ令ヲ發ス可シ

一　橈立テ方用意

二　立テー

三　下セー
四　前ヘー

第六條　端艇ニ在テ敬禮ヲ爲ストキハ號令司左ノ令ヲ發ス可シ

一　橈上ケ方用意
二　上ケー
三　下セー
四　前ヘー

第七條　汽船ニ在テ最敬禮又ハ敬禮ヲ爲ストキハ號令司(進行止メ)(進行緩メ)ノ號令ヲ發ス可シ

第八條　端艇ト汽船トヲ問ハス帆ヲ揚ケタル場合ニ於テ行禮スルトキハ其帆ヲ下ス可シ

第九條　檣ヲ用ユル端艇ノ最敬禮ハ進行ヲ止メ敬禮ハ進行緩ム可シ

○明治二十四年九月九日北海道廳訓第百六號(警察部內一般宛)

巡査服務心得左ノ通改定ス

巡査服務心得

第一條　明治八年太政官第二十九號達ハ行政警察ノ基本タルモノナレハ常ニ注意遵奉スルハ勿論尙左ノ各項ヲ確守スヘシ

目的綱領

一　警察ノ主要タル行政ト司法トニ拘ハラス國家公衆ノ治平安全ヲ保持スルヲ以テ目的トス其事務タル千緒萬端ナリト雖トモ皆此目的ヲ達セントスルニ外ナラス宜シク此意ヲ体スヘシ

二　警察ハ行政司法相待テ効用ヲ爲スハ言ヲ俟タス然レトモ其司法處分ニ歸スル者ノ多キハ行政豫防ノ周到ナラサルニ因ル故ニ行政規則ノ執行ヲ嚴ニシ宜シク害惡豫防ノ務ヲ以テ第一著ノ趣旨ト爲スヘシ

三　行政警察ハ干渉或ハ放任ニ流レ司法警察ハ苛察或ハ緩慢ニ陷リ易キモノナレハ其職ニ當ル者ハ宜シク注意シ中庸ヲ得ルヲ以テ目的ト爲スヘシ

四　干渉苛察ハ一ニ執務ノ熱心ニ出ルコト多シ故ニ殊ニ注意ヲ加ヘ保護ニ熱心ナルモ干渉ニ流レ各人ノ自由ヲ妨クルコトアルヘカラス又注意ニ熱心ナルモ苛察ニ陷リ一家ノ隱微ヲ訐クヘカラス宜シク公同一般ノ禆益ヲ計ルヲ以テ主眼トスヘシ

五　警察ハ施政ノ方向ニ從フヘキモノナレハ其職ニ在ル者ハ能ク法律規則ヲ遵奉シ上官ノ命令ニ服從シ公正忠實以テ其務ニ服スヘシ

六　職務ニ從事スルニハ剛毅活潑ナルヲ要ス然レトモ決シテ粗漏暴慢ノ所爲アルヘカラス

七　警察ノ職務ハ自ラ威力ヲ有スルモノナレハ其擧動言語可成温和ヲ主トシ人民ヲ待遇スル勉テ叮寧懇切ナルヲ要ス何等ノ場合ト雖モ苟モ激怒ノ相ヲ顯ハスヘカラス然レトモ又決シテ人民ニ狎昵スヘカラス若シ相狎ルルトキハ自然輕侮ヲ來シ職權ヲ汚スニ至ル故ニ温和叮寧ノ裏ニ常ニ端嚴侵スヘカラサルノ威容ヲ保ツヘシ

八　非常事變ニ際シテハ殊ニ奮發勇進身命ヲ拋チ其職任ヲ盡スヘシ苟モ逡巡卑怯ノ擧動ヲ爲シ

八　保護官タルノ體面ヲ損スルコトアルヘカラス

九　凡ソ警察上ノ事故ハ大小輕重ニ論ナク其原由狀況等ヲ詳ニシ既往ニ徵シ將來ヲ察シ以テ災害ヲ豫防シ危難ヲ救護スヘキ方法ヲ講究セサルヘカラス故ニ其考證ノ具タル關係ノ書類ハ豫テ整頓シ置クヲ要ス

十　職務上ニ付上官ニ申告スル事件ハ毫モ虛構又ハ增飾スル等ノコトアルヘカラス尤モ風聞流傳ニ係ルモノハ其旨ヲ明言スヘシ

十一　警察事務ハ秘密ヲ要スルコト少ナカラサレハ苟モ其秘密ニ係ルモノハ決シテ他ヘ漏洩スヘカラス

十二　上官ノ命令書其他公文ハ決シテ他人ニ示スヘカラス若シ他人ニ讀聞カスコトノ必要ナル場合ニハ其意思ヲ摘述スルニ止ムヘシ

十三　執務ノ際最モ愼ムヘキハ辯論ナリトス就中傲慢狂暴等ノ者ニ對シテハ辯論ヲ爲ストモ啻ニ心服セサルノミナラス反テ益發怒セシメ且事實ヲ多岐ニ涉ラシムルノ患アルモノナリ故ニ總テ辯論ヲ須ヒス先ツ叮寧ニ其說ク處ヲ聽キ充分其意思ヲ述ヘシメ然ル後徐カニ諭示ヲ加フヘシ

十四　人ヲ制スルニ方テハ專ラ忍耐沈著ヲ旨トシ假令他ヨリ雜言惡口等ヲ受クルモ敢テ意ニ介スルコトナカルヘシ然ルニ新任少壯ノ者ニ在テハ動モスレハ此等ノ場合ニ當リ輙ク怒氣ヲ發シ爲メニ反テ他ノ暴行ヲ來シ遂ニ小故ヲ變シテ侮辱等ノ罪ヲ構造セシムルニ至ルノ弊ナキ能ハス此ノ如キハ保護官ノ本分ニ背戾スルモノナレハ宜シク戒愼スヘシ

行狀及心得

十五　巡査タル者ハ人民ニ直接シ職務ヲ執ルモノナレハ平素品行ヲ正クシ一般ノ信憑ヲ得ルコト緊要ナリトス

十六　一度職ヲ奉セシ以上ハ專心之レニ從事シ苟モ私論議ニ干與シ猥リニ方向ヲ轉シ若クハ事ニ臨ンテ難ヲ避ケ或ハ浮說流言ニ動カサレ又ハ輕忽ニ人ヲ毀譽スル等ノコトナク能ク節操ヲ守リ以テ威信ヲ保チ愛敬ヲ得ル樣心懸ヘシ

十七　同僚ハ一身同體ト心得專ラ協力輔翼スヘシ苟モ他ヲ排擠シテ自己ノ名譽ヲ得ントスルカ如キ所爲アルヘカラス

十八　下官ノ失體ハ上官ノ失體上官ノ失體ハ下官ノ失體ナリト心得上下相親ミ心ヲ一ニシ專ラ相扶助スヘシ

十九　巡査タルモノハ上官ノ命令ニ服從シ能ク其勞ニ堪ユルヲ以テ本分トスヘシ假令上官ノ命令不當ナリト認ムルモ成規ニ觸レサルモノハ一旦之ニ服從シ然ル後順序ヲ經テ其旨ヲ上申スヘシ

二十　凡テ本分ノ職務ニ勉勵スヘキハ勿論職務ノ餘暇ヲ以テ學業ヲ修メ武藝ヲ講スル等ノ心懸アルヘシ

二十一　常ニ其身体衣服携帶品等ヲ淸潔ニシ其他攝生ニ注意スヘシ

二十二　平素專ラ節儉ヲ守リ決シテ奢侈ニ流レ華美ヲ競フ等ノ所爲アルヘカラス

二十三　平素交際ヲ愼ミ苟モ汚名不品行ノ輩ト往來スヘカラス又遊歩等ノ際ト雖トモ猥雜ナル場所ニ立入ルヘカラス

二十四　職務上見聞シタル事故ハ上官ニ申報スルノ外他ニ漏洩スヘカラス就中密告人ノ氏名及一家内ノ風波等ヲ他ニ告知シ又ハ新聞等ニ掲載セシムルコトアルヘカラス

二十五　失誤ハ人ノ免レ難キモノナレハ職務執行上其失誤タルヲ悟リタルトキハ速ニ上官ニ具申シ苟モ之ヲ隱蔽スル等ノコトアルヘカラス

二十六　素行ヲ破リ及過失ヲ生スルハ多ク飲酒ノ過度ナルニ原因スルモノナレハ最モ戒愼ヲ加フヘシ故ニ巡査ニ在テハ親戚朋友ノ賀宴送別會ノ如キ不得已場合又ハ産生ノ爲メ適度ニ用フルハ妨ケナシト雖トモ集會宴飲等ハ一切之ヲ爲スヘカラス

二十七　人ヲ警ムルノ職ニ在ル者ハ先ツ躬カラ其身ヲ修メサルヘカラス故ニ法律規則其他上官ノ命令訓示等ヲ謹守シ及公私ヲ分タス宜シク盡スヘキノ義務ヲ盡スハ勿論一家輯睦シ他ノ指目ヲ受クル等ノコトアルヘカラス

二十八　婚姻ヲ爲サントスル者ハ當日ヨリ十日前ニ媒妁人及親戚朋友ノ内一名ト連署ノ書面ヲ以テ本人ヨリ其官所屬長ニ屆出テ認可ヲ受クヘシ

二十九　職務上ニ付テハ金錢ハ勿論物品ト雖トモ一切私ニ贈與ヲ受クヘカラス

三十　警察官署ニ出入ノ用達賄方等ヨリ金錢ヲ借用シ又ハ受持部内ノ人民ヨリ物品ヲ購求シテ其價ヲ借ル等ノコトアルヘカラス

三十一　金貸ヲ爲シ或ハ商業ヲ營ミ又ハ牙保周旋等ニ從事シ若クハ他人ノ爲メニ訴訟事件等ニ關係スヘカラス

三十二　身分不相當ノ負債ヲ爲シ又ハ同僚中濫リニ金錢物品ヲ貸借スル等ノコトアルヘカラス

三十三　左ノ件々ハ新任ノ際ニ於テ或ハ失誤ヲ生シ易キモノナレハ宜シク注意スヘシ

上官ニ對シ不敬或ハ同僚ト爭論ヲ爲スヘカラサルコト

故ナク不參シ及虛病ヲ以テ勤務ヲ欠ク等ノ所爲アルヘカラサルコト

許可ヲ得スシテ例外ノ處分ヲ爲シ又ハ濫リニ所轄外ニ出ツヘカラサルコト

濫リニ外宿シ又ハ其行先ヲ明ラカニセサルヘカラサルコト

第二條　服務中ハ勿論常ニ左ノ各項ハ深ク視察ヲ加ヘ事ノ著シキ異狀アル者ハ所屬署長ニ申報スヘシ

一　人民ノ動靜及民情ノ向背

二　風俗及慣例ノ良否

三　黨行寄特者

四　法律命令ノ新ニ出ツル毎ニ公衆ノ感情如何

五　營業上ノ勤惰及其質奢

六　諸物品相場及種藝物ノ豐凶水産業ノ盛衰

七　貨幣ノ流通及其閉塞
八　贋造貨紙幣ノ有無及行使者ノ模樣
九　諸印紙貼用ノ行否
十　代言人及類似營業者ノ品行及擧動
十一　吉凶禍福ヲ唱ヒ人心ヲ惑亂スル者ノ有無
十二　流言浮說ヲ爲シ人心ヲ誑惑スル者ノ有無
十三　官許ヲ得ヘキ物品ノ密賣ヲ爲スモノ
十四　富有者及貧困者ノ多寡
十五　名望者ノ言行
十六　慈善家ノ行爲
十七　海陸運輸ノ便否及其營業者ノ行爲盛衰
十八　町村爭訟ノ原由及景況
十九　道路橋梁堤防官舍公園等ノ損壞及水利ノ便否
二十　地主小作契約ノ模樣
二十一　地所家屋ノ賣買及價額ノ高低
二十二　町村醵金ノ方法
二十三　政社ノ盛衰及其原由

二十四　演說會ノ景況
二十五　新聞社、賣捌所、縱覽所、書籍店、繪草紙屋、活版印刷所、寫眞師、彫刻師、印判師、其他諸會社及其盛衰行爲
二十六　火防夫ノ風習
二十七　銃砲彈藥賣買ノ景況並ニ所持者ノ多寡
二十八　諸患者ノ模樣
二十九　種痘ノ行否
三十　製藥者藥種商ノ盛衰及衛生制度ノ發達
三十一　危險物製造場ノ構造及其營業人
三十二　不孝不義者
三十三　不慈殘酷者
三十四　遊惰放蕩者
三十五　家族不和
三十六　暴富者又ハ惡漢無賴ノ名アルモノ
三十七　賭博者ノ狀況
三十八　密賣淫者ノ有無
三十九　盜賊ノ徘徊及窩主ノ有無

四十　詐欺取財ノ手段及其有無
四十一　市場ノ景況
四十二　空相場ノ有無
四十三　料理屋飲食店及貸座敷ノ榮枯風習
四十四　諸興行ノ多少及其景況
四十五　質屋古物商ノ行爲如何
四十六　宿屋ノ榮枯及其行爲並ニ旅客ノ多寡及之レ等行爲ノ模樣
四十七　湯屋ノ構造浴客ノ多寡及其風習
四十八　雇人受宿及馬宿ノ行爲正否
四十九　遊藝師匠及其稼人並ニ藝娼妓ノ多寡及其原由
五十　屠畜場ノ景況及頭數ノ多寡並ニ其肉ノ良否
五十一　馬車人力車馬橇人力橇ノ多寡及馭者車夫馬丁ノ風習並ニ賃錢ノ當否
五十二　販賣ニ係ル菓物ノ熟否其他飲食物及著色料ノ良否
五十三　危險ノ井溝及凹所防圍ノ有無
五十四　斃獸捨場火葬場埋葬場ノ狀況
五十五　前數項ノ外警察上必要ノ事項

第三條　管區及交番所巡査巡回査察ノ心得ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

但犯罪及保護注意ニ係ルモノハ臨機相當ノ手續ヲナスハ勿論タルヘシ

一　巡回ハ成ルヘク晝間ハ道ノ中央ニ取リ夜間ハ家屋ニ傍フテ巡行スヘシ

二　巡回並ニ見張中ハ其姿勢ヲ正シ動作ヲ愼ミ苟モ他ノ侮慢ヲ招カサル樣注意スヘシ

三　故ナク巡回線路外ニ出テ若クハ定路ノ巡回ヲ缺キ或ハ見張場等ヲ離ルヘカラス又正當ノ事故ニ依リ其受持區ヲ離レタル時ト雖トモ可成速ニ舊位ニ復スヘシ

四　人民ヨリ事故アリテ其處分ヲ請求セラルルトキハ受持區ノ內外ヲ論セス速カニ應スヘキハ勿論ナリト雖トモ決シテ輕率ノ取計ヲ爲スヘカラス

五　巡回及見張中ハ他人ニ對シテハ勿論同僚ト雖トモ私談戲言ヲ爲シ又飲食喫煙買物等ヲ爲スヘカラス

六　巡回中故ナク人家ニ立入リ又ハ佇立シテ店頭ノ列品ヲ覗見シ若クハ家宅構內ヲ透見スル等ノ所爲アルヘカラス

七　巡回及見張中ハ一切書見筆寫ヲ爲スヘカラス但休息中諸法令ヲ謄寫シ又ハ法令及新聞紙ニ限リ默讀スルハ苦シカラス

八　持區內ノ町名番地及其地理方角等ヲ聞合ス者アルトキハ叮寧ニ指示スヘシ

九　異常ノ煙氣焦臭又ハ家內ニ於テ非常ノ喧噪等アルヲ認メタルトキハ其場ニ臨ミ原因ヲ聞糺スコトアルヘシ

十　夜間門戸ノ不締就中雨戸裏口ノ開放或ハ干物其他物品ノ取收メ方等遺忘セシモノアルヲ認

メダルトキハ其家人ニ就テ注意ヲ加フヘシ

十一　通行人ノ携帶品ヲ取落シ又ハ車馬ノ荷物墮落セントスルヲ認メタルトキハ其本人ニ注意スヘシ

十二　諸營業者ニシテ成規ノ鑑札ヲ携帶表出セス又ハ他ノ鑑札ヲ使用スルコトナキヤニ注意スヘシ

十三　路上ニ於テ發病若シクハ負傷セシ者アルヲ認メタルトキハ懇切ニ之ヲ介抱スヘシ又行倒等ノ者アルトキハ假ニ手當ヲ爲シ速ニ所屬署長ニ申報スヘシ

十四　爭鬪又ハ喧嘩口論ヲ爲ス者アルヲ認メタルトキハ穩ニ之ヲ制止シ而シテ雙方ニ於テ示談ニ及フ者ハ後來ヲ戒メ其情狀重クシテ不問ニ付シ難キ者ハ所屬署ニ連行クヘシ

十五　火藥危險物其他犯罪人等護送ノ際ハ其主管者アリト雖トモ巡回ノモノニ於テモ亦注意ヲ加フヘシ

十六　巡回中尙注意スヘキ要件左ノ如シ

外國人ニ於テ物品購求若クハ休憩等ノ際傍人群集ノ事

故ラニ人ノ背后ニ追隨シ又ハ面前ニ立塞リテ迷惑セシムル等ノ事

群集雜沓ノ際掏摸喧嘩等ノ事

出入口ニ非ラサル場所ヨリ出入シ又ハ物品ヲ持出ス者ノ事

深夜他ノ門戸ヲ窺ヒ又ハ陰所ニ潛伏スル者ノ事

面部ヲ隱シ若クハ跣足ニテ通過シ或ハ雨天ニ非スシテ人力車ノ毋衣ヲ覆フ等其他風体怪シキ者ノ事

床店露店等ニ於テ刀劍類ヲ陳列スル者ノ事

刀劍短銃又ハ之ニ紛ハシキ器具ヲ陰ニ携帶スル怪シキ模樣アル者ノ事

兇器ヲ帶行シ又ハ血痕アル衣服ヲ著シ若クハ負傷シテ怪シキ模樣アル者ノ事

兇器或ハ血痕アル者其他犯罪ノ用ニ供シ若シクハ供スヘキ器具及贓品ニ疑ハシキ物品ノ遺棄隱匿ニ係ル事

異常ノ形相例ヘハ婦女ニシテ亂髮跣足ニテ疾走シ其他投身又ハ縊死セントスル者ノ事

路上ニ於テ猥褻ノ所爲アルモノノ事

禁止アル土手ニ上リ又ハ路傍樹木ヲ折損スル者ノ事

紙屑拾ヒ靴直シ等ニ不正ノ所爲ナキヤノ事

第四條　管區及派出所巡査事務取扱及心得方ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

一　戶口調査ハ成規ノ手續ニ依ルハ勿論第一稼業ノ妨ケナキ樣注意ヲ加エ且應接等ノ際ハ最モ温和叮寧ヲ主トシ苟モ人民ヲシテ怨嗟ノ念ヲ懷カシメサル樣愼重シ又濫リニ家人ニ狎昵スル等ノコトアルヘカラス

二　被監視人假出獄人臨檢視察ハ其者ノ行爲如何ヲ詳ラカニシ善遷悔悟ノ實ヲ得ル最モ緊要ナルヲ以テ陽ニ之レカ臨檢ヲナシ陰ニ之レカ視察ヲ加ヘ愛撫威嚴ノ中性ヲ保チ終ニ良民タラ

シムルノ重要事件ナルヲ以テ深ク玆ニ注意シ宜シク事ニ任セサルヘカラス

三　古物商及質屋ノ臨檢ヲナスハ成規ノ手續ニ依ルハ勿論要スルニ贓品ノ發見ヲ主トスルモノニシテ是等商賈ノ内或ハ惡漢無頼輩ト意ヲ通シ利ヲ圖ルモノナキヲ保シ難ク常ニ品物ノ調査ヲ嚴密ニシ且出入ノ物件人品ニ注意シ著著事實ノ調査ヲ爲シ臨檢ノ際ニ臨ミ輕輕帳簿ニ檢印ヲ與ヘ遂ニ惡漢ノ法網ヲ漏ルルニ到ラシムルコトナキ樣ニ務ムヘシ

四　湯屋臨檢ハ成規ノ手續ニ依ルハ勿論ナリト雖トモ就中火災ノ取締ヲ必要トスルモノナレハ火焚場其他火災ノ原因トナルヘキ燃質物ヲ散亂セシメサル樣注意ヲ加ヘ且煙筒ノ煤ハ時時取除カシムルヲ要スヘシ

五　旅舍檢ヲ爲スハ通常宿泊人名簿等ヲ檢査スルノ比ニアラス要スルニ囚人逃走其他不良惡漢ノ徘徊及旅客取扱ノ良否ヲ視察スヘキモノニシテ平常濫リニ事ナキニ當リ之ヲ爲スハ徒ラニ旅客ニ煩勞ヲ與フルノミナラス旅舍ヲシテ啻ニ苛察ノ思ヲ來サシムルノ弊ナキ能ハス故ニ旅舍檢ヲ爲スハ最モ其時機ヲ察シ且應對等ハ別シテ懇切叮寧ヲ主トシ決シテ輕忽ノ振舞アルヘカラズ

六　宿屋人名簿檢査ヲ爲スハ警察上ノ必要夥多アリト雖トモ一ハ犯罪搜査ノ便ニ供スルモノナレハ常ニ逃走囚ノ人相書等ヲ詳ラカニシ怠キ檢査ノ際ハ能ク意ヲ止メ徒ニ捺印ノ勞ニ過キサルノ弊ナキヲ要スヘシ

七　貸坐敷遊客人名簿檢査ハ前項同一ノ主旨ニ基クモノニシテ殊ニ是等ノ場所ハ惡漢無頼輩ノ

集合スル處ナレハ警察上最モ注意ヲ要シ且ツ少壯ノ輩一時遊蕩ニ耽リ甚シキハ一家ノ財産ヲ浪費スルノ事アルヲ以テ是等ノ場合アルトキハ速ニ所屬署長ニ報告シ指揮ヲ得テ相當ノ保護ヲ加フヘシ

八　諸興行場取締ハ成規ノ手續ニ依ルハ勿論觀客多キ際ハ棧敷ノ崩墜火災ノ危險ニ注意シ且ツ雜沓ノ節ハ殊ニ老幼婦女ニ保護ヲ與フヘシ

九　祭典賑等ノ取締ハ雜沓其他酔狂人等ヲ制止防護シ殊ニ老幼婦女ハ厚ク保護ヲ加ヘ且盜偷掏摸ニ注意スヘシ

十　黴毒檢査取締ハ成規ノ手續ニ依ルハ勿論猥褻ノ所爲ニ注意シ且娼妓ニシテ檢査ヲ拒ム等ノ所爲アルトキハ穩カニ檢査ノ主旨ヲ諭シ不都合ナキ樣注意スヘシ

十一　屠畜場及斃獸捨場臨檢ハ成規ノ手續ニ依ルハ勿論第一衞生上ノ取締ヲ必要トスルモノナレハ汚穢物ヲ散亂シ或ハ埋却燒棄等ノ不行屆アルトキハ其管理者（屠畜場ニ於テハ其管業者斃獸捨場ニ係ルモノハ區戸長又ハ其總代人）ニ通知シ不取締ナキヲ要スヘシ

十二　被監視人ノ監視票ニ認印ヲ與フルトキハ特ニ所屬署長ノ命令アルニアラサレハ之レヲ爲スヘカラス又其認印ヲ與フルトキハ必ス制服ヲ著シ始終嚴正ヲ旨トスヘシ

十三　書類ヲ受付クルニハ豫テ成規ノ手續ヲ熟知シ若シ其書面不明瞭ノ廉アルカ又ハ誤謬等アルトキハ持參人ニ質シ若シ本人文字ニ疎キモノナルトキハ事ニ害ナキモノハ正誤ヲ加ヘ本人ノ認印又ハ拇印ヲ要シ可成人民ノ往復等ニ迷惑セサル樣注意ヲ加フヘシ

十四　書類其他所屬署ニ送致スル物件ハ其緩急ヲ見計ヒ費用ヲ要セサル樣深ク注意スヘシ

十五　管區巡査ニ於テハ人民受領スヘカラサル願屆書等ヲ持參シタルモノアル時ハ其旨ヲ懇諭シ相當官衙ヲ指示スル等其方向ニ迷ハシメサル樣注意ヲ加フヘシ

十六　平素受持部內百般ノ事情ニ通曉スルコトヲ勉メ臨時實地檢査其他取扱事項及臨檢取調等ノ指命ヲ受ケタルトキハ速カニ之ヲ結了シ須臾モ淹滯セサル樣豫テ心掛アルヘシ

十七　管區巡査ハ民情風俗人口戶數山川原野ノ形狀農工商業ノ景況區內各所ノ道路里程交通運輸ノ便否等ハ暗記ヲ要ス可キモノナレハ日夜精心ヲ凝ラシ以テ其事ヲ務ムヘシ

十八　遺失紛失流失沈沒物ノ屆ヲ受付ケタルトキハ物件ノ種類員數日時場所及其當時ノ情況等ヲ調査シ若シ書面ニ遺漏ノ廉アルトキハ詳細聞取リ後日ノ考證トナルヘキ事項ハ簡明ニ記載シ屆書ニ添付スヘシ

但寄託ノ物品ニ係ルトキハ本人前後ノ擧動ニ注意シ若シ異狀アリト認ムルトキハ速ニ所屬署長ニ申報スヘシ

十九　逸走畜類ノ屆ヲ受付タルトキハ毛色其他搜索ニ便ナル事柄ハ一一聞取リ後日參考ノ爲メ日誌ニ記載シ置クヘシ

二十　出火屆ヲ受付タルトキハ發火ノ日時場所及其模樣等詳細ニ聞取リ若シ放火等ニ起因スルモノト認ムルトキハ直チニ現場ニ臨ミ犯罪ノ證據トナルヘキモノハ可成現體ヲ散失セサル樣便宜取締ヲナスヘシ勿論尙其ノ犯人ノ搜査ニ熱心注意シ一面所屬署長ニ申報スヘシ

二十一　變死傷屆ヲ受付タルトキハ要スルニ至急處分ニ係ルモノナレハ先其現場ノ模樣ヲ屆書持參人ニ聞取リ若シ犯罪等ノ疑ヒアルトキハ直チニ現場ニ臨ミ死體ハ勿論其他證據トナルヘキモノハ一切現體變セサル樣便宜取締ヲナスヘシ勿論尙其犯人ノ搜査ニ注意シ一面所屬署長ニ申報スヘシ

二十二　傳染病屆ヲ受付タルトキハ其病狀及隔離法汚穢物取片付方ノ模樣ヲ詳細ニ聞取リ若不行屆ノ廉アルトキハ相當ノ手續ヲ示スヘシ尤モ虎列刺病發生ニ係ルトキハ一面所屬署ニ急報シ一面現場ニ臨ミ他ニ傳播ノ憂ヒナキ樣相當ノ所置ヲナスヘシ

二十三　棄兒ノ屆ヲ受付タルトキハ其模樣ニ依リ一時飢寒ノ憂ヒナキ樣相當ノ手當ヲ爲シ速カニ其地戶長ニ引渡シ一面其旨所屬署長ニ申報シ且兒體ニ添附スル物品等ハ散失セサル樣注意スヘシ

二十四　迷兒ノ屆ヲ受付タルトキハ其身元分明ナルモノニシテ近傍ナルトキハ直チニ連レ行キ父兄ニ對シ將來ヲ戒諭シ引渡スヘシ若シ身元不明ナルカ又ハ遠隔ノ地ナルトキハ一時飢寒ノ憂ヒナキ樣相當ノ手當ヲナシ速カニ其地ノ戶長ニ引渡シ一面所屬署長ニ申報スヘシ

二十五　盜難屆ヲ受付タルトキハ其被害ノ模樣等書面ニ盡ササル廉アラハ逐一聞取リ事重要ニ係ルモノト認ムルトキハ現場ニ臨ミ詳細取調若シ犯罪ノ證據トナルヘキモノアルトキハ一切散失セサル樣便宜取締ヲナシ尙ホ犯人ノ搜査ニ注意ヲ加ヘ一面所屬署長ニ申報

スヘシ

二十六　管區巡査ノ宿所ハ常ニ之ヲ清潔ニシ且家屋ハ可成見苦シカラサル簡處ヲ撰ヒ居住スヘシ

二十七　隣區ニ火災其他非常ノ事變アルヲ確知シタルトキハ直ニ駈付ケ相當ノ防護ヲ加ヘ所屬署長ニ申報スヘシ

但其地受持巡査ニ於テ申報ノ手續ヲ爲シタルトキハ別ニ申報スルヲ要セス

二十八　日誌ニ記載ノ事項ハ文ノ冗長ヲ省キ簡明ヲ主トス筆頭ノ欄外ニ出テ又ハ書損等ナキ樣注意スヘシ

二十九　所屬署ニ出頭シタルトキハ必ラス受持區內人民ノ動靜取扱事務ノ模樣ヲ逐一所屬署長〔不在ノトキハ上席員〕ニ具申シ其他職務上取扱手續等不案內ノ廉ハ可成訓授ヲ受ケ事ニ臨テ不都合ナキヲ務ムヘシ

第五條　携帶品取扱心得方ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

一　携帶品トハ劍、捕繩、呼子笛、手帖、硝子燈又ハ提燈ヲ云フ

二　職務ニ就クトキハ必ラス劍、捕繩、呼子笛、手帖ヲ携帶シ夜間ハ通常硝子燈ヲ用ヒ旅舍檢及興行祭典取締出火其他非常ノ際ハ可成提灯ヲ携帶ス可シ

但事機緊急ノ場合ハ提燈セサルモ苦シカラス

三　携帶品ハ大切ニ取扱フハ勿論臨機ノ場合差支ナキ樣常ニ注意ヲ加フヘシ

四　手帖ハ職務ヲ證スルノ一具タルヲ以テ假令私用他行中ト雖ヒ之ヲ携帶シ非常ノ用ニ供スルハ勿論警察上ノ關係事故ハ一一書留點檢ニ供ス可シ

○明治二十四年九月九日北海道廳訓第百七號（警部部內一般宛）

巡査訓授規則左ノ通定ム

巡査訓授規則

第一條　警察署長分署長ハ所屬巡査ヲシテ實務ニ習熟セシムル爲警察上緊要ナル條件ヲ訓授ス可シ

但署長不在又ハ事故アルトキハ其代理者之ヲ行フ

第二條　訓授ハ警察署又分署內便宜ノ場所ニ於テ行フ者トス

第三條　警察署分署所在地巡査ノ訓授ハ每朝點檢後直ニ施行シ駐在巡査ノ訓授ハ監督官巡回ノ際之ヲ施行ス

第四條　訓授時間ハ出署時限ヨリ三十分乃至二時間トス

第五條　訓授ハ左ノ條項ヲ標準トシ可成實際ノ取扱方法ヲ說示スヘシ

但訓授シタル條項ハ後會ニ於テ便宜質問ヲ爲シ其記憶スルヤ否ヲ試ムヘシ

一　警察事務ノ要旨

一　巡邏查察ノ際最モ注意スヘキ要項

一　行狀心得ノ事

一　戸口調査ノ事
一　帶劍心得ノ要項
一　取締規則中緊要ナル條項
一　警察ニ關スル法律命令告達中緊要ナル條件
一　集會條例及之ニ關スル緊要ノ條項
一　嘯聚暴動及群集喧噪ノ警防方心得
一　傳染病豫防規則中ノ要領及檢疫心得
一　藥品取締規出及之ニ關スル緊要ノ條項
一　爆發物取締罰則ノ要項
一　火藥取締規則中緊要ノ條項
一　銃砲取締規則中ノ要項
一　古物商及質屋取締條例並其細則中緊要ノ條項
一　出版條例寫眞條例新聞紙條例中緊要ノ條項
一　度量衡取締規則中ノ要項
一　諸印紙稅則中緊要ノ條項
一　鳥獸獵規則中ノ要項
一　墓地及埋葬取締規則中ノ要項

一　水火風震等ノ變災ニ關スル心得方要項
一　人命急變救援方心得
一　難破船及漂流物取扱規則緊要ノ條項
一　遺失物取扱規則中ノ要項
一　刑事訴訟法中巡査ニ必要ナル條項
一　刑法中最モ注意ヲ要スヘキ條項
一　教會講社祭典葬儀等取締方ノ要項

第六條　受訓者ハ說示若クハ說明ニ對シ了解セサル廉ハ三回マテ其意ヲ質問スルコトヲ得ヘシ若シ質問冗長ニ流ルルカ或ハ議論体ニ涉ルト認ムルトキハ訓授官ハ其發言ヲ差止ムルコトアルヘシ

第七條　訓授シタル事項ハ左表ニ摘載シ警部長巡閱又ハ警部巡視ノ際其檢閱ニ供スヘシ（二十五年八月訓第二百號ヲ以テ「摘載シ」ノ下本文ノ通改正）

第八條　受訓者ノ席順ハ警察署長又ハ分署長ニ於テ豫メ定メ置クヘシ

第九條　受訓者ハ訓授時間前ニ著席シ訓授官入場ノ節行禮スヘシ

第十條　訓授場ニ於テハ姿勢ヲ正シ私語談笑喫煙其他苟クモ怠慢非禮ニ涉ルノ擧動ヲ爲スヘカラス

第十一條　訓授中ハ猥リニ退場ス可カラス

第十二條　訓授官ニ對シ言語ヲ發セントスルトキ著床ヲ許可セラレタル場合ハ起立整列シタル場合ハ列中一歩ヲ進ム可シ

（表式ハ略ス）

○明治二十七年五月二十一日北海道廳訓第百八十二號（警察署同分署宛）

明治二十四年九月當廳訓第九十七號巡査點檢規則左ノ通リ改定ス

但シ從前ノ令達ニシテ本文ニ抵觸スルモノハ自今廢止ス（二十四年訓第九十七號及二十五年訓第百三號警察職務規程第五章第三節第四十六條ヲ指ス）

巡査點檢規則

第一條　點檢ハ巡査ノ人員服裝姿勢禮式及官給品保行ノ適否ヲ檢査スルモノトス

第二條　點檢ヲ別チテ通常點檢臨時點檢トス

第三條　點檢ハ署長之ヲ行フ署長不在ナルトキハ警部警部不在ナルトキハ巡査部長之ヲ代理スヘシ

通常點檢

第四條　通常點檢ハ當日當番ノ巡査ニ對シ毎朝之ヲ施行スルモノトス

駐在所巡査ニ對シテハ參集シタル日之ヲ行ヒ又監督巡視ノ際左ノ各條ヲ斟酌シテ適宜之ヲ行フヘシ

第五條　嚮導ハ巡査部長ヲ以テ之ヲ充ツヘシ巡査部長差支アルトキハ上席巡査ヲシテ之ニ代ラシムヘシ

嚮導ハ各列ノ右翼ニ置クヘシ巡査部長餘員アルトキハ左翼ニモ之ヲ置クヘシ

第六條　署長ハ定刻ニ至レハ一定ノ合圖（呼子笛ヲ用フ）ヲ以テ各巡査ヲ點檢場ニ參集セシムヘシ

第七條　前條ノ合圖アリタルトキハ嚮導先ツ列ノ右翼トナルヘキ位置ニ立チ左翼ノ嚮導アルトキハ巡査整列ノ後其位置ニ就クヘシ

第八條　警部及嚮導ニ當ラサル巡査部長ハ列ノ背後三歩ノ位置ニ參列スヘシ

第九條　列ハ二列トス但シ人員若クハ場所ノ都合ニ依リ一列ト爲スコトヲ得

列ノ順位ハ身幹ノ長短ニ依リ長キヲ上位トシテ豫メ之ヲ定メ置クヘシ

第十條　各巡査ハ遲滯ナク參集シ嚮導ニ準ヒ豫定ノ順序ニ依リ嚴肅ニ整列スヘシ

第十一條　點檢ヲ受クヘキ屬具ハ巡査服裝姿勢心得ニ依リ携帶スヘキハ勿論ナリト雖モ遺忘セサル樣注意スヘシ

第十二條　署長ハ列ノ前面中央ニ立チ號令ヲ以テ點檢ノ準備ヲ爲スヘシ

第十三條　號令ハ可成簡明快活ニシテ豫令動令ノ區分ヲ明瞭ナラシムヘシ

第十四條　嚮導ハ號令ニ應シ自ラ標準トナリテ列員ヲ整頓スヘシ

第十五條　點檢準備ノ號令ハ左ノ順序ニ依ルヘシ

一「氣ヲ付ケー」

此令ニテ整列シタル巡査ハ直立不動ノ姿勢ヲ爲シ兩手ヲズボンノ縫目ノ處ニ垂レ直向嚴肅兩眼ヲ凡ソ二十歩前ノ正面ニ注クヘシ

二　「番號」

此令ニテ第一列員ノミ其右首ヨリ番號ヲ唱ヘ左尾ニ至ル第二列員ハ常ニ第一列員ノ背後ニ正シクアルヘシ

三　「右ヘ準ヘ」

此令ニテ列員ハ姿勢ヲ崩スコトナク左手ヲ垂下シ右手ヲ握リ手ノ甲ヲ前ニシテ拳ヲ革帶ニ當テ肘ヲ側方ニ張リ右臂ヲ以テ輕ク隣員ノ左肘ニ觸レシメ同時ニ頭ヲ右斜ニシ右眼ヲ以テ其隣員ヲ目視スヘシ

列員不整頓ナルトキハ列首ニアル嚮導(何番後ヘ又ハ前ヘ)ノ令ヲ下シテ列ヲ正スヘシ

「直レ」

此令ニテ列員ハ頭ヲ正面ニシ右手ヲ垂下スヘシ

四　「後列開ケー」

此令ニテ後列ノ嚮導ハ四歩後ヘ退歩直立シ開列ノ標準ヲ示スヘシ

嚮導一人ニテ前列ニアル場合ハ五歩退歩シ開列ノ標準ヲ示スヘシ

「進メー」

此令ニテ後列員ハ頭ヲ右斜ニ向ケ右翼ニ準シ一齊ニ四歩後ヘ開列スヘシ

列員ノ整頓スルヲ見テ左ノ令ヲ下スヘシ

「直レ」

此令ニテ後列員ハ頭ヲ正面ニスヘシ

五　「嚮導一歩前ヘ」

此令ニテ前列後列ニ在ル嚮導ハ巡査携帶品ノ出收ヲ檢スル爲メ一歩前ニ進ミ斜ニ列ニ向テ直立スヘシ

第十六條　準備終レハ左ノ順序ニ依リ署長號令ヲ嚮導檢視スヘシ但シ嚮導ハ其出收スル携帶品ノ確認シ難キトキハ列員ヲ通過シテ之ヲ檢視スヘシ

一　「手帖」

此令ハ手帖及名刺ノ檢視ニ用フ此令ニテ各手帖ノ印章及名刺ヲ現ハシ肘ヲ體ニ付ケ前ニ出スヘシ

「收メー」ノ令ニテ元ノ如ク收ムヘシ

二　「捕繩」

此令ニテ各捕繩ヲ出スヘシ其法同上但シ時宜ニ依リ繩ヲ解カシムルコトアルヘシ

「收メー」ノ令ニテ元ノ如ク收ムヘシ

三　「呼子笛」

此令ニテ呼子笛ヲ出スヘシ其法同上但シ時宜ニ依リ發音セシムルコトアルヘシ

「收メー」ノ令ニテ元ノ如ク收ムヘシ

四　「脫帽」

四　此令ハ頭髮ノ檢視ニ用フ此令ニテ各右手ニ帽ノ前庇ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ帽ノ內部ヲ右股ニ對スヘシ

「冠レ」ノ令ニテ元ノ如ク冠ルヘシ

五　「嚮導元ヘ」

此令ニテ嚮導ハ一旦右ニ向キ退歩シテ元位ニ復スヘシ

嚮導元ヘノ令終ラハ署長ハ右翼ノ前面ヨリ後面ニ至ル迄順次服裝其他ノ整否ヲ檢視スヘシ

六　「禮式」

此令ニテ總員一齊ニ敬禮ヲ行フヘシ

七　「後列詰メ進メー」

此令ニテ後列ハ一齊ニ閉列スヘシ

八　右「左」向ケー右「左」

此令ニテ嚮導ヲ始メ一同體ヲ右「左」側面ニ直スヘシ

九　「分レ」

此令ニテ解散スヘシ

第十七條　通常點檢ノ場合ト雖モ禮式及刀身ノ點檢ハ隨時之ヲ行フコトヲ得

但シ本文ノ場合禮式ハ署長ニ於テ適宜之ヲ行ハシムヘシト雖モ刀身ノ點檢ハ左ノ順序ニ依リ署長號令シ嚮導檢視スヘシ

一　「拔ケー」

此令ニテ姿勢ヲ崩スコトナク左手ヲ以テ鞘ノ上部ヲ持チ頭ヲ左方ニ傾ケ眼ヲ鞘口ニ注キ右手ヲ以テ刀柄ヲ握リ拔ク中下凡ソ三寸タルヘシ

「劍」

此令ニテ全ク拔放ツト同時ニ頭ヲ正面ニ復シ刀背ヲ肩ニシ肘ヲ體ニ著ケ左手ヲ垂下スヘシ

二　「收メー」

此令ニテ劍ヲ面前ニ移シ左手ヲ以テ鞘口ヲ前ニ出シ頭ヲ稍左方ニ傾ケ眼ヲ鞘口ニ注クト同時ニ切先キ凡三寸ヲ鞘ニ差入ルヘシ

「劍」

此令ニテ全ク鞘ニ收メ頭ヲ正面ニ復スト同時ニ兩手ヲ垂下スヘシ

第十八條　點檢ヲ受クヘキ巡査三名以下ナルトキハ署長其席ニ召集シ前數條ヲ斟酌シ適宜點檢ヲ行フコトヲ得

臨時點檢

第十九條　臨時點檢ハ禮式ヲ檢閲シ官給品ノ保存及代價ヲ以テ給與スル物品ノ適否並刀身ヲ適宜檢視スルモノトス

第二十條　臨時點檢ハ毎月一回非番ノ際之ヲ行フモノトス

但シ必要アルトキハ其時時之ヲ行フ駐在所巡査ニ對シテハ禮式ハ參集シタル日其他ノ點檢ハ

監督巡視ノ際之ヲ行フヘシ

第二十一條　禮式ノ點檢ハ適宜ノ方法ヲ以テ警察禮式ニ依リ種類ヲ指示シ署長ノ面前ニ於テ其式ヲ爲サシムヘシ

第二十二條　物品ノ點檢ハ豫メ受檢ノ場所及其順序ヲ示シ混雜ナカラシムヘシ

○明治二十四年十月十五日北海道廳訓第百四十二號（警察署長宛）

分署長心得巡査ハ明治十四年十月司法省丙第十三號達ニ依リ警部ノ代理ヲ爲サシムヘシ

○明治二十四年十一月二日北海道廳訓第百五十六號（警察署長、警察分署長宛）

高等警察事務上不得止場合ニ於テ分署長心得巡査ハ警部ノ代理ヲ爲スヲ得

○明治二十五年十二月十七日北海道廳訓第三百號（警察部、警察署宛）

警察部及各警察署非常用旗高張提灯左ノ雛形ノ通相定ム（雛形ハ略ス）

○明治二十五年八月十二日北海道廳訓第百九十四號（警察本分署長宛）

從來警察署分署ニ於テ民事ニ類スル訴願等ヲ受理說諭ヲ爲シ居タル向モ有之哉ニ候處自今右等ノ出願者アリタルトキハ警察署分署ニ於テ取扱フヘキモノニ無之旨ヲ指示シ受理セサル樣致スヘシ

○明治三十年十月九日北海道廳訓第二百二十三號（警察署長同分署宛）

警察分署ニハ何警察署何分署長之印ト彫刻セル方六分ノ職印ヲ備ヘ行政警察上分署長ノ名ヲ以テ發スヘキ文書ニ限リ押捺スヘシ

○明治二十七年三月二十九日北海道廳訓第百九號

（警察本分署歲入歲出外現金出納郡役所戶長役場該出納官吏ニ於テ取扱ノ件第八類雜款ノ部ニ出）

○明治三十一年七月十九日北海道廳訓令第三十六號（警察署宛）

警察署所屬不用物品ノ處分ヲ署長ニ委任ス

○職員

○明治三十年六月一日北海道廳訓第百九號（警察署宛）

巡査定員別表ノ通リ改定ス

警察署巡査定員表

警察署名	分署名	巡査派出所數	巡査駐在所數	巡査 分署長	巡査 巡査教習所助教	巡査 巡査部長	巡査 內勤	巡査 水上警察	巡査 外勤	巡査 道廳工事取締	巡査 公廷取締	巡査 豫備	巡査 計	合計	漁業取締
札幌	直轄	四	一二	一	一	四	四	四	六		二	四	六	七八	自二月至九月 二
	江別		四						五						
	石狩		二						三				六		
	厚田		二						三				三		
	茂生		二						三				三		
函館	直轄	一四		一	一	六	六	一四	九〇		三	八	一二八		自十月至一月 六
	直轄		五			二	二	二	七			二	一三		
	龜田		四			二	二	二	一〇			一	一一		
	戶井		三						四				四		
	上磯		三						四				五		

署	分署											計	署計	期間
七飯	木古內		二	一				三				四	五二	自二月至九月 二
	森		四	一				五				六		
	八雲		一	一				二				三		
	長万部		一	一				二				三		
	臼尻		一	一				二				三		
福山	直轄		二		二	二		九		一	一	一五	二〇	自二月至九月 二
	福島		一	一				二				三		
	江良町			一				一				二		
江差	直轄		六		二	三	四	一七		一	二	二九	四九	自十月至十一月 三 / 自二月至九月 三
	乙部		三	一				四				五		
	熊石		二	一				三				四		
	久遠		二	一				三				四		
	瀬棚		三	一				四				五		
	奥尻		一	一				一				二		
壽都	直轄		三		二	二		四		一	一	一〇	二三	自十月至十一月 二 / 自二月至九月 二
	永豊		三	一				四				五		
	歌棄		二	一				三				四		
	磯谷		二	一				三				四		
岩內	直轄		四		二	二		七		一	一	一三	一九	自十月至十一月 一 / 自二月至九月 二
	古宇		二	一				二				三		
	神惠內		一	一				二				三		
小樽	直轄	三	五		六	四	六	三七		一	四	五八	七五	自二月至九月 二
	余市		五		一			八				九		
	古平		六					八				八		
岩見澤	直轄		九		三	二		一三			三	一八	三八	
	市來知		四	一				五				六		
	月形		二	一				二				三		
	瀧川		九					一二				一二		
旭川	直轄		四		二	二		六	一四		一	二五	二五	
増毛	直轄		三		二	二		六		一	一	一二	二六	自二月至九月 二
	留萌		一	一				二				三		
	鬼鹿		一	一				二				三		
	苫前		三	一				四				五		
	燒尻		一	一				二				三		
室蘭	直轄		三		二	二	四	五			一	一四	三一	自二月至九月 二 / 自十月至十一月 二
	有珠		七	一				九				一〇		
	勇拂		四	一				六				七		
浦河	直轄		一		二	二		三		一	一	九	二六	自二月至九月 二 / 自十月至十一月 四
	門別		二	一				三				四		
	下下方		三	一				四				五		
	姨布		一	一				一				二		
	樣似		一	一				一				二		
	幌泉		二	一				三				四		
下帶廣	直轄		一		二	二		二			一	七	一三	自二月至九月 二 / 自十月至十一月 三
	大津		二	一				三				四		
	茂寄		一	一				一				二		
釧路	直轄		四		二	二		八		一	一	一四	二八	自二月至九月 三 / 自十月至十一月 二
	厚岸		二		一			四		一		六		
	霧多布		二	一				四				五		
	熊牛		一	一				二				三		
根室	直轄	一	四		二	二	四	一六		二	二	二九	四二	自二月至九月 四 / 自十月至十一月 一〇
	別海		一	一				一				二		
	標津		二	一				四				五		
	國後		三	一				五				六		

合計	網走 直轄	網走 斜里	網走 常呂	網走 紋別	宗谷 直轄	宗谷 枝幸	宗谷 香深	宗谷 鬼脇	宗谷 鴛泊	紗那 直轄	紗那 留別	紗那 蘂取
三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一八四	—	—	一	二	二	—	一	一	二	二	二	二
四八	—	一	—	—	—	二	—	—	二	—	—	—
二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
五四	二	—	—	—	二	—	一	一	—	二	—	—
四八	二	—	—	—	二	—	—	—	—	二	—	—
三三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
四七七	二	二	二	三	五	二	三	三	三	二	三	二
一四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一七	—	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—
三六	一	—	—	—	一	—	—	—	—	一	—	—
七三八	七	三	三	四	一二	三	四	四	四	七	三	二
七二八	一七				二六					二二		
自二月至九月 四三 自十月至一月 四三	自二月至九月 四		自十月至一月 六		自二月至九月 五					自二月至九月 四		自十月至一月 四

一　分署長心得巡査ニシテ巡査部長タルノ資格アル者ハ総テ巡査部長トナス

○明治三十一年三月十九日北海道廳訓第九十號警察部、警察署宛

巡査部長登用內規左ノ通定ム

但第一次ノ試驗ヲ施行スル迄ハ便宜ノ方法ニ依リ登用ス

巡査部長登用內規

第一條　巡査部長ヲ登用スルニハ警察署長ノ推薦ニ依リ更ニ學術技能ノ試驗ヲ行フモノトス

第二條　警察署長ハ部下ノ巡査ニ就キ巡査部長ニ適任ト認ムヘキ者ヲ撰擇シ左ノ各項ヲ詳具シ推薦書ヲ作リ警部長ニ進達スヘシ

一　學事及職務履歴ノ要領

二　服務ノ摸樣

三　性質行狀

四　技能

五　禮式姿勢服裝

六　同僚及家族ノ和否

七　前各項ノ外巡査部長ニ適任ト認ムル事實

第三條　推薦スヘキ者二人以上ナルトキハ其順序ヲ明記スヘシ

第四條　推薦書進達期日ハ警部長隨時之ヲ定ム

第五條　警部長ハ推薦書ニ就キ巡査部長ニ適任ト認ムヘキ者ヲ詮査シ左ノ試驗ヲ行フヘシ

一　憲法及行政法ノ大意

二　刑法及刑事訴訟法

三　警察法規

四　作文

五　點檢及操練

第六條　警部長ハ學術技能試驗ノ成績ヲ詮査シ其及第優劣ヲ判定スヘシ

第七條　試驗ニ及第シタル者ハ巡査部長候補者名簿ニ登録スヘシ其順序ハ試驗ノ成績ニ依ル成績

同等ナル者ハ官等席次ニ依ル

第八條　巡査部長ノ登用ハ候補者名簿ノ順序ニ依ル

第九條　巡査部長候補者ハ名簿ニ登錄シタルトキヨリ滿二箇年ヲ經過スレハ其資格ヲ失フモノトス

但警察署長ノ推薦ニ依リ再ヒ試驗ヲ受クル事ヲ得

○明治三十六年四月十五日北海道廳告示第三十一號

明治二十五年四月當廳告示第二十九號巡査配置請願手續左ノ通改正ス

巡査配置請願手續

第一條　一町村又ハ數町村聯合若クハ一人又ハ數人聯合シテ巡査配置請願セントスルモノハ其理由及巡査ノ員數配置ノ場所等ヲ詳記シ所轄警察官署ヲ經テ當廳ヘ出願許可ヲ受クヘシ

第二條　請願巡査期間六箇月以上ニアラサレハ之ヲ許サス

但シ漁業取締等ニシテ其季節アルモノニ限リ六箇月未滿ト雖トモ特ニ許可スル事アルヘシ

第三條　滿期後猶ホ繼續配置ヲ請願セントスルトキ若クハ其期間中途ニシテ廢止セントスルモノハ一箇月前所轄警察官署ヲ經テ當廳ヘ出願許可ヲ受クヘシ

第四條　配置ノ許可ヲ受ケタルトキハ巡査派出所ヲ設クヘシ其構造及之ニ屬スル備品等ハ總テ所轄警察官署ノ指揮ヲ受クヘシ

第五條　配置請願者ハ巡査一人ニ付其費用トシテ一箇年金百六拾參圓六拾錢ノ月割ヲ以テ前月二十五日限リ納付スヘシ

警部補ハ明治四十年勅令第二百八十一號ニ依リ北海道廳官制改正ノ結果廢止セラル

但シ一箇月未滿ノ場合ハ日割ヲ以テ納ムヘシ

第六條　前條ノ費用前納セサルトキハ許可ノ効力ヲ停止スル事アルヘシ

○明治二十三年四月二十三日北海道廳訓令第三十六號警察巡査配置ノ件

巡査勤務上ノ監督ヲ補助セシムル爲メ巡査部長ノ職ヲ置キ月俸拾圓以上ノ巡査ヲ以テ之レニ充ツルコトヲ得

巡査部長ハ巡査ノ上班トシ警部補ニ亞クノ待遇ヲ受クルモノトス

巡査部長ハ上衣並外套ノ左腕ニ左ノ雛形ノ徽章ヲ付スヘシ

（ハ緋）

製式　方一寸ノ白絨ニ幅一分五厘ノ緋絨ヲ以テ之レニ縫著ス

○明治二十三年十月七日北海道廳訓令第警察巡査部長ノ外套ハ其錄日章卸ヲ附著スルヲ得

○明治二十四年十月十三日北海道廳訓第百三十九號警察部內一般警察賞與具申心得左ノ通定ム

警察賞與具申心得

第一條　警部其他警察事務ニ從事スル者及一般人民ニシテ警察上功勞アル者ハ別紙樣式ニ準據シ

關係書類ヲ添ヘ具申スヘシ

第二條　警部其他警察事務ニ從事スル者ノ賞與ハ其所屬長ヨリ具申スヘシ但甲乙署相牽連スルモノハ各所屬長連署ヲ以テ具申スヘシ

第三條　功勞者二名以上ニシテ等差アリト認ムルトキハ其區別ニ依リ其人名ノ上ニ甲乙丙丁等ヲ朱記スヘシ其著シキ懸隔アルモノハ乙丙ヲ省キ甲丁等ト記スヘシ

第四條　明治十四年十二月第六十三號布告褒章條例ニ係ル人命救助ノ件ハ左ノ項目其他實況ヲ詳記スヘシ但水上外ニ係ル人命救助ノ件モ亦之ニ準據スヘシ

一　本籍寄留共ニ其住所身分官位勳爵姓名

一　受賞受刑ノ有無（賞刑共其全文ヲ記スヘシ）

一　救人ニテ救助セシ場合ニ於テハ其内最率先盡力ノ者ヨリ以下功勞ノ甲乙區別

一　水上ノ救助ナルトキハ游泳シテ其所ニ到リシヤ又ハ船筏或ハ助綱等ヲ以テセシヤ其手段

一　被救助者ト救助者トノ船又ハ陸トノ距離及ヒ河海ノ淺深廣狹水勢ノ緩急等

第五條　警察賞與具申書ニハ左ノ各項ノ書類ヲ添フヘシ

一　功勞者ノ始末書（實況手段ノ詳細竝助力者アレハ其姓名及場合ニヨリテハ診斷書ヲ添附スヘシ）

一　被害者被救助者等ノ始末書（實況ノ詳細場合ニヨリテハ診斷書ヲ添附スヘシ）

一　罪犯口供ノ要領

一　檢證調書意見書又ハ刑名宣告書ノ寫

一　出火消止ノ件ハ其燒燬ノ圖面（戸數及燒點ノ詳細消止人ト出火場ノ距離）

第六條　同上具申書ニハ左ノ各項ヲ取調附記スヘシ

一　罪犯判決前ニ逃走又ハ死去セシトキハ其事由

一　賞與具申ノ當時其罪犯判決前ナルヤ否ノ事

一　一般人民ノ功勞者ニ在テハ公權ヲ剝奪セラレタル者ナルヤ否ノ事

一　功營者被害者ト利害ヲ共ニスルヤ否ノ事

一　功勞者其罪犯ト親屬ニ係ルヤ否ノ事

（書式）

警察署賞與具申書

	署名官姓名	年齢	姓名
甲			
乙或ハ丙	同		
丁	同		

右ノ者賞スヘキ功績又ハ何ヲ訴出タルニ起因シ容易ニ捕獲セシメタル等ノ詳細ヲ記スヘシ依テ相當ノ御賞與相成度別紙書類相添此段具申候也

何郡區町村番地士族平民
當時何郡區町村番地寄留
姓名

年　月　日　　長官宛　　署長官姓名印

（書式）

犯罪人捕獲始末書（兩名以上各通ニ作ルヘシ）

住所身分
姓名

何何犯

右ノ者何何ノ所業有之趣ヲ以テ何年何月何日探偵ノ命ヲ受ケ其擧動ヲ探偵スルニ（探偵捕獲ノ起因探偵ノ手續及手段模樣逐一日付等ヲ以テ詳記スヘシ）拒捕シタルトキハ刃物等ノ種類其他兇暴ノ狀ヲ詳記スヘシ）云云何月何日午前後何時何所ニ於テ逮捕候云云

右始末上申候也

年　月　日　　署長宛　　署名官姓名印

（書式）

火災消止始末書

何年何月何日午前後何時巡行中何所ニ罷在候處管內外何郡區町村番地何某方ヨリ發火スルヲ認メ（或ハ何某ノ報告ニ因リ）直ニ馳付盡力消止候（當時風ノ有無消止タル手段助力者アレハ其姓名ヲ記スヘシ）右發火ノ原因ハ何何（其起因並實況ヲ記スヘシ）ニシテ何所何品何逸ニテ別紙圖面ノ通燒燬致候

右始末上申候也

年　月　日　　署長宛　　署名官姓名印

（書式）

人命救助始末書

何年何月何日午前後何時巡行中或ハ何所ニ罷在候處管內外何郡區何町村番地先何川堀ヘ陷溺（又ハ投身候者有之ヲ認メ）（又ハ何某ノ報告ニヨリ）直ニ馳付盡力救援候（河海ノ淺深廣狹水勢ノ緩急本人疵所ノ有無又ハ救援セシ手段助力者アレハ其姓名等詳記スヘシ）右陷溺又ハ投身ノ者ハ何郡區何町村何番地族籍何ノ誰（父母兄弟妻子等年齡）ナル者ニ有之其宿所或ハ何所ヘ連行引渡シ（直又ハ自ラ皆負タル等ノヲ記スヘシ）候云云

右始末上申候也

年　月　日　　署長宛　　署名官姓名印

一般人民ニシテ現行罪犯ヲ捕獲シ又ハ容易ニ捕獲スルヲ得セシメタル者其他警察上功勞アルモノ賞與具申書及始末書モ亦此書式ヲ標準トシ記載スルモノトス

○明治二十五年九月二十日北海道廳訓第二百十九號（警察部警察分署宛）

巡査懲罰取扱心得左ノ通相定ム

巡査懲罰取扱心得

第一條　巡査職務上ノ規則ニ違背シ及ヒ怠慢失誤アリテ待罪書ヲ徵スルトキハ別紙第一號書式ニ依ラシムヘシ若シ共犯アルモ連署セシムルコトヲ得ス

第二條　待罪書ハ規則違背又ハ怠慢失誤ナルコトヲ自覺シ或ハ待罪スヘキヲ諭サレタル日ヨリ三日以内ニ差出サシムヘシ

第三條　警部又ハ巡査部長ニ於テ所屬員ニアラサル巡査ノ犯則アルヲ認メタル時ハ一應其事實ヲ取糺シ速ニ當該署長ニ申告スヘシ

第四條　懲罰ヲ具狀スルトキハ別紙第二號書式ニ照シ前罰ノ有無及ヒ其犯狀ヲ詳記シ處分方開申スヘシ

第五條　月俸百分ノ三十以下ノ罰金ヲ科セラレタルモノハ一箇月内ニ百分ノ三十一以上六十以下ノ者ハ二箇月内ニ百分ノ六十一以上全額ノモノハ三箇月内ニ徵收スヘシ

第六條　二箇月内ニ徵收スヘキ懲罰金ヲ科セラレタル者完納以前甲乙署ヘ交換スルトキハ當該者ニ赴任ノ官署ニ通牒シ其官署ニ於テ徵收スヘシ

第七條　懲罰金ニ處セラレタル巡査ノ氏名俸給及罰金額並ニ扣除ノ月數ハ其都度仕拂命令官ニ通知スヘシ

第八條　警察分署ニ於テハ其署長前各條ニ準據シ取調ヲ爲シ所屬警察署長ニ送致ス警察署長ハ本則第五條以下ノ例ニ照ラシテ處理スヘシ

第一號書式

待罪書

私儀何何云云（其犯狀ヲ詳記ス）依テ何分ノ御處分奉仰候也

明治何年何月何日

何警察署（何分署）詰

何級俸

巡査　氏　名　印

北海道廳長官宛

一　本書中挿入削除等ノ文字アルトキハ必ス其部ニ認印スヘシ

第二號書式

巡査懲罰具申

何警察署（何分署）詰

何級俸

巡査　何　某

一　懲罰ヲ處分ヲ受クシコトナシ

一　明治何年何月何日何何ニヨリ罰金何程ニ處セラル

何何

右何何ノ所爲有之別紙待罪書差出候ニ付事實取調フルニ何何其犯則ノ始末ヲ略記スト認定候條相當特ニ處分ノ意見ヲ具申セントスル者ハ其意見ヲ書ス ノ御處分相成度此段具申候也

明治何年　月　日

何警察署長
官　氏　名　印

北海道廳長官宛

一　其犯アリ既ニ免職又ハ免職具申中ナルモノハ其旨本文中ニ記入スヘシ

○明治二十七年四月二十四日北海道廳訓第百五十四號警察部、警察巡査服裝姿勢心得左ノ通リ相定ム同分署宛

巡査服裝姿勢心得

第一條　巡査勤務ニ就クトキハ以下各條ニ從ヒ服裝ヲ整ヘ姿勢ヲ正シクスヘシ

但シ上官ヨリ特命アル場合又ハ探偵ニ從事スルトキハ私服ヲ著用スルコトヲ得

第二條　制帽冠戴方ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

一　制帽ハ常ニ清潔ニシ徽章ハ鏽ヲ生セサル樣注意スヘシ

二　制帽ハ端正ニ冠戴シ偏倚セサル樣注意スヘシ

三　制帽ノ顎紐ハ必ス腮部ニ掛クヘシ

四　日覆ハ夏服著用期間雨天曇天ノ外盡間適宜著用スヘシ

五　日覆ノ垂布ハ帽ノ上ニ卷揚ケ又ハ內ニ折込ムヘカラス

第三條　服裝ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

一　被服屬具ハ常ニ丁寧ニ取扱ヒ破綻シタルトキハ速ニ補綴スル等見苦シカラサル樣注意スヘシ

二　肌著又ハ袴下ナクシテ服裝スヘカラス

三　下襟及手套ハ白色ノモノヲ用ヒ其襟ハ立襟ニシテ必ス「シャツ」襟ニ卸付スヘシ

四　上衣袴並ニ外套ノ卸ハ正シク之ヲ嵌ムヘシ

五　袴ノ釣具又ハ腹卷腰帶等ヲ外部ニ露ハスヘカラス

六　衣囊ニ私物ヲ納レ外部ヲ膨脹セシムヘカラス

七　呼子笛ニハ黑色ノ紐ヲ付シ之ヲ上衣右方最下端ノ卸裏ニ掛ケ上衣右方ノ衣囊ニ納ムヘシ

八　手帖ハ上衣左胸ノ衣囊ニ捕繩ハ袴右方ノ衣囊ニ納ムヘシ

九　外套ヲ著シタルトキハ呼子笛及捕繩ハ其右方ノ衣囊ニ納ムヘシ

十　時計ノ鎖紐其他私物ヲ外部ニ露ハスヘカラス

十一　上衣外套ノ袖ヲ折リ又ハ袴ノ裾ヲ折返スヘカラス

十二　外套ハ雨雪ノ際又ハ防寒ノ爲メ室外ニ於テ著用スルモノトス

但シ防寒ノ爲メ所屬署長ノ特許アルトキハ室內ニ於テ著用スルコトヲ得

十三　肩懸ハ雨雪ノ際外套ノ上ニ著用スヘシ

但シ時宜ニ依リ肩懸ノミヲ著用スルモ妨ケナシ

十四　頭巾ハ外套又ハ肩懸ニ附屬シテ著用スヘシ

十五　外套及肩懸ハ儀式祭典ノ場所及上官ノ居室内ニ於テ著用スヘカラス

十六　外套及肩懸ハ夏服著用期間ハ夜間ニ限リ降雨ノトキニアラサルモ著用スルコトヲ得

但シ所屬署長ノ特許アルトキハ此限ニアラス

十七　外套ヲ著用シタルトキハ室内ハ勿論室外ニ於テモ雨雪ノ外晝間ハ必ス其襟ヲ折ルヘシ

但シ嚴寒烈風ノ際又ハ村落巡回ノ場合ハ此限ニアラス

第四條　帶劍ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

一　劍及帶革ハ丁寧ニ取扱ヒ金屬部ハ常ニ研磨シ銹蝕セサル樣注意スヘシ

二　劍ヲ帶フルトキハ必ス柄頭ヲ左腹部ノ前面ニ向ケ不時ノ警戒ヲ怠ルヘカラス

三　帶革ハ上衣ノ下ニ締メ外套ヲ著用シタルトキハ其上ニ締ムヘシ

但シ雨雪ノ際ハ外套ノ下ニ締メ其柄頭ノミ外部ニ露ハスヘシ

第五條　穿靴方ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

一　靴ハ黑色革製ノ外用フヘカラス

二　靴ハ常ニ清潔ニ掃除シ光澤ヲ帶ハシムヘシ

三　靴下ナクシテ靴ヲ穿ツヘカラス

四　靴ハ長短ヲ問ハス袴下ニ穿ツヲ法トス

但シ長靴ハ袴上ニ穿ツモ妨ケナシ

五　長靴ノ引革ヲ外部ニ露ハスヘカラス

六　短靴ハ乾途ニ長靴ハ泥途ニ穿ツヘシ

七　村落巡回遠路出張等靴ヲ穿ツコトヲ得サルトキハ草鞋ヲ代用スルコトヲ得此場合ニ於テハ足袋脚絆ヲ用フヘシ

第六條　姿勢ニ付テハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ

一　頭髮ハ頂部ヲ凡ソ一寸五分頸部ヲ凡ソ五分ニ離リ可成此率ヲ超ユヘカラス

二　鬚髯ヲ蓄ヘサルモノハ屢屢加剃シテ見苦シカラサル樣注意スヘシ

三　如何ナル場合ト雖モ成規外ノ禮式ヲナスヘカラス

四　他人ト對話スルトキハ空手ナレハ之ヲ垂下スヘシ若シ椅子ニ倚ルトキハ仰向又ハ偏倚シ及兩手兩足ヲ交叉スル等ノ動作ヲナスヘカラス

五　休憩室ニアル場合ノ外衣囊ニ手指ヲ入ルヘカラス

六　行歩スル際ハ喫煙スヘカラス

七　如何ナル場合ト雖モ杖鞭又ハ手傘等ヲ携帶スヘカラス

八　眼鏡又ハ頸卷呼吸器等ヲ用フヘカラス

但シ眼病等ノ爲メ所屬署長ノ特許アルトキハ眼鏡ヲ用フルコトヲ得

第七條　勳章其他ノ記章佩用方ハ明治二十一年十一月勅令第七十六號及明治二十二年二月賞勳局告示

第一號ニ據ルヘシ

第八條　外套ヲ携帶スルニハ頭巾肩懸ヲ内ニ納メテ捲收シ締革ヲ以テ兩端ヲ結束シ左肩ヨリ右腋下ニ斜擔スヘシ

但シ濕潤シタルトキハ適宜携帶スルコトヲ得

第九條　儀式祭典等ノ爲メ整列又ハ隊伍ヲ爲ス場合ニ於テハ各員齊一ノ服裝ヲナスヘシ

○明治二十八年五月十七日北海道廳訓第百六十七號（警察部警察署警察分署宛）

警察官吏稱呼例左ノ通リ相定ム

警察官吏稱呼例

第一條　警察官吏職務上ノ稱呼ハ總テ本例ニ依ルモノトス

第二條　警部長以下長官ニ對シテハ官名ノ下ニ閣下ヲ付シ敬稱シ警部長以下下班ノ上官ニ對シテハ警部長ニ對スルトキニ限リ官名ノ下ニ殿ヲ付シ他ハ姓及官名若クハ職名ノ下ニ殿ヲ付シ敬稱スルモノトス

第三條　上官ノ下班ニ對シ若クハ同班ノ者相對シテハ姓ノ下ニ官名若クハ職名ヲ付シ單稱スルモノトス

第四條　上官ト稱スルハ巡査ノ警部以上警部ノ警部長以上警部長ノ長官ニ於クルヲ云フ但シ巡査ノ巡査部長ニ於クル亦之ニ準ス

第五條　同班ト雖モ其所屬課長署長分署長ノ職ニアル者ニ對シテハ職名ノ下ニ殿ヲ付シ敬稱スルモノトス

○明治二十四年八月二十八日北海道廳訓第九十四號（警部長、典獄、集治監典獄、分監長宛）

今般勅令第百七十號ヲ以テ巡査看守ハ判任官ヲ以テ待遇セラルルコトニ相成タルハ全ク巡査看守ノ其職任ノ重ニ對シテ相當ノ待遇ヲ與ヘラレタルト同時ニ又之レヲシテ十分ノ實効ヲ擧ケシメントノ主旨ニ外ナラサルニ付巡査看守ハ其優待ヲ加ヘラレタルカ爲メニ苟モ傲慢ニ流ルルコトナク此際益益奮勵シテ其職任ノ重ヲ盡ササルヘカラス殊ニ巡査ニ在リテハ公衆ニ直接シテ其職務ヲ行フ者ナレハ一層此ニ注意ヲ加ヘテ常ニ公正ト誠實トヲ以テ其職務ニ當リ親切ト叮嚀トヲ以テ其公衆ニ接シ以テ益益警察ノ實効ヲ擧クンコトヲ勉メサルヘカラス宜シク此意ヲ体シ心得違ノ者無之樣厚ク訓諭セラルヘシ

右訓令ス

○明治三十一年六月六日北海道廳訓第二百二十三號（警察部、警察署、同分署宛）

警察官人民處遇方ニ就キテハ從來屢訓示令達スル處アリ近時大ニ其面目ヲ改ムルニ至レリト雖モ多數ノ警察官中ニハ猶未タ其趣旨ヲ了得セサルモノナキヲ保セス殊ニ犯罪嫌疑者ヲ訊問スル場合ノ如キ若シ其方法宜ヲ得サルモノアルニ至テハ施テ警察ノ威信ニ關スルノミナラス今ヤ改正條約ノ實施近キニ迫リ外國人ハ司法ニ行政ニ我内治ニ注視スルコト最日ノ比ニアラサルナリ殊ニ警察權ノ行動ハ將來居留スヘキ外國人ノ權利自由ニ至大ノ關係ヲ有スルヲ以テ警察官ノ一擧一動ハ最彼等ノ耳目ヲ注ク處ナルヘシ故ニ警察官タル者特ニ愼重意ヲ致シ人民ヲ遇スルニ寛厚其宜ヲ權リ

勤勉莊重以テ紀律ヲ保チ廉潔公正以テ威信ヲ示シ且ツ言語ヲ鄭寧ニシ手續ヲ簡易ニシ最モ懇篤切實ヲ旨トシ就中犯罪其他ノ取調ヲ爲スニ際シテハ法律規則ノ範域ヲ超越スルコトナク懇ニ其取扱ヲ了シ內外人ヲシテ我警察ニ對シ安シテ生命財產ヲ托スルニ足ルノ信認ヲ起サシメ而シテ益警察ノ實効ヲ擧クンコトヲ勉メサルヘカラス警察官タル者深ク此意ヲ體スヘシ

○明治三十一年四月六日北海道廳訓第百十八號（警察部、警察署、同分署宛）

警察官赴任請替（巡査ノ其所屬警察署所轄內ニ保ル者ヲ除ク）又ハ所轄外出張（警察分署員ノ所屬警察署所轄內ニ保ル者及押送ノ場合ヲ除ク）ノ際ハ出發及到着トモ其都度屆出テ且ツ當廳所在地滯泊ノ際ハ直ニ其宿所ヲ屆出ツヘシ

明治二十五年十二月五日訓第二百八十八號ハ廢止ス

○明治二十四年十月十二日北海道廳訓第百三十八號（警察署長宛）

巡査精勤證書授與手續左ノ通リ定ム

巡査精勤證書授與手續

第一條　明治二十二年五月內務省訓令第二十一號巡査看守精勤證書授與規則ニヨリ證書ヲ授與スヘキ者アルトキハ警察署長ニ於テ詳細取調別紙書式ニ因リ具申スヘシ

第二條　本則第四條ニ該當スルモノト雖モ爾後勤續精勤シタルモノハ其處分翌月ヨリ起算シ規則第三條ニ適合スルトキハ精勤證書ヲ授與スルコトアルヘシ

第三條　本則第六條水火盜難等ニ依リ精勤證書ヲ亡失シタルトキハ其事由ヲ詳記シ更ニ下渡ヲ請求セシムヘシ

第四條　本則第七條ニ該當スルモノアリト認メタルトキ詳細具申スヘシ

第五條　本則第三條第四項ノ年數ハ發布以前ニ遡リ起算スヘキモノトス

第六條　巡査看守相互轉勤シタルトキハ前後奉職年數ヲ通算スヘカラス

（別紙）

精勤證書授與之義具申

巡査　氏名

右別紙調書ノ通相違無之候ニ付精勤證書授與之御詮議相成度此段具申仕候也

年月日　　何警察署長

長官宛　　官氏名印

（別紙）

巡査氏名

行狀

何何

勤務

何何

事務

何何

何年何月何日拜命本年何月迄何年何箇月勤續

又第二條ニ依リ具申スルモノ（朱書）

何年何月何日何何ニ依リ何何ノ處分ヲ受ケ翌何月ヨリ本年何月迄何年何箇月勤續

○明治二十二年九月四日北海道廳訓令號外（警察署長宛）

巡査看守精勤證書授與並沒收ノ件別紙ノ通內務大臣ヨリ訓令有之ニ付此旨心得ラルヘシ

右訓令ス

（別紙）

訓第五九八號

巡査看守精勤證書授與並沒收之件左之通施行セラルヘシ

巡査看守精勤證書授與規則第四條ニ該當シ過誤失錯ニ依リ處分ヲ受ケタル後勤續精勤セシモノニハ其處分翌月ヨリ起算シ同則第三條ニ適合スルトキ該證書ヲ授與スルコトアルヘシ

巡査懲罰令ニ據リ免職シ若クハ在職中行狀修ラスシテ體面ヲ汚シ（懲罰令第二條ニ該當セサルモノ）又ハ退職後ト雖禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノハ精勤證書ヲ沒收スヘシ

右訓令ス

明治二十二年八月二十四日

北海道廳長官永山武四郎殿

內務大臣伯爵　松方正義

○明治二十五年十一月二十二日北海道廳訓第二百七十五號（警察署分署宛）

巡査歸省看護墓參、並ニ轉地療養引籠取扱手續左ノ通リ相定ム

巡査歸省看護墓參並ニ轉地療養引籠取扱手續

第一章　歸省及祭日休暇

第一條　父母（父母共以下同シ）疾病ニ罹リ看護ノ爲メ歸省セントスル者ハ親屬ノ證明書及醫案ヲ添ヘ所屬署長ニ出願セシムヘシ但シ至急ノ場合ニ於テ其證明書及醫案ヲ添附スルノ暇ナキ時ハ歸省ノ後其手續ヲ盡サシムヘシ

第二條　許可ノ後其病狀ニヨリ延期看護セントスルモノハ願書ニ親屬連署シ醫案ヲ添ヘ所屬署長ニ出願セシムヘシ

第三條　看護歸省ハ往復路程（陸路ナレハ一日十里（蒸汽車汽船ノ便アル地ハ其日經過ノ實程ヲ云フ以下同シ）ヲ除キ二周間ヲ期トス其延期ヲ追願スルモノハ尙ホ二周間許可スルコトヲ得ルモ通シテ四周間以上ハ許可セサルモノトス

往所ニ於テ看護ヲナサントスルモノハ醫案ヲ添ヘ出願セシメ四周間以內ニ於テ之ヲ許可スヘシ

第四條　父母死去ノ際墓參ノ爲メ歸鄉ヲ願出ル者ハ往復路程ヲ除キ一周間以內ニ於テ之ヲ許可スヘシ

第五條　旅行中疾病ニ罹リ又ハ天災事變等ニテ滯滯シタルトキハ其地警察署分署若クハ巡査派出所又ハ駐在所ノ證明書ヲ乞ヒ（疾病ナレハ醫案ヲ添ヘ）其事由ヲ屆出シムヘシ

第六條　父母祭日ハ前以テ屆出シメ置キ其當日ニ限リ休暇ヲ與フヘシ

第二章　病氣引籠

第七條　巡査疾病ニ罹リ引籠療養セントスルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ引籠前所屬署長ニ屆出シムヘシ爾後一周間毎ニ同樣ノ手續ヲナサシムヘシ遽ニ發病シ引籠前診斷書ヲ得カタキトキハ先ツ屆書ヲ差出サシメ診斷書ハ晩クトモ其翌日迄ニ追達セシムヘシ醫師ノ住居ナク即時診斷書ヲ添附シ難キ地ニ限リ屆書ヲ差出シタル日ヨリ三日以內ニ於テ診斷書ヲ追達セシムヘシ（三十一年七月訓第二百七十二號ヲ以テ改正）

第八條　（三十一年七月訓第二百七十二號ヲ以テ削除）

第九條　引籠日數三十日以上ニ及ヒ仍ホ出勤セサルモノハ署長ニ於テ臨時檢診セシムルコトアルヘシ

轉地療養ニ係ルモノ所轄外ナル時ハ其署ニ移牒シ前項ノ手續ヲ囑託スルコトアルヘシ

第十條　引籠中ハ外出ヲ許サス

病症ニ依リ治療上外出ヲ要スルトキハ醫案ヲ添ヘ屆出認可ヲ受ケシムヘシ

第十一條　遠隔管區ノ巡査ニ於テ引籠療養セントスルモノハ其屆書ヲ郵便其他便宜ノ方法ニ依リ執務時間前其地ヲ發シ所屬署ニ送付スルノ手續ヲナサシムヘシ

第十二條　出勤中疾病ニ罹リ退署スルモノハ其旨屆出シメ退署後ニ於テ醫案ヲ差出サシムヘシ

但勤務時間三分二以上ヲ過クル時ハ當日ノ勤務ヲ了シタルモノト見做スヘシ

第十三條　轉地療養セントスルモノハ其理由ヲ具シ醫案ヲ添ヘ所屬署長ニ願出許可ヲ受ケシムヘシ

第十四條　職務上負傷シタルモノハ自己隨意ノ醫師又ハ公立病院若クハ所屬署長ノ指名シタル醫師ヲシテ治療セシムヘシ

○明治二十八年十月十九日北海道廳訓令第三十八號（監獄署警察署警察官吏分署監獄支署宛）

巡査看守休暇細則左ノ通リ定ム

但シ明治二十二年六月北海道廳訓令第三十一號巡査看守休暇規則ヲ廢止ス

巡査看守休暇細則

第一條　巡査看守休暇概則ニ依リ巡査看守一箇年皆勤シタル者ニハ三週間半箇年皆勤シタル者ニハ一週間ノ休暇ヲ與フ

前項ノ外特ニ五箇年皆勤シタル者ニハ一週間十箇年皆勤シタル者ニハ三週間ノ休暇ヲ與フ

第二條　半箇年皆勤ニ對スル休暇ハ皆勤一箇年ニ至ラサリシトキニ限リ之ヲ與フ

第三條　皆勤日數ハ新任ノ者ハ其翌日教習生ハ卒業ノ翌日缺勤ノ者ハ出勤ノ日ヨリ起算シ其計算ハ曆ニ從フ

第四條　左ノ事項ニ係ルモノハ皆勤ニ算入ス

一　職務ノ爲メ負傷シ若クハ傳染病ニ罹リ療養中ノ日數

二　父母ノ祭日

三　休暇日

四　非番日

第五條　左ノ事項ニ係ルモノハ缺勤及皆勤ニ算入セス

一　豫備後備ノ軍籍ニ在ル者被召集中ノ日數

二　忌引日數

三　傳染病者ノ爲メ遮斷又ハ隔離被施行中ノ日數

四　武技講習ノ爲メ負傷シ療養中ノ日數

第六條　休暇ハ第七條ニ掲クル休暇證ヲ附與シタル日ヨリ起算シ左ノ年限ヲ以テ給與期間トス

一　半箇年又ハ一箇年皆勤ニ對スル休暇ハ一箇年

二　五箇年又ハ十箇年皆勤ニ對スル休暇ハ五箇年

第七條　皆勤者ニハ所屬署長ニ於テ左ノ樣式ノ休暇證ヲ附與スヘシ

（用紙鳥ノ子紙）　二寸五分

休暇證

巡査
看守　何　某

三
寸
五
分

自明治何年何月何日
至同何年何月何日　滿何箇年皆勤

此休暇何週間
右休暇ノ證トシテ之ヲ附與スルモノ也

北海道監獄署（何支署）長
何警察署（何分署）

年月日

警視廳
監獄
警部
書記　何某　印

裏

休暇ヲ得ントスルトキハ左ノ欄ニ其日數ヲ記入シ所屬署長ノ認印ヲ受クヘシ

自何年何月何日
至何年何月何日
何日間　印

第八條　休暇ハ其日數ヲ區分シテ受クルコトヲ得ルモ隔日勤務ノ者ニ限リ端數ノ場合ヲ除クノ外一日ノ休暇ヲ受クルコトヲ得ス

第九條　休暇ヲ得ントスルトキハ休暇證相當欄ニ其日數ヲ記入シ所屬署長ノ認印ヲ受クヘシ所屬署長ニ於テ公務ノ都合ニ依リ必要ト認ムルトキハ休暇ヲ停止スルコトヲ得

第十條　休暇中一泊以上ノ旅行ヲ爲サントスルトキハ其事由及行先地ノ宿所ヲ詳記シ所屬署長ノ許可ヲ受クヘシ

○明治二十七年三月二日北海道廳訓令第七號（警察部、財務部、監獄署、同支署、集治監、同分監、警察署、同分署宛）

巡査看守給助例來ル明治二十七年度ヨリ施行ス其施行細則別紙ノ通相定ム

巡査看守給助例施行細則

第一條　給助例ニ依リ給助ノ金額ヲ定ムル左ノ如シ

一　退職給助

勤續滿五年　一時金參拾圓

滿六年以上九年迄ハ一年毎ニ金五圓ヲ增加ス

勤續滿十年　年金參拾圓

滿十一年以上ハ一年毎ニ金壹圓ヲ增加ス

二　傷痍給助

一等傷　年金四拾圓

二等傷　年金參拾圓

三　死亡給助　年金五拾圓

寡婦又ハ相續ノ孤兒　一時金百圓

死者ニ依リ從來生計ヲ爲セシ祖父母父母又ハ二十歳未滿ノ兄弟姉妹　一時金百圓

相續ノ孤兒二十歳ニ至ルモ癈篤疾ナル者　一時金百圓

四　療治料

實費

五　祭祀料

奉職一年未滿ニシテ死亡シタル者　一時金拾五圓

滿一年以上一年毎ニ金五圓ヲ增加ス

職務ノ爲メ死亡シタル者前項ノ外　一時金百圓

第二條　本則實施前ノ勤續年數ハ之ヲ通算ス

但巡査ハ明治八年十月第百八十二號公達看守ハ明治十四年三月第十五號公達實施ノ月ヨリ起算シ其後一旦打切滿年賜金ヲ得タル者ハ前職年數ヲ算入セス

第三條　退職給助ト傷痍給助トハ併セ行フモノトス

第四條　年金ハ退職死亡又ハ傷痍ノ翌月ヨリ支給ス

第五條　年金ヲ受ケタル者給助例第八條第一項及第九條ニ該當スルトキハ日割ヲ以テ支給ス

第六條　年金ヲ受ケタル者死亡又ハ給助例第五條第一項後段ニ該當スルトキハ其月分全額ヲ支給ス

第七條　給助例ニ依リ給助ヲ出願スル者ハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　年金ヲ受クヘキ者（退職及傷痍者又ハ寡婦孤兒）ハ別紙第一號若クハ第二號書式ノ願書ニ本籍戸長（或ハ市町村長以下同シ）ノ奥印ヲ受ケ當廳又ハ北海道集治監ヘ出願スヘシ

二　一時金ヲ受クヘキ者（祖父母父母兄弟姉妹並孤兒滿二十歳以上癈篤疾者）ハ別紙第三號若クハ第四號書式ノ願書ニ本籍戸長ノ奥印ヲ受ケ當廳又ハ北海道集治監ヘ出願スヘシ

三　療治料ヲ請求スヘキ者ハ別紙第五號書式ノ請求書ニ主治醫ノ診斷料手術料並藥價書等ヲ添ヘ所屬官署ヲ經當廳又ハ北海道集治監ヘ差出スヘシ

但數月ニ亘ルトキハ毎月末日迄ノ分打切請求スルコトヲ得

第八條　給助例ニ依リ年金及一時金ヲ受クヘキ者ニハ第六號及第七號書式ノ證票又ハ辭令書ヲ付與ス若シ證票ヲ毀損亡失シタルトキハ其事由ヲ詳記シ本籍戸長ノ奥印ヲ受ケ更ニ下付又ハ書換ヲ出願スヘシ

第九條　年金ハ毎年三月及九月ニ於テ其月ヨリ前六箇月分ヲ支給スヘキニ付受給者ハ所在地戸長ヨリ證票檢閲及生存ニ付テノ證明書ヲ受ケ差出スヘシ

第十條　年金ヲ受ケタル者給助例第八條第九條ノ各項ニ該當スルカ又ハ轉籍轉住死亡再嫁等戸籍上ニ異動アルトキハ本籍又ハ所在地戸長ノ奥印ヲ受ケタル書面ヲ以テ速ニ當廳又ハ北海道集治

監ニ屆出ツヘシ

但公權剝奪若クハ死亡再嫁等ニ係リ給助ヲ受クル權利消滅シタルトキハ該屆書ト共ニ付與シタル證票ヲ返納スヘシ

第十一條　第七條第一項第二項ノ願書及第三項ノ請求書ニ添附スヘキ醫師ノ診斷書ハ公立病院醫員ノ調製シタル者タルヘシ尤モ急劇ノ場合若クハ公立病院醫員ノ診斷ヲ得難キ場合ニ於テハ開業醫ノ診斷書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十二條　前條診斷ノ場合ハ孤兒二十歳以上ニシテ癈篤疾ナル者ノ診斷ヲ除クノ外所屬官署長ニ於テ警部又ハ看守長ヲ立會ハシメ診斷書ノ謄本ヲ添ヘ當廳長官又ハ北海道集治監典獄ヘ具申スヘシ

（第一號用紙半紙）

退職傷痍給助願

何月何日退職候處滿何年間勤續（或ハ何月何日職務上負傷候處何等傷ニ策定相成）候ニ付テハ相當ノ給助金下賜度（或ハ診斷書相添ヘ）此段奉願候也

私儀

何國府縣何郡區何町村何番地族籍
元北海道廳巡査（看守）
北海道集治監看守

年　月　日

何　某　印

北海道廳長官（北海道集治監典獄）何某殿

右當町村內本籍ノ者ニ相違無之候也

年　月　日

何國府縣何郡區何町村戶長　何　某　印

（第二號用紙半紙）

寡婦孤兒給助願

私夫（實養父）何某儀巡査（看守）奉職中何何ノ爲メ何月何日死沒候ニ付テハ相當ノ給助金下賜度別紙死亡診斷書及戶籍寫相添ヘ親族連署ヲ以テ此段奉願候也

何國府縣何郡區何町村何番地族籍
故北海道廳巡査（看守）
北海道集治監看守　何某寡婦孤兒

年　月　日

何　某　印

同　何年何月何日生

同　親族　何　某　印

同　何　某　印

北海道廳長官（北海道集治監典獄）何某殿

右當町村內本籍ノ者ニ相違無之候也

年　月　日

年　月　日

何國府縣何郡區何町村戸長　何　某印

（第三號用紙半紙）

死亡給助願

今般巡査（看守）何某職務ノ爲メ（或ハ負傷後）何年何月何日死亡候處私共儀從來死者ニ依リ生活罷在候ニ付テハ相當ノ給助金下賜度別紙死亡診斷書及戸籍寫相添ヘ親族連署ヲ以テ此段奉願候也

何國府縣何郡區何町村何番地族籍
故北海道廳巡査（看守）北海道集治監看守　何某祖父母父母又ハ兄弟姉妹　何　某印
何年何月何日生
同　親族　何　某印
同　同　何　某印

北海道廳長官（北海道集治監典獄）何某殿

右當町村内本籍ノ者ニシテ巡査看守給助例第八條第九條ニ該ラス且ツ前書ノ通相違無之候也

年　月　日

何國府縣何郡區何町村戸長　何　某印

（第四號用紙半紙）

癒篤疾給助願

私儀

明治何年何月ヨリ御給助相受ケ罷在候處本月ヲ以テ滿二十歳ニ至リ候得共從來癒篤疾ニ有之候間猶相當ノ給助金下賜度別紙診斷書相添ヘ親族連署ヲ以テ此段奉願候也

何國府縣何郡區何町村何番地族籍
故北海道廳巡査（看守）北海道集治監看守　何某長男女　何　某印
何年何月何日生
同　親族　何　某印
同　同　何　某印

年　月　日

北海道廳長官（北海道集治監典獄）何某殿

右當町村内本籍ノ者ニ相違無之候也

年　月　日

何國府縣何郡區何町村戸長　何　某印

（第五號用紙半紙）

療治料請求書

一金何程　印

此内譯

金何程　印

但シ診斷(手術)料別紙何葉ノ通

金何程　印

但シ何月何日ヨリ何月何日迄藥價書別紙何葉之通

右ハ別紙診斷書ノ通何月何日職務上負傷(或ハ傳染病ニ罹リ)候ニ付療治料御下渡相成度此段及請求候也

年　月　日

北海道廳長官(北海道集治監典獄)何某殿

北海道廳巡査(看守)　何　何　詰

北海道集治監看守　何　某　印

(第六號用紙鳥ノ子)　縦八寸　横一尺八寸

給助之證

第何號

何府縣族籍　何　某

元北海道廳巡査(看守)

元北海道集治監看守

(何府縣族籍故北海道廳巡査(看守)何年何月何日生　妻長男又北海道集治監看守)何某ハ妻子某等)

右ハ滿何年間勤續(故巡査(看守)何某)職務ノ爲メ負傷(職務ノ爲メ死亡)候ニ付年金何圓支給ス依テ此證ヲ付與ス

年　月　日

……北海道廳(北海道集治監)印……契印……

給助之證

第何號

此證書ハ賣買讓與質入書入ナトナスモノ

何府縣族籍　何　某

元北海道廳巡査(看守)

元北海道集治監看守

(何府縣族籍故北海道廳巡査(看守)何年何月何日生　妻長男又北海道集治監看守)何某ハ妻子某等)

右ハ滿何年間勤續(故巡査(看守)何某)職務ノ爲メ負傷(職務ノ爲メ死亡)候ニ付年金何圓支給ス依テ此證ヲ付與ス

年　月　日　北海道廳長官(北海道集治監典獄)何某印

(第七號用紙大廣奉書四ツ切)

元北海道廳巡査(看守)北海道集治監看守　何　某

滿何年勤續候ニ付一時給助金何圓支給ス

年　月　日

北海道廳(北海道集治監)

故北海道廳巡査(看守)北海道集治監看守　何　某　遺族

故何某巡査(看守)奉職中(或ハ職務ノ爲メ)死亡候ニ付祭祀料金(或ハ一時給助金)何圓支給ス

年　月　日

北海道廳(北海道集治監)

何府縣族籍　何　某

故北海道巡査(看守)北海道集治監看守何某奉職中職務ノ爲メ死亡候ニ付明治何年何月ヨリ年金支給候處滿二十歳ニ至リ癒爲疾ナルヲ以テ一時給助金何圓支給ス

年　月　日

北海道廳(北海道集治監)

○明治二十七年三月二十二日北海道廳訓令第九號警察部警察署同分署宛

巡査被服支給規則左ノ通リ相定メ明治二十七年四月一日ヨリ施行ス

巡査被服支給規則

第一條　巡査被服ハ現品又ハ代料ヲ以テ之ヲ支給ス

第二條　現品ヲ以テ支給スヘキ品目員數著用期限等左ノ如シ

品目	員數	著用期限
帽外肩頭巾	一	十二箇月
冬外套	一	十二箇月
冬掛	一	十二箇月
上衣	二	十二箇月
上袴	二	十二箇月
夏帽	一（初年次年）	十二箇月
夏長袴	一（初年次年）	十二箇月
短靴	二	四箇月
長靴	二	四箇月

但シ長靴短靴ハ初年ニ限リ現品ヲ以テ支給スヘキモノトス

第三條　著用期限ハ月ヲ以テ計算シ其期限經過ノモノハ徽章ヲ除キ之ヲ本人ニ付與ス

第四條　付與ヲ受ケタルモノト雖モ尚ホ冬服ハ十六箇月間夏服ハ十二箇月間豫備トシテ保存スヘシ

第五條　著用期限內亡失シタルトキ若クハ毀損シテ著用ニ堪ヘサルモノト認メタルトキハ代品ヲ支給スト雖モ故意又ハ怠慢ニ依ル者ハ相當代價ヲ辨償スヘシ

第六條　轉任免職死亡シタルトキ著用期限內ニ係ル支給品ハ總テ返納スヘシ

第七條　返納品ニシテ尚ホ著用ニ堪フルモノハ更ニ著用期限ヲ査定シ支給スルコトアルヘシ

第八條　代料ヲ以テ支給スヘキモノハ長靴短靴メリヤス靴下ノ四品トス其金額左ノ如シ

但シ闕勤全月ニ及フトキハ其月分ヲ支給セス

長靴料	月額	金貳拾五錢
短靴料	月額	金拾參錢
メリヤス料	月額	金拾五錢
靴下料	月額	金拾錢

第九條　代料ハ毎月末日ヲ以テ支給ノ定日トス

但シ當日休暇ナルトキハ繰上ケトス

○明治三十一年三月十六日北海道廳訓令第十四號（警察署、同分署宛）

巡査給與品及貸與品細則左ノ通リ定ム

巡査給與品及貸與品細則

第一條　巡査給與品ノ使用期限ハ月ヲ以テ計算スヘシ

第二條　使用期限ノ終リタル給與品ト雖モ第五條ニ依リ代料ヲ以テ下付ヲ受クル巡査ニ在テハ總テ其之ヲ受クル間又其他ノ巡査ニ在テハ帽ハ十二箇月間冬服及甲種外套乙種外套ハ二十四箇月間豫備トシテ保存スヘシ

第三條　使用期限終ラサル爲メ返納セシメタル給與品ニシテ尚ホ使用ニ堪フルモノハ更ニ使用期限ヲ査定シ給與スルコトアルヘシ

第四條　給與品ノ内下襟手套冬肌著夏肌著靴下及短靴二足ノ内一足ハ代料ヲ以テ下付ス其金月額左ノ如シ

一　下襟料　金六錢
一　手套料　金四錢
一　冬肌著料　金二十五錢
一　夏肌著料　金二十五錢

一　靴下料　金十錢
一　短靴料　金十五錢

第五條　常ニ制服ノ著用ヲ要セサル特別ノ勤務ニ服スル巡査ニハ現品ヲ以テスヘキ給與品ト雖モ次回ヨリ代料ヲ以テ下付ス其金月額左ノ如シ

一　帽料　金八錢
一　冬服料　金三十五錢
一　夏服料　金七十五錢
一　甲種外套料　金二十七錢
一　乙種外套料　金十錢
一　日覆料　金二錢
一　長靴料　金二十五錢
一　短靴料　金十五錢

第六條　給與品ノ代料ハ總テ闕勤全月ニ及フトキハ其月分ヲ下付セス

第七條　給與品ノ代料ハ毎月末日ヲ以テ下付ノ定日トス

但シ當日休暇ナルトキハ繰上ケトス

第八條　巡査貸與品ノ使用期限ハ無期トス

○明治三十年四月三日北海道廳訓令第十七號（監獄署、同支署、警察署、同分署宛）

巡査看守宿料支給規則左ノ通リ定ム

巡査看守宿料支給規則

第一條　巡査看守ニハ左ノ區別ニ依リ宿料ヲ支給ス

天塩國苫前郡ノ内燒尻天賣ノ二村

北見國利尻禮文ノ二郡

千島國各郡

右各地勤務ノ者ハ一箇月　三圓

後志國奥尻郡

北見國各郡利尻禮文二郡ヲ除ク

右各地勤務ノ者ハ一箇月　二圓五十錢

渡島國各郡

後志國各郡奥尻郡及高島郡ノ内各町小樽郡ノ内各町ヲ除ク

石狩國各郡

天塩國各郡苫前郡ノ内燒尻天賣ノ二村ヲ除ク

膽振國各郡

日高國各郡

十勝國各郡

釧路國各郡

根室國各郡

右各地勤務ノ者ハ一箇月　二圓

渡島國函館區

後志國高島郡ノ内各町及小樽郡ノ内各町

石狩國札幌區

右各地勤務ノ者ハ一箇月　一圓五十錢

第二條　左ノ各號ノ一ニ該ル者ニハ其間宿料ヲ支給セス

但シ全月ニ及ハサルモノハ日割ヲ以テ之ヲ減ス

一　官舍ニ居住スル者

二　職務上居住ノ地ニ於テ家屋ヲ所有シ又ハ家族ノ所有スル家屋ニ居住スル者

三　官設ノ寄宿所ニ居住スル者

四　官有ノ建物ヲ以テ充テタル巡査駐在所ニ駐在スル者

第三條　宿料ハ新任及他ヨリ轉任ノトキハ發令ノ翌日ヨリ休職免職他ヘ轉任及死亡ノトキハ發令又ハ死亡ノ當日迄日割ヲ以テ支給ス

第四條　詰替ニ依リ宿料額ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ宿料ハ發令ノ當日迄詰替前ノ宿料額ニ依リ其翌日ヨリ詰替後ノ宿料額ニ依リ日割ヲ以テ支給ス

第五條　宿料ハ毎月末日ヲ以テ支給ノ定日トス

但シ休日ニ當ルトキハ繰下ケトス

第六條　休職免職他ヘ轉任及死亡シタル者ノ宿料ハ前條ノ支給定日ニ拘ラス其際支給ス

附則

第七條　本則ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

但シ明治二十九年五月訓第百四號巡査看守宿料支給規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

○明治二十五年十一月二十九日北海道廳訓第二百八十三號警察署宛

巡査俸給改正ニ付テハ進給年限起算方左ノ規程ニ依ルヘシ

一　改正ニ依リ增給シタルモノハ其日ヨリ增給ヲ爲ササルモノハ前給ノ日ヨリ起算ス

○明治二十七年三月一日北海道廳訓令第六號

（巡査看守雇人賄料支給方第八類傭給與雜給ノ部ニ出）

○明治三十一年一月十四日北海道廳訓第八號警察部監獄署、同警察署宛

巡査看守ノ考査表ハ第一號樣式ニ依リ作成シ警察部又ハ監獄署ニ備置ヘシ

警察署長又ハ監獄署第二課長及監獄支署長ハ所屬巡査看守中在職三箇年以上ニシテ精勤證書ヲ有スル者ノ實務成績ヲ取調ヘ第二號樣式ニ依リ意見書ヲ作成シ警部長又ハ典獄ニ差出スヘシ其意見ノ事實ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

（樣式略ス）

○會議及非常召集

○明治三十一年三月七日北海道廳訓第七十五號警察部、警察署宛

明治二十五年八月訓第二百四號警察會議規則左ノ通改定ス

警察會議規則

第一條　本會ハ警察ニ關スル事項ノ諮問ニ應シ若クハ會員ヨリ提出スルノ議案ヲ討議シ警務ノ整一進善ヲ覓ムルヲ以テ目的トス

第二條　會長ハ警察部長ヲ以テ之ニ充ツ

會長事故アルトキハ上班會員ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第三條　會員ハ警察部各課長及各警察署長若クハ警察部長ノ指名シタル警部又ハ技手ヲ以テ組織ス

第四條　會長ハ議場ヲ整理シ其開會閉會及休會ヲ命ス

第五條　諮問案ハ便否得失ニ關スル會員ノ意見ヲ述フルニ止マリ討議ヲ許サス

第六條　討議ハ普通ノ議事法ニ依リ議決ス

會長ノ意見ニ依テ二次會三次會ヲ併議スルヲ得

第七條　會員ニシテ會議ニ附セントスル議案若クハ修正案ハ筆錄シテ會長ニ提出スヘシ

第八條　凡ソ會議ニ於テ發言セントスル時ハ起立シテ自己ノ番號ヲ呼ヒ會長ノ許可ヲ得テ發言スヘシ會員互ニ論議スルコトヲ得ス議事中ハ官名ヲ呼ハス會長ト呼ヒ會員ハ互ニ其番號ヲ呼フヘシ

第九條　二人以上同時ニ起立シタル時ハ會長其一人ヲ呼ヒ發言セシム

第十條　原案提出者又ハ原案ノ主管ニ屬スル課長又ハ課員ハ會場ニ於テ原案ノ旨趣ヲ辨明スルコトヲ得

第十一條　會議ニ書記ヲ要スルトキハ會長之ヲ指定ス

第十二條　開會中ハ最モ靜肅ヲ旨トシ且ツ喫烟ヲ許サス

第十三條　本會ノ決議ハ別ニ指揮命令アルニアラサレハ直ニ實行スルコトヲ得ス

第十四條　前各條ニ定ムルノ外議事ニ關スル總テノ事件ハ會長之ヲ掌理ス

○明治二十六年九月二十一日北海道廳訓第二百五十九號（警察部、警察署、警察分署宛）

警察官吏非常召集規定別冊ノ通リ相定ム

（別冊）

警察官吏非常召集規定

第一條　非常召集ハ非常事變ニ際シ警部長又ハ警察署長分署長ニ於テ臨機之レヲ行フモノトス

第二條　警部長ハ管內警察官吏ノ總員若クハ其幾員ヲ召集シ警察署長分署長ハ其署所屬警察官吏ノ總員若クハ其幾員ヲ召集スルモノトス

第三條　警察署長ニ於テ左ノ命令ヲ受ケタルトキハ一面各分署長ニ同文ヲ以テ命令シ一面直轄部內ノ各警部巡査ニ令狀ヲ發スヘシ但シ警察署長ニ於テ召集スル場合モ亦同シ

其署總員何處ニ召集ヲ命ス

第四條　警察署長（函館警察署長ヲ除ク）又ハ分署長ニ於テ左ノ命令ヲ受ケタルトキハ部內ノ各警部巡査ニ令狀ヲ發スヘシ

其署直轄（札幌、小樽等市街配置ノモノノミヲ召集セントスルトキハ直轄ノ二字ヲ市部ト改メ分署ハ直轄ノ二字ヲ除ク）總員何處ヘ召集ヲ命ス

第五條　警察署長ニ於テ左ノ命令ヲ受ケタルトキハ適宜直轄及分署ニ割當テ一面分署長ニ命令シ一面部內ノ警部巡査ニ對シ所要ノ定數ニ滿ツル丈ケ令狀ヲ發スヘシ

其署警部何名巡査何名何處ヘ召集ヲ命ス

第六條　警察署長又ハ分署長ニ於テ左ノ命令ヲ受ケタルトキハ部內ノ警部巡査ニ對シ所要ノ定數ニ滿ツル丈ケ令狀ヲ發スヘシ

其署直轄（割註第四條ト同シ）警部何名巡査何名何處ヘ召集ヲ命ス

第七條　非常召集ノ命令ハ電話電信若クハ特使ヲ以テ發送スヘシ

第八條　警察署長分署長ニ於テ警部巡査各人ニ發スル令狀ハ左ノ雛形ニ依ルヘシ但シ電信電話アル地方ハ其便ニ依ルモノトス

（雛形）

（用紙厚紙）

表

警察官吏非常召集令狀

警部（巡査）　姓　名

迅速（何處）ヘ參集スヘシ

縱五寸　横二寸六分

裏

年　月　日　署印　時　發

第九條　召集命令ヲ受ケタルモノハ即時制裝ナナシ指定ノ場所ニ參集シ上官ノ指揮ヲ待ツテ進退スヘシ但シ召集ノ命令書ハ參著ノ際直チニ上官ニ差出スヘキモノトス

第十條　召集ノ場合ト雖トモ左ノ人員ハ在署セシムヘキモノトス

警察署	署長及巡査壹名
分署	署長
函館、札幌、小樽市部派出所	巡査壹名

第十一條　前條ノ如ク定ムト雖トモ召集地管轄部内ナルトキハ其警察署長分署長ハ必ス參集スヘキモノトス但シ此場合ニ於テハ次席ノモノ壹名署長代理トシテ在署セシムヘシ

第十二條　召集ノ命令ヲ受ケタルモノ疾病其他ノ事故ニ因リ遲參若クハ參集スルコト能ハサルトキハ直ニ所轄ノ警察署分署ヘ屆出ヲ遣テ其事實ヲ證明スヘシ

第十三條　警察署長分署長ニ於テハ豫テ非常事變ノ際召集ヲ行ヒ若クハ其命令ニ接シタルトキ直ニ第七條第八條ノ取扱ヲナシ必要ノ人員ヲ指定ノ場處ニ召集シ得ルノ手續ヲナシ置クヘシ

第十四條　警察署長分署長ニ於テハ第八條ノ令狀ヲ速達セシムル爲メ豫テ一定ノ線路ヲ設ケ置クヘシ但シ派出所ニ於テハ令狀ヲ速達スル爲メ巡査ヲシテ配付セシムルコトヲ得

第十五條　警察官吏ハ何時非常召集ノ命令ヲ受クルモ差支ナキ樣常ニ注意スヘシ

第十六條　警察署長分署長ニ於テ非常召集ヲナス際其署所屬警察官吏ノ員數ニテ尚ホ不足ト認ムルトキハ最寄警察署分署若クハ巡査駐在所ニ應援ヲ求ムルコトヲ得但シ應援ノ求メニハ必要ノ人員及出張ノ場所ヲ明記スヘシ

第十七條　應援ノ求メヲ受ケタル警察署長分署長ニ於テハ直ニ其人員ヲ召集シテ指定ノ場處ニ發遣スヘシ又駐在巡査ニ於テハ第九條ノ規定ヲ準用スヘシ但シ應援ノ求メナシト雖トモ時機緊急ト認ムルトキハ直ニ本條ノ手續ヲナスヘキモノトス

本條ノ場合ニ於テハ警察署長ニアリテハ警部長ニ其他ハ所屬署長ニ急報スヘシ

第十八條　第十條ノ在署員ト雖トモ時機ニ依リ召集スルコトアルヘシ

第十九條　非常召集ハ平時ト雖トモ實地演習ノ爲メ之ヲ行フコトアルヘシ

但シ警察署長分署長ニ於テ實地演習ヲ行フタルトキハ其狀況警部長ニ具申スヘシ

○巡査教習所

○明治二十六年五月十九日北海道廳告示第四十二號

北海道廳巡査教習所ヲ札幌警察署內ニ開設ス（三十一年二月告示第五十一號ヲ以テ「及函館ノ兩」ノ五字削除）

但明治二十四年九月當廳告示第三十一號ハ廢止ス（三十一號ハ巡査教習所ヲ札幌ニ改ム所ヲ函館ニ置クノ件ナリ）

○明治二十七年三月二十三日北海道廳訓第九十五號（巡査教習所規程）

巡査教習所門牌雛形ノ通リ相定ム

門牌雛形（用木適宜）

縱五尺　横一尺

巡査教習所

（竝ニ曲尺）

○明治三十一年二月二十二日北海道廳訓第五十九號警察部、警察署宛
明治二十四年九月訓第百號巡査教習所規則左ノ通改定ス

巡査教習所規則

第一章　組織權限

第一條　巡査教習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長　教官　助教

外ニ特別ノ技藝ヲ教習スル爲メ囑託教師ヲ置クコトアルヘシ

第二條　所長ハ警部長ノ指揮ヲ承ケ所員ヲ指揮監督シ所務ヲ掌理ス

第三條　所長ハ所員ノ進退賞罰ヲ上申ス

第四條　所長ハ教習中ノ巡査ニ係ル左ノ事項ヲ專行ス

一　看護、歸省、療養等ノ願ヲ許否スル事

二　違則ノ所爲アル者ニ對シ十日以内ノ禁足ヲ命スル事

三　除服出仕ヲ命スル事

第五條　教官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ教習、監督、庶務等ニ從事シ所長事故アルトキハ首席教官其事務ヲ代理ス

第六條　助教ハ專ラ教官ノ事務ヲ補助ス

第七條　教場及寄宿舍ノ取締ニ關スル事項ハ所長之ヲ定メ警部長ノ認可ヲ受クヘシ

第二章　教習

第八條　教習ノ科目左ノ如シ

一　警察法規

二　刑法

三　刑事訴訟法

四　衛生警察ニ關スル事項（傳染病豫防消毒方法、飲食物簡易鑑定方法、救急療法）

五　禮式及操練

六　施繩法

七　擊劍柔術及喞筒使用法

第九條　實務ヲ教習スル爲メ最寄警察署ニ於テ先任巡査ノ部伍ニ加ヘ警邏査察、戸口調査、營業者臨檢、令狀執行、囚人護送、留置場看守其他必要ノ事務ヲ適宜行ハシム

第十條　教習期間ハ二箇月トス

第十一條　授業時間ハ一日七時間以上トス

第十二條　休暇ハ一般官廳ノ例ニ依ル

第十三條　臨時警戒ヲ要スルニ當リ巡査ノ人員不足ノ爲メ實務ヲ補助セシメタルトキハ其時日ヲ教習期間ニ算入セサルモノトス

第十四條　左ニ記載シタル者ハ教習ノ全部ヲ省略スルコトヲ得

一　曾テ警部警部補又ハ憲兵下士以上ノ職ヲ奉シタルコトアル者
二　巡査精勤證書ヲ有スル者
三　滿三年以上巡査又ハ憲兵上等兵ノ職ヲ奉シタルコトアル者
四　巡査教習所卒業證書ヲ有シ退職後五箇年ヲ經過セサル者
五　十箇年以内ニ於テ滿二年以上巡査又ハ憲兵上等兵ノ職ヲ奉シタルコトアル者

第十五條　警察官タリシ經歷ヲ有スル者又ハ學術ノ素養アル者ニ對シテハ教習期間内ト雖モ臨時試驗ヲ執行シテ卒業セシメ又ハ科目ノ幾部ヲ省略スルコトヲ得

第十六條　志願ノ者アルトキハ其行狀ヲ調査シ學力ヲ試驗シ第八條科目ノ外外國語及國際法ヲ併セ教習スルコトアルヘシ之ヲ特待生ト稱ス

但シ其教習期間ハ六箇月トス

第三章　試驗

第十七條　試驗ハ對策及應問ノ二種ニ分チ教習期間ノ終ニ於テ之ヲ行フ

第十八條　試驗ノ成績ハ一科十點ヲ以テ最高點トシ各科平坪六點以上ヲ及第トシ其六點未滿及一科三點未滿ヲ落第トス

第十九條　試驗ニ及第シタ者ニハ第一號雛形ノ卒業證書ヲ附與シ其成績優等ニシテ各科平均九點以上ノ者ニハ特ニ第二號雛形ノ賞狀ヲ附與ス

第二十條　試驗ニ落第シ成業ノ見込ナキ者ハ諭旨免職シ其見込アル者ハ尚ホ一箇月以内教習ヲナシ再試驗ヲ行フコトヲ得

第二十一條　卒業證書授與ノ日時ハ試驗ノ成績表ヲ添ヘ豫メ警部長ニ開申スヘシ

第一號雛形　七寸五分

巡査教習所授業生
北海道廳巡査　氏　名

巡査教習科程卒業

年　月　日
巡査教習所之印

用紙烏ノ子

第二號雛形　七寸五分

巡査教習所授業生
北海道廳巡査　氏　名

巡査教習科程試驗ノ成績優等ナルヲ以テ茲ニ之ヲ賞ス

年　月　日
巡査教習所之印

用紙烏ノ子

○明治二十七年三月二十七日北海道廳告示第二十五號

當廳巡査志願ノ者ハ左ノ書式ニ依リ志願書ニ履歴書ヲ添ヘ札幌函館兩警察署内巡査教習所ニ差出スヘシ

書式（用紙半紙）

巡査志願書

道廳府縣國郡市町村番地華士族平民
戸主又ハ何某嗣子二三男兄弟
現時道廳府縣國郡市町村番地何某方寄留
何　某
生年月日

右ハ今般御廳巡査志願ニ付御試驗ノ上御採用被下度別紙履歴書相添ヘ此段奉願候也

年　月　日

右　何　某　印

北海道廳長官何某殿

履歴書

道廳府縣華士族平民　舊何藩
何　某
生年月日

本籍

一　道廳府縣國郡市町村番地戸主又ハ何某嗣子二三男兄弟

現住所

一　道廳府縣國郡市町村番地何某方寄留

住所ノ移動

一　何年何月何日何地ニ生レ何年何月マテ居住

一　何年何月何地ニ移轉シ何年何月マテ居住

學事

一　何年何月ヨリ何地何某ニ就キ又ハ官公私立何學校ニ入リ何學ヲ修メ何年何月退學又ハ卒業

職業（兵役ニ關スル履歴ヲ有スルモノハ尚ホ此項ニ掲クヘシ）

一　何年何月何日官公私立何學校何科教員トナリ教授ニ從事シ何年何月何日辭職其間何何ヲ兼勤シ何何ノ事務ニ從事ス其辭令書寫左ノ如シ

（辭令書寫ハ各其全文ヲ掲クヘシ又私立學校等ニテ辭令書ナキモノハ其俸給等ヲ本文ニ記入スヘシ）

一　何年何月何日何官廳ニ於テ何官拜命何何ノ事務ニ從事シ何年何月何日辭職其官記辭令書寫左ノ如シ

（官記辭令書寫ハ各其全文ヲ掲クヘシ）

一　何年何月ヨリ何地ニ於テ何業ニ從事シ何年何月何何ノ事故ニ依リ止ム

一　何年何月何日第何師團歩兵第何聯隊第何中隊編入

一　何年何月何日豫備後備役編入

賞　罰

一　何年何月何何ノ事由ノタメ何官廳ヨリ賞ヲ受ク其辭令書寫左ノ如シ

（辭令書寫ハ其全文ヲ掲クヘシ又辭令書ナキモノハ其賞ノ種類ヲ本文ニ記入スヘシ）

一　何年何月何何ノ事由ノタメ何官廳ニ於テ罰ヲ受ク其辭令書寫宣告書寫左ノ如シ

（辭令書寫宣告書寫ハ其全文ヲ掲クヘシ又辭令書宣告書ナキモノハ其罰ノ種類ヲ本文ニ記入スヘシ）

身代限又ハ家資分散

一　何年何月何地ニ於テ身代限又ハ家資分散ノ處分ヲ受ケ何年何月辨償ノ義務ヲ了リ又ハ復權ヲ爲ス

右ノ通ニ候也

年　月　日　　右　何　某　印

○明治三十一年四月三十日北海道廳訓第百五十八號（警察部、警察習巡査教習所宛）

巡査採用試驗手續左ノ通定ム

巡査採用試驗手續

第一條　巡査教習所ニ於テ巡査志願書ヲ受理シタルトキハ試驗及檢査ノ執行手續ヲナスヘシ

警察部警務課ヨリ志願書類ノ送付ヲ受ケタルトキ亦同シ

第二條　警察署ニ於テ巡査志願書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ取調速ニ其書類ヲ警察部ヘ進達スヘシ

但他ノ所轄ト關係ヲ有シ照會ヲ要スルモノハ其旨取調書中ニ附記スヘシ

一　巡査採用規則第二條及同條各項並第三條六項ニ抵觸ノ有無

二　性質

三　政黨ノ關係

四　其他參考トナルヘキ事項

第三條　警察部ニ於テ巡査志願書ヲ受理シタルトキ又ハ書類ノ進達ヲ受ケタルトキハ警務課ニ於テ第二條ニ記載シタル事項又ハ其未濟事項ヲ取調フヘシ

第四條　警察部ニ於テ受理シタル志願書又ハ進達ヲ受ケタル志願書類ニシテ受驗セシムヘキモノハ警務課ヨリ巡査教習所ニ送付スヘシ

受驗セシムヘカラサル者ハ試驗不執行ノ旨志願者ニ通知スヘシ

第五條　巡査教習所ハ便宜試驗及檢査ヲ警察署ヘ囑託スルコトヲ得

第六條　前條ノ囑託ヲ受ケタル警察署ハ第七條第八條第九條ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條　試驗及檢査ハ初メニ體格ヲ檢査シ其不合格ノ者ハ直ニ其旨受驗者ヘ達スヘシ

第八條　體格檢査ニ合格シタル者ハ技藝試驗ヲ行フヘシ

第九條　試驗結了シタルトキハ試驗成績表ヲ作リ關係書類ヲ添ヘ警察部ヘ進達スヘシ

但體格不合格ノ者ハ其氏名及不合格ノ事由ヲ記シ書類ハ進達ニ及ハス

第十條　採用スヘキモノト否ト確定シタルトキハ警務課ニ於テ採用手續ヲ爲シ又ハ不採用ノ旨受驗者ヘ通知スヘシ

○報告

○明治二十二年六月十八日北海道廳訓令第三十三號（警察部長宛）

明治二十年八月當廳訓令第九十八號警察報告例左ノ通改正ス

但非常事變其他臨時報告ヲ必要トスルモノノ申報ハ從前ノ通

警察報告例

即報

一　水火震災申報

一　西洋形船難破申報

但日本形船ト雖モ五十石以上ノモノ大難破ノ場合ハ本文ニ準スヘシ

月報

一　（二十七年六月訓令第三十三號ヲ以テ刪除）

一　新聞紙類發賣所及轉賣所調（二十三年訓令第五十五號ヲ以テ即報ニ改ム）

一　巡査懲罰ノ事（本項ハ二十四年八月訓令第六十三號ヲ以テ警察署長分任事項廢止ニ付自然消滅ス次項亦同シ）

一　巡査進退及詰所替ノ事

年報

一　警察報告表（本項ノ割註ハ二十三年八月內務省訓令第三十號及二十四年十一月同省訓令第九九二號ニテ樣式改正セシヲ以テ消滅）

一　違警罪即決表（明治十八年十二月司法省丙第十一號達書式ニ依ル）

一　火藥類賣買高調（本項警察報告表中ニ含有スルヲ現行トス）

○明治二十四年九月二日北海道廳訓第九十八號（警察部內一般宛）

警察報告心得左ノ通定ム

報告心得

第一條　凡ソ警察上ノ諸報告ハ敏活ナルヲ要ス爲メニ諸報告ノ期ヲ愆ラサル樣注意スヘシ

第二條　報告ハ事實ノ證明又ハ統計ノ材料トナルヘキモノナレハ精査確實ヲ旨トシ誤謬ナキヲ要ス

第三條　例規ナキ事件ト雖モ國家問題トナルモノ地方民心ニ關係ス可キモノ又ハ統計上參考トナルヘキモノハ總テ報告スヘシ

第四條　例規ナキ事件ト雖モ特ニ官報ニ登載ヲ必要ト認ムルモノ隨時報告スヘシ

第五條　諸報告ハ讀易キヲ旨トシ總テ楷行二書ニ限ルモノトス

第六條　出火報告異狀報告ハ先ツ電信ヲ發シ精確ナル調査ノ後ヲ郵送ス可シ

第三條中例規ナキ以下字及ノ三字ハ十七年六月十一日第百九十三號訓令ニ依リ自然消滅

第七條　高等警察ノ電報ハ暗號郵信ハ二重封ニシテ外封ノ綴目ニハ更ニ小紙片ヲ貼付スヘシ

○明治三十一年二月十二日北海道廳訓第四十二號 警察署 分署宛

明治二十四年十月訓第百三十三號警察事故月表樣式別紙ノ通リ改正シ明治三十一年一月分ヨリ施行ス

（別紙）　（用紙半紙）

明治　年　月中警察事故月表

何警察署（何分署）

收發文書ノ數	
收受	
發送	

盜難		
強盜ニ遭ヒシ	家	
	船	
	人	
窃盜ニ遭ヒシ	家	
	船	
	人	
田野山林牧場等ノ産物ヲ盜マレシ家		
騙取拐帶其他詐欺取財ニ遭ヒシ人		
僞造變造ノ貨幣ヲ受取リタル人		

救護 類別		警察官吏	人民	吏民協力	合計
盜難ニ罹ラントセシ	家				
	船				
	人				
殺サレントセシ人					
傷セラレシ人					
變死セントセシ人及傷セシ人					
失火放火不審火ヲ消止メシ家					
延燒ヲ消止メシ家					
迷兒					
途上ニテ發病セシ人					

就捕犯罪人及違警罪犯則人員 罪狀		
現行犯	男	
	女	
准現行犯	男	
	女	
非現行犯	男	
	女	
自首	男	
	女	
合計	男	
	女	
	計	
上ノ内放免	男	
	女	
	計	
總計		

警察上ニ死傷セシ人員 類別		合計
死亡	警察官	
	巡查	
	雇	
	人民	
	合計	
負傷	警察官	
	巡查	
	雇	
	人民	
	合計	
宿泊人員	管內人	
	管外人	
	外國人	
	計	

監視人員 類別		附加刑監視 重罪 男	女	輕罪 男	女	免主刑 男	女	特別監視 重罪 男	女	輕罪 男	女	合計 男	女
前月末日現在者													
入	新ニ執行セシ者												
	他府縣ヨリ入住セシ者												
	其他												
	計												
出	滿期ニナリシ者												
	他府縣ヘ出住セシ者												
	執行中犯罪ニヨリ刑ヲ受ケシ者												
	監視規則ニ違犯セシ者												
	逃亡者												
	死亡者												
	其他												
	計												
殘	本月末日現在												

火災		
失火ノ度數		
放火ノ度數		
貰火及不審火ノ度數		
合計	延燒セシ度數	
	延燒セザリシ度數	
	計	
火災ニ罹リシ軒數		
燒失セシ建坪		

押送		
刑事被告人	度數	
	日數	
	男	
	女	
囚人	度數	
	日數	
	男	
	女	
合計	度數	
	日數	
	男	
	女	
	男女計	

屠畜	
牛	
馬	
羊	
豚	
計	

乳牛及搾取		
乳牛頭數	始搾	
	廢搾	
	現在（本月末日）	
搾乳數量		

變死者ノ年齢及原因	類別	男	女
合計			

自殺	因由	十六年未滿 男	十六年未滿 女	十六年以上二十年未滿 男	十六年以上二十年未滿 女	二十年以上三十年未滿 男	二十年以上三十年未滿 女	三十年以上四十年未滿 男	三十年以上四十年未滿 女	四十年以上五十年未滿 男	四十年以上五十年未滿 女	五十年以上 男	五十年以上 女	合計 男	合計 女
合計															

火藥營業者ノ賣買シタル種類數量	類別	前月末日現在高	買入高	計	賣捌高	本月末日現在高

銃砲	類別	前月末日現在	本月中 増	本月中 減	本月末日現在
軍用銃	洋形				
免許銃	和形				
	洋形				
	和形				
	合計				

盜難ニ羅リシ財産	類別	件數	貨幣	穀物	衣類	家畜	雜品	代價
被盜金品	件數							
被盜金品	數量							
被盜金品	代價							
被盜金品	點數							
被盜金品	代價							
被盜金品	個數							
被盜金品	代價							
被盜金品	合計							

得逸走畜	逸走畜及得逸走畜	類別	牛	馬	其他	計
	逸走畜					

遊客人員	乘兒	男	女	計

檢査	檢視檢證度數	檢視	檢證	計
黴毒	娼妓檢査所名度數	檢査延受人	忠者	眞性假性

遺失物及得遺失物	件數	貨幣	物件	件數	貨幣	物件	件數
業名	開業	廢業	本月末日現在	業名	開業	廢業	本月末日現在

得遺失物	官廳內	官廳內	官廳內	官廳內	官廳內	官廳內	官廳內
業名	開業	廢業	本月末日現在	業名	開業	廢業	本月末日現在

得遺失物處分	人民	人民	人民	人民	人民	人民	人民
業名	開業	廢業	本月末日現在	業名	開業	廢業	本月末日現在

得遺失物處分	官沒還主給與	官沒還主給與	官沒還主給與	官沒還主給與	官沒還主給與	官沒還主給與	官沒還主給與
業名	開業	廢業	本月末日現在	業名	開業	廢業	本月末日現在

警察ノ取締ニ關スル諸營業者

新聞紙雜誌類縛賣	銃砲賣買免許銃製造	銃砲修繕	火藥類賣買	煙火製造	煙火販賣	導火線製造	導火線販賣	古著	古道具	古書籍	古書畵	古銅鉄

潰金銀	古時計	古刀劍	質屋	彫刻	人力車	人力橇	乘合馬車	乘合馬橇	通船	鑛治	灸治	按摩	賣藥部外品請賣

賣藥部外品請賣	浴湯	旅人宿	下宿	木賃宿	雇人口入	料理店	藝妓	貸馬	遊戲場	劇場	寄席	牛乳搾取販賣	牛乳請賣

乙種氷雪請賣	屠畜	賣肉

備考

一　盜難、救護、就捕犯罪人及逆警罪犯諸犯則人員、火災、變死、棄兒ハ明治二十三年八月内務省訓令第三十號内務報告例第三十五表、第三十六表、第三十七表、第三十九表、第四十表、記載例ニ依リ記入スヘシ

一　就捕犯罪人及違警罪犯諸犯則人員ノ罪狀、警察上ニ死傷セシ人員ノ類別、變死ノ類別、自殺者ノ年齢及因由ノ因由ハ明治二十三年八月内務省訓令第三十號内務報告例第三十七表ノ罪狀、同第四十二表ノ類別、同第四十一表ノ因由ト同樣記載スヘシ

一　押送日數ハ押送者各人ニ要シタル日數ヲ記入スヘシ又刑事被告人ト囚人トヲ一度ニ押送シタルトキハ度數ト日數ハ刑事被告人ノ欄ニノミ記入シ囚人ノ欄ニハ之ヲ除クヘシ

一　火藥營業者ノ賣買シタル種類數量ノ類別ハ明治二十七年四月訓第百三十一號火藥取締細則取扱手續第四號樣式、火藥類賣買數量表種類同樣記載スヘシ

一　警察ノ取締ニ關スル諸營業者ノ内古著、古道具、古書籍、古書畫、古銅鉄、潰金銀、古時計、古刀劍等ノ營業者ニシテ之レ等二種以上ノ營業ヲ兼ヌル者及旅人宿、下宿、木賃宿等ノ營業者ニシテ之レ等二種以上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ重モナル營業ニ就キ其營業等シキトキハ業名記載ノ前後ニ從ヒ前記業名ノ下ニハ其數ヲ記シ他ノ業名ノ下ニハ特ニ朱字ヲ以テ其數ヲ記シ總數ト重復數トヲ識別スルニ便ナラシムヘシ

一　樣式ニハ横線ノミヲ示ス者ト雖モ進達ノ表ニハ縱線ヲ加フヘシ又記入スヘキ事項ナキ空欄アラハ縱線ヲ塡充シテ脱漏ニアラサルヲ證スヘシ

一　數位ハ金員ハ厘位ニ量數ハ合位ニ坪數ハ才位ニ止メ一位ニ丶ヲ付シ傍ニ圓石坪等ノ文字ヲ記載スヘシ

一　前月ニ比シ著シキ增減アル者ハ其事由ヲ備考ニ記載スヘシ

○明治二十五年一月十六日北海道廳訓第十號（警察費ニ關スル件ヲ警察分署宛）

客年九月訓第九十八號警察報告心得第六條ニ出火報告ハ先電信ヲ以テ報告シ後郵報スヘキ旨及訓令候處二十戸以上迚ニ重要ノ關係アル建造物ノ火災又ハ火災ノ爲メ死人アリタルトキノ外電報ニ及ハス郵便ヲ以テ報告スヘシ

但二十戸以内ノ火災ト雖モ其土地ノ興廢ニ關スル如キ場合ハ從前ノ通電報スヘシ

○明治三十一年二月五日北海道廳訓第三十二號（警察部、警察署、警察分署宛）

戸口調査規則左ノ通定ム

戸口調査規則

第一條　戸口調査ハ警察署長警察分署長ニ於テ之ヲ幹理シ管區受持巡査ヲシテ其區内ニ於ケル戸口ヲ調査セシム

第二條　戸口調査ノ要旨ハ豫テ居住者ノ員數增減及其他ノ情況ヲ詳知シ警察上緩急變通ノ便ヲ圖ルニアルヲ以テ簿冊ニ登錄スヘキ事項ノ外尚ホ左ノ各項ヲ知得スルヲ要ス

一　資　産
二　所　得
三　性　質
四　素　行

第三條　戸口調査ハ日出前日沒後之ヲ爲スヘカラス

第四條　戸口調査ノ際ハ殊ニ温和ヲ旨トシ人民ノ迷惑セサル樣注意スヘキハ勿論老幼婦女等ニシテ應答ニ堪ヘサル者ニ對シテハ強テ答辨ヲ求ムヘカラス

第五條　左ニ掲クル事項ハ戸口調査ノ際最モ注意シ之ヲ認知シタルトキハ直ニ署長ニ申告スヘシ

一　孝子、貞婦、義僕

二　頓ニ貧困ニ陷リ又ハ暴ニ富有ニ至リタル者

三　身分不相應ノ金品ヲ所持シ若クハ金品ヲ浪費スル者

四　其他警察上視察取締ヲ要スヘキ者

第六條　管區受持巡査ハ區内住民ヲ左ノ三種ニ區別シ調査スヘシ其種別判明ナラサルモノハ署長ノ指揮ヲ受ケ査定スヘシ

甲種、官吏、公吏、華族、其他資産常職アリ性行不良ナラサル者

乙種、資産常職アルモ性行稍不善ナル者、資産常職ナキモ性行不良ナラサル者及警察ノ取締ニ屬スル諸營業者

丙種、假出獄者、被監視者、刑餘者其他惡評アル者

第七條　戸口調査ノ回數時期ハ左ノ如クスヘシ

甲種　一箇年二回　自一月至六月　自七月至十二月　一回

乙種　同　三回　自一月至四月　自五月至八月　自九月至十二月　一回

丙種　一箇月一回　毎月自一日至末日　一回

一　以上函館、札幌、小樽三警察署所在地市街連擔地ニ適用ス

甲種　一箇年一回　自七月至十二月　一回

乙種　同　二回　自一月至六月　自七月至十二月　一回

丙種　同　三回　自一月至四月　自五月至八月　自九月至十二月　一回

以上函館、札幌、小樽ヲ除ク各警察署警察分署所在地市街連擔地ニ適用ス

甲種　一箇年一回　自七月至十二月　一回

乙種　同上　自七月至十二月　一回

丙種　一箇年二回　自一月至六月　自七月至十二月　一回

以上前記二項以外ノ地ニ適用ス

第八條　署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ前條ノ時期回數ノ外臨時調査セシムルコトアルヘシ

第九條　管區受持巡査缺員又ハ病氣等ニシテ戸口調査ヲ行フコト能ハサルトキハ署長ニ於テ他管區受持巡査又ハ特務巡査ニ特命シ補助セシム

第十條　左ニ掲クル事項ハ直接該家ニ就キ調査スヘシ

一　在住者ノ員數、族籍、身分、職業、氏名出生年月日

二　前住地轉住地及其年月日

三　種痘ノ濟否

第十一條　第二條第五條ニ掲クル事項ハ間接ニ生計ノ模樣家人ノ睦否近隣ノ風評既往ノ經歷交際

如何出入人ノ良否等ニ據リ之ヲ警査知得スヘシ

第十二條　處刑ノ有無ハ可成直接ノ調査ニ依ラスシテ知得スヘシ其處刑者タルコトヲ知得シタルトキハ罪質刑名刑期等直接調査スルモ妨ケナシ

第十三條　左ニ掲クル者ハ調査ノ限リニアラス

一　在兵營內者

二　在監獄內者

第十四條　學校寄宿舍ニ在ル者ハ直接ノ調査ヲ爲サス其當局者ニ就キ單ニ人員ヲ聞取リ之ヲ簿冊中ニ登錄シ置クヘシ

第十五條　外國人居留地及其他ノ事情ニ依リ本則ニ據リ難キ場合ハ便宜調査方法ヲ設ケ警部長ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條　戶口調査ハ管區受持巡査非番ノ日執行スヘシ但駐在所ハ此限リニアラス

第十七條　戶口調査ノ爲メ每戶ニ警番號ヲ付スヘシ但該家々人ニ就キ警番號札ヲ付スル旨ヲ告ケ家宅ノ體裁ヲ損セサル樣注意スヘシ

第十八條　戶口調査簿ハ各二部ヲ調製シ其一部ハ警察署又ハ警察分署ニ備ヘ他ノ一部ハ管區受持巡査之ヲ所持スヘシ

函館、札幌、小樽三警察署所在地ノ管區ハ調査簿一部ヲ調製シ管區受持巡査之ヲ所持シ警察署ニハ索引名簿ヲ備フヘシ

第十九條　戶口調査簿ハ警察官以外ノ者ニ披見セシムヘカラス

第二十條　管區受持巡査ハ戶口異動簿ヲ調製シ調査ノ都度其異動ヲ記入シ戶口調査簿訂正ノ用ニ供スヘシ

第二十一條　戶口調査簿ノ訂正ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ爲スヘシ

署所在地

戶口異動簿ニ記入シタル後三十日以內ニ於テ二部共非番ノ日ニ於テ訂正スヘシ

署所在地外

戶口異動簿ニ記入シタル後三十日以內ニ於テ先ツ自己所持ノ調査簿ヲ訂正シ受訓其他ノ爲メ出署シタルトキハ該簿ヲ署長ニ差出シ訂正未濟ノ分ヲ持歸リ三十日以內ニ於テ訂正シ交互訂正スヘシ

第二十二條　管區受持巡査ハ丙種中特ニ注意ヲ要スヘキモノト認ムル者他ニ轉住シタルトキハ其所轄內ニ在テハ直ニ受持巡査ニ所轄外ニ係ルモノハ所屬署長ニ其旨報告スヘシ

第二十三條　警察署長警察分署長其他監督官ハ隨時調査簿及異動簿ヲ檢閱スル外便宜實地ニ就キ調査ノ整否ヲ監査スヘシ

第二十四條　管區受持巡査ハ每年二回六月十二月戶口表（別紙樣式ニ準ヒ）調製シ前期ハ七月十日後期ハ翌年一月十日限リ署長ニ差出シ署長ハ之ヲ一表ニ統計シ其月末日限リ警部長ニ進達スヘシ

第二十五條　本則ヲ施行スル爲メ必要ナル手續ハ警部長之ヲ定ム

○諸取締

○明治二十五年十二月二十日北海道廳令第四十九號

摺付木製造所取締規則左ノ通相定ム

但明治十八年三月根室縣甲第九號布達ノ内「マッチ」製造ニ係ル分ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

摺付木製造所取締規則

第一條　摺付木ハ許可ヲ得タル製造所ノ外ニ於テ製造ス可カラス

第二條　摺付木製造所ヲ建設セントスル者ハ左ノ諸件ヲ具シ所轄警察署又ハ分署ヲ經由シ當廳ヘ願出許可ヲ受ク可シ

一　製造所ノ位置及地名番號並坪數ヲ記シタル圖面

二　構内各室ノ配置及構造方法書

三　製造所周圍ヨリ四方三十間以内ノ地主家主現住者ノ承諾書

第三條　許可ヲ得タル後第二條ノ各項目ヲ變更シ又ハ改修セントスルトキハ更ニ願出許可ヲ受ヘシ

第四條　製造室製品貯藏室及原料室ハ各之ヲ區畫ス可シ

第五條　製造所ハ可成石又ハ煉化石ヲ以テ築造ス可シ

第六條　製造室及原料室内ニ於テ飲食喫烟ヲ爲シ又ハ火若クハ發火質ノ物品ヲ取扱フヘカラス

第七條　製造者又ハ其代理者ハ製造中其製造所ヲ離ルヘカラス

第八條　製造者自ラ製造所ヲ監理シ能ハサルトキハ相當ノ代理者ヲ定メ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受ク可シ

第九條　十六歳未滿ノ男女又ハ癲癇病質ノ者ヲ製造ニ使用スヘカラス

第十條　製造者轉居改氏名及廢業シタルトキハ三日以内ニ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ屆出ヘシ

第十一條　製造所ハ左ノ看板ヲ掲クヘシ

二尺五寸

免許摺付木製造所

住所

氏名

第十二條　製造所ハ警察官臨檢スルコトアル可シ

第十三條　本則第一條第三條第六條ニ違背シタルモノハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四條第七條第八條第九條第十條第十一條ニ違背シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第十四條　現在營業ノモノハ來ル明治二十六年一月三十日限リ本則ニ依リ願出可シ

○明治二十年六月十三日北海道廳令第六十八號

墓地埋葬取締細則左ノ通定ム

但明治十七年札幌縣甲第八十三號明治十七年函館縣甲第三十七號明治十八年根室縣甲第二十二

號布達ハ廢止

墓地及埋葬取締細則

第一條　墓地及火葬場ハ人民ノ請願又ハ郡區長ノ選定ニ依リ之ヲ許可スヘシ

第二條　墓地及火葬場新設ノ請願書ハ所轄警察署又ハ分署ヲ經由スヘシ（二十五年十一月總令第三十九號ヲ以テ又ハ分署ノ四字追加）

第三條　墓地ヲ新設スルニハ道路河川及鐵道線ニ沿ハス現在人家ヲ距ル五丁以上土地高燥飲用水ニ障ナク且將來道路河川ノ開通及土地開墾人民移住ノ支障トナラサル地ヲ撰ム可シ

第四條　火葬場ハ民家又ハ人民輻輳ノ地ヲ距ル十丁以上ニシテ將來道路河川ノ開通及ヒ土地開墾人民移住ノ支障トナラサル地ヲ撰ミ可成火爐煙筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クノ裝置ヲ爲ス可シ

第五條　墓地ハ種族宗旨ヲ分タス何人ニテモ埋葬スルコトヲ得但死刑ノ遺骸ハ別ニ墓地ノ一隅ヲ劃シテ埋葬スヘシ

第六條　墓地火葬場ニハ管理者一名若クハ數名ヲ置ク

第七條　郡區長ハ墓地又ハ火葬場最近ノ寺院住職及僧侶若クハ其他相當ノモノヲシテ便宜墓地火葬場ノ管理者タラシムヘシ但從來定マリタル管理者アルモノハ此限ニアラス

第八條　人民ノ請願ニ依リ墓地火葬場新設ノ許可アリタルトキハ十日以内ニ其管理者ヲ取極メ郡區役所又ハ戸長役場ニ屆出ヘシ其管理者變換アルトキハ其都度郡區役所又ハ戸長役場ニ屆出ヘシ

第九條　墓地ハ周圍ニ樹木ヲ栽ユ可シ墓地内ニハ大樹又ハ塀墻ヲ存ス可カラス但現存ノモノハ此限ニアラス

第十條　墓地管理者ハ常ニ墓所ヲ監護シ清潔ニ掃除ヲ爲シ勉メテ墓碑墓標等ノ顚倒ヲ防クヘシ

第十一條　火葬場管理者ハ火爐煙筒ノ掃除ニ注意スル等火化ノ障害ヲ防クヘシ

第十二條　壙穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニ依リ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ハ格別ナリトス

第十三條　火葬ハ可成日没後之ヲ行フヘシ

第十四條　死屍ヲ埋葬又ハ火葬セントスル者ハ主治醫ノ死亡屆ヲ添ヘ郡區長又ハ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ

醫師ノ治療ヲ受クル能ハスシテ死亡シタルモノヲ埋葬又ハ火葬セントスルトキハ醫師ノ檢案ヲ差出シ郡區長又ハ戸長ノ認許證ヲ乞フ可シ若シ山川懸隔醫師ノ檢査ヲ得難キトキハ隣祐二名以上ノ保證書ヲ以テ認許ヲ乞フコトヲ得但其認許ヲ乞フ爲メ數日ヲ要スル場所ニ於テハ保證書ヲ以テ埋葬スルヲ得ヘシト雖トモ速ニ其死狀ヲ郡區長又ハ戸長ニ屆出ヘシ

姙娠四月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師若クハ産婆ノ死産證ヲ以テ郡區長又ハ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ

變死ニ係ルトキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ認印ヲ乞ヒ差出スヘシ

但シ醫師立會ナキトキハ其旨ヲ記シ檢視官ノ認印ヲ受ケ差出スヘシ（二十八年十月總令第七十四號ヲ以テ但書追加）

未已決囚ノ死屍ヲ埋葬又ハ火葬セントスルトキハ獄醫ノ死亡屆寫ニ司獄官ノ檢印ヲ乞ヒ差出スヘシ

第十五條　郡區長又ハ戸長ハ前條ノ屆書證書ヲ領收シタルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ノ認許書ヲ與

ヲ可カラス

第十六條　管理者ハ葬主ヨリ領收シタル認許證若シハ保證書ヲ取纏メ三月毎ニ之ヲ所轄警察署又ハ分署ニ差出ス可シ（二十五年十一月廳令第三十九號ヲ以テ又ハ分署ノ四字追加次條同シ）

第十七條　改葬ヲ爲サントスルモノハ所轄警察署又ハ分署ノ許可ヲ乞フ可シ

但虎列刺發疹窒扶私痘瘡ノ死屍ニシテ火化セサルモノハ改葬ヲ許サス

第十八條　死者ノ姓名族籍位勳爵法號及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止リ誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻セサル墓標ノ建立ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クルニ及ハス

第十九條　管理者ハ墓地ノ繪圖及墓籍ヲ調製シ置クヘシ

第二十條　埋葬又ハ火葬ヲ行フトキ警察官及巡査臨時監視スルコトアルヘシ

第二十一條　本則第五條但書第十二條第十六條ニ違犯シタル者又ハ第十條第十一條ニ違犯シ督促ヲ受ケ尚ホ爲ササル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス（二十八年十月廳令第七十四號ヲ以テ本條追加）

附則

從來許可シタル墓地火葬場ニシテ本則第三條乃至第五條ニ抵觸スト雖トモ此規則ヲ適要セス但火葬場ハ本則ニ從ヒ漸次改良ス可シ

○明治二十年六月十三日北海道廳訓令第六十八號（警察署宛）

今般廳令第六十八號ヲ以テ墓地埋葬取締規則相定候ニ付テハ仍ホ左ノ通心得ヘシ

一　墓地火葬場及埋葬取締ハ通常衛生警察ニ於テ忽セニス可ラサルハ勿論殖民地ニ在テハ一種人情ノ感情ニ關スルモノ多シ故ニ取締上特ニ之カ注意ヲ要ス可シ

一　管理者ノ勤怠ハ常ニ之ヲ視察シ便宜指揮督促シ墓地掃除等疎漏ナキ樣取計フヘシ

一　人民ノ請願ニ係ル墓地火葬場ノ新設願書ハ地位其他適否ノ意見ヲ付シ速ニ之ヲ進達スヘシ

○明治二十年十月十二日北海道廳訓令第百二十號（警察署宛）

墓地及火葬場設置ニ係ル願書ヲ警察署ニ於テ受理シタルトキハ先ツ郡區役所ニ移シテ左ノ調査ヲ爲サシメタル上明治二十年六月第六十八號訓令第三項ニ從ヒ進達スヘキ義ト心得ヘシ

一　國郡町村番地官有民有ノ區別（民有地ナレハ其地目官有地ナレハ其樣地目）及縱橫間數竝面積

一　實測繪圖面

○明治二十二年三月十五日北海道廳令第二十號

墓地火葬場ヲ撰定スルニ當リ沿海又ハ山間ノ村落等ニ於テ明治二十年六月北海道廳令第六十八號墓地及埋葬取締細則第三條及第四條制限ノ距離ニ依リ難キ場合ニ於テハ實地調査ノ上該墓地ハ一町以上火葬場ハ二町以上ノ場所ニ限リ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

○明治二十四年九月二十二日北海道廳訓第百十二號（警察部內一般宛）

明治二十四年七月內務省令第十一號刑死者墓標建設等ニ付取扱方左ノ通心得ヘシ

第一條　省令第一條第三項ハ石材又ハ木材ノ外金屬等ヲ用ヒ及ヒ其形チ人像等ニ擬シ其他華美ノ裝飾及ヒ彫刻等ヲ許ササルハ勿論普通一般ノ墓標ヨリ巨大ニシテ衆目ニ觸レ易キモノ亦異樣ノ

意義ニ包含スルモノトス

第二條　刑死者ノ罪質ニ二種アリ甲ハ皇室ニ對スル罪及ヒ政治上ノ犯罪（通常謀殺ノ處刑ヲ受ケタルモノト雖モ其目的政治上ニ關スルモノハ包含ス）又ハ兇徒聚集罪ノ類トシ乙ハ常事犯罪トス又ハ均シク刑死者ニテ十數年ヲ經過シタルカ爲メ自ラ社會ノ感情ヲ薄クシタルモノアリ犯行僅カニ數年ノ前ニアリテ而モ其行爲ノ甚タシク人心ヲ感動セシムルモノアリ警察署ハ宜シク以上ノ種別ニ依リ祭祀ノ出願アルトキハ其罪質及ヒ感情ノ厚薄影響ノ如何等ヲ攻査シ甲種ニシテ其犯行數年ヲ出テサルモノハ渾テ公然ノ祭祀ヲ許サス其他ノモノニ在テハ甚シク世道人心ニ影響ヲ及ホスノ虞ナキモノニ限リ之ヲ許可スヘキモノトス

第三條　省令第二條ハ新聞紙其他ノ方法ニ依リ廣告ヲ爲サスト雖モ親族以外ノモノヲ招待シ又神官僧侶等ヲ招請シ其他追薦會等ヲ催スモノハ亦公然ノ祭祀トナス

第四條　省令第三條第二項ハ新聞條例第十七條集會政社法第十一條ニ規定スル外一切ノ行爲ヲ以テ公然賞揚哀悼スルヲ禁シタルモノナレハ死者ノ遺物ヲ陳列展覽シ又ハ墓前ニ必要ナル花挿香臺等ヲ親族ヨリ供フルモノノ外旗幟燈臺其他ノ物品ヲ備ヘ又ハ詩歌文章等ヲ墓前ニ供シ賞揚哀悼ノ意ヲ表スルノ行爲ハ總テ禁止スヘキモノトス

第五條　省令第五條ハ政治上ニ關スル罪犯ニシテ其罪死刑ニ該ラス又ハ自殺殺害等ニ因リ刑ノ宣告ヲ受クルニ至ラスト雖モ其行爲ノ世道人心ニ關係スルモノ（例ヘハ津田三藏西野文太郎來島恒喜等ノ如キモノ）ニ向テ必要ノ處分ヲ施行セントスルノ趣意ニ外ナラス故ニ同條ハ臨機第一條第三條中其必要ト認ムル條項ニ

係ル所爲ヲ禁シ隨時適應ノ處分ヲナスヲ要ス其命令ハ其親族又ハ關係人ニ對シ命令書ヲ發シ又ハ口達シテ請書ヲ取徵クヲ要ス

第六條　墓地及ヒ埋葬取締規則第七條ニ依リ刑死者及ヒ省令第五條ニ掲クルモノノ爲メニ碑表ノ建設ヲ願出ルモノアルトキハ墓地ノ内外ヲ問ハス渾テ之ヲ許可セサルヲ要ス

第七條　省令第十一號ハ墓標ノ建設第一條ニ觸ルルモノト雖モ渾テ既往ニ及ホササルハ勿論ナリトス

○明治二十年四月二十一日北海道廳令第三十八號

屠畜並賣肉取締規則

第一條　此規則ニ畜ト稱スルハ牛馬羊豚ノ四畜トス

第二條　屠畜場ヲ新設セントスルモノハ其場所（借地ナレハ地主連署）及構造ノ圖面ヲ添ヘタル願書ニ戸長ノ奥印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ニ差出許可ヲ受クヘシ但敗地官有地ニ係ルトキハ同時賣貸出願スヘシ屠畜場ヲ移轉セントスルモノ又ハ讓渡サントスルモノハ願書（讓渡ハ讓受人連署）ニ戸長ノ奥印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ニ差出許可ヲ受クヘシ（三十四年十二月廳令第五十八號ヲ以テ警察署ノ下又ハ分署ノ四字追加下第五條中亦同シ）

屠畜場ヲ改修セントスルモノ又ハ廢業セントスルモノハ其三日前ニ於テ戸長ノ奥印ヲ受ケ所轄警察署ニ屆出ヘシ轉居改氏名ヲ爲シタルトキハ其都度直ニ所轄警察署ニ屆出ヘシ

第三條　屠場ハ左ノ場所ニ於テ開設スルヲ許サス

一　人家ヲ隔ツル貳町以内ノ場所

一　飲料水ニ接近ノ場所
一　市街村落ニ通スル河水ノ上流ニ接近ノ場所

第四條　屠畜場ハ常ニ掃除ニ注意シ且屠室ハ屠殺ヲ了リタル毎ニ洗滌シ血液其他ノ汚物ハ即日之ヲ除クヘシ

第五條　屠畜營業ヲナサントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ轉居改氏名若シクハ廢業ノ者ハ直ニ屆出ヘシ

第六條　屠殺ヲナサントスルトキハ所轄警察署又ハ分署ヘ屆出ヘシ（二十四年十二月廳令第五十八號ヲ以テ改正）

第七條　獸畜傳染病流行スルトキハ郡區役所ニ於テ屠殺ヲ停止スヘシ

第八條　屠畜場ハ臨時警察官吏獸醫若シクハ醫員ヲシテ臨檢セシムルコトアルヘシ此場合ニ於テ病獸又ハ肉質不良ト認定シタルトキハ其屠殺若シクハ販賣ヲ禁止スルコトアルヘシ

第九條　屠畜營業人ハ左ノ看板ヲ戸外ニ掲クヘシ

免許屠畜營業
姓　名

第十條　賣肉營業ヲ爲サントスルモノハ屠畜營業者連署ノ上所轄警察署又ハ分署ヘ屆出ヘシ轉居改氏名若クハ廢業シタルトキハ其旨直チニ屆出ヘシ（二十四年十二月廳令第五十八號ヲ以テ本條改正）

第十一條　屠畜營業人賣肉ヲ兼業セントスルトキハ第十條ノ規則ニ從フヘシ

第十二條　腐肉ニ傾キタル肉ヲ販賣スヘカラス

第十三條　賣肉ハ吊下ケ清潔ナル麻布又ハ金巾ノ類ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

第十四條　賣肉營業者ハ左ノ看板ヲ戸外ニ掲クヘシ

免許屠肉受賣營業
姓　名

第十五條　此規則第二條第四條第五條第六條第九條第十條第十一條第十二條第十三條及第十四條ニ違犯スルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

附　則

從來ノ屠場及ヒ屠畜營業者賣肉營業者ハ本年七月三十一日迄ニ本則ニ據リ更ニ出願スヘシ

明治十六年四月函館縣甲第二十三號布達ハ廢止ス

○明治二十一年十一月二十八日北海道廳令第七十二號

牛乳搾取販賣取締規則左ノ通リ定ム

但明治十六年三月函館縣甲第十六號布達廢止ス

牛乳搾取販賣取締規則

第一條　牛乳搾取販賣セントスルモノハ乳牛飼養場ノ圖面及頭數牛籍寫ヲ添所轄警察署又ハ分署ヘ願出免許鑑札ヲ受ク可シ（二十五年三月四日廳令第十號ヲ以テ「又」ノ四字追加下第五條第六條同シ）

第二條　乳牛ハ獸醫又ハ之レニ代ル者ノ檢査證ヲ以テ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ許サス

第三條　乳牛ハ人家稠密又ハ臭氣人家ニ達シ或ハ飲用水ニ妨害ヲ與フル等衞生ニ害アル箇所及ヒ飲用水不良ノ場所ニ於テ畜養スルヲ許サス

第四條　第二條ノ認可ヲ得タル乳牛ト雖モ左項ニ觸ルルモノハ搾取販賣ヲ禁止シ牛疫流行ノ場合ニ於テハ搾取販賣ヲ停止スルコトアルヘシ

但乳牛ト病牛ト同舍ニ畜養ス可カラス

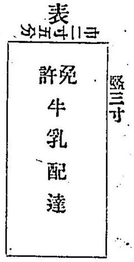
一　乳牛ノ飲料ニ害アル病ニ罹リ又ハ病後二十一日以内ノモノ

二　分娩後二十一日以内ノモノ

第五條　乳牛頭數ヲ增減シタルトキハ第一條ノ手續ニ依リ所轄警察署又ハ分署ヘ屆出可シ

第六條　牛乳ヲ請賣セントスルモノハ營業者ト連署所轄警察署又ハ分署ニ願出鑑札ヲ受ク可シ

第七條　牛乳ヲ配達スルトキハ其容器ヘ左ノ標札ヲ付ス可シ



第八條　營業者請賣者住所氏名ヲ轉換シタルトキ免許鑑札ノ書換ヲ願出廢業スルトキハ鑑札ヲ返納スヘシ

第九條　乳汁容器及濾斗ハ陶器硝子又ハ鐵葉製ノモノニ限ルヘシ

第十條　畜養場及乳汁ハ警察官時時之ヲ檢査ス可シ

第十一條　本則第一條第二條第三條第四條第七條ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラル可シ

○明治二十二年十一月二十二日北海道廳令第六十九號

函館新水道取締規則

第一條　龜田郡赤川水道用水取入口及其上流二百間以內ニ於テ鳥魚ヲ捕リ又ハ游泳シ又ハ諸物品ヲ洗フ可カラス

第二條　前條ノ場所及沈澱池配水池ニ瓦礫其他ノ物品ヲ投棄シ又ハ凡テ水質ヲ汚濁スルノ所爲ヲナス可カラス

第三條　鐵管其他水道屬具ヲ發掘シ又ハ凡テ之ヲ傷害スルノ所業ヲ爲ス可カラス

第四條　公道ニアラサル水道敷地內ニ諸車牛馬等ヲ牽入又ハ土堤ニ上リ又ハ擅ニ其竹木下草ヲ伐採ス可カラス

第五條　供水栓防火栓其他水道ニ屬スル一切ノ用具ヲ濫ニ使用シ又ハ玩弄ス可カラス

第六條　供水栓近傍ニ於テ魚鳥又ハ諸物品ヲ洗フヘカラス

第七條　本則各條ニ違犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以

下ノ科料ニ處ス（三十八年十月廳令第七十六號ヲ以テ改正）

○明治二十二年一月二十六日北海道廳令第三號

劇場取締規則左ノ通定ム

但明治十五年四月函館縣甲第十三號布達明治十七年九月札幌縣甲第五十三號布達明治十七年九月根室縣甲第五十八號布達ハ廢止ス

劇場取締規則

第一條　劇場ヲ開設セントスル時ハ座主タルヘキ者願書ニ圖面ヲ添ヘ所轄警察署ヘ願出許可ヲ受クヘシ

第二條　劇場ノ構造ハ新築改造ヲ問ハス左ノ制限ニ從フヘシ

一　構造ハ堅牢ニシテ空氣ノ流通ヲ充分ナラシムヘシ

一　木戸ハ扉ヲ外開ニナスヘシ

一　客席ニ接シ二個以上ノ非常口ヲ設クヘシ

一　高棧敷アルモノハ幅五尺以上ノ階子二個以上ヲ設クヘシ

一　點火ノ場所ハ不燃質物ヲ以テ裝置スヘシ

一　棧敷ノ通路ハ三尺以上タルヘシ

一　周圍ハ各五間以上ノ火除地ヲ設クヘシ

一　便所ハ客室ニ離隔シテ之ヲ設ケ石敲キ若クハ漆喰等ヲ以テ構造シ尿尿ノ滲透及臭氣ノ漏泄ヲ防クヘシ

第三條　劇場ハ新築改造トモ落成ノ上警察署ノ檢査ヲ受クルニアラサレハ演劇興行ヲ許サス

第四條　演劇ヲ興行セントスル時ハ仕組書ヲ添ヘ警察署又ハ分署ニ屆出認可ヲ受クヘシ

第五條　取締ノ爲メ臨場スル警察官ノ席場ハ豫テ警察署ノ指定スル所ニ設クヘシ

第六條　演劇猥褻ニ渉リ又ハ世安ニ妨害アリト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトアルヘシ

第七條　觀客ヲ樂屋ニ入レ若クハ俳優ヲ客席ニ入ラシムヘカラス

第八條　興業時間ハ午後十二時ヲ過クヘカラス

第九條　劇場及演劇ニ關スル一切ノ事項ハ座主其責ニ任スルモノトス

第十條　高棧敷ハ觀客ノ員數ヲ定メ警察署ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條　高棧敷ニハ定員外ノ觀客ヲ入ルヘカラス

第十二條　廣場又ハ座主變換シタルトキハ所轄警察署ニ屆出ヘシ

第十三條　第四條ヨリ第九條マテノ規則ハ劇場外ノ演劇興行ニモ又之ヲ適用ス

第十四條　本則第一條第三條第四條第七條第十條第十一條ニ違背シ若クハ第六條ニ依リ停止ノ處分ヲ受ケタル者ハ違警罪ニ依リ罰セラルヘシ

附　則

第十五條　從前許可シタル劇場ニシテ本則第二條ノ制限ニ抵觸スルモノハ向後改築若クハ修繕ノ時ヲ期シ其制限ニ從ハシム

○明治二十二年一月二十六日北海道廳令第四號

寄席取締規則左ノ通定ム

但明治十七年六月函館縣甲第十九號布達ハ廢止ス

寄席取締規則

第一條　寄席營業ヲナサントスルトキハ席主タルヘキ者其願書ニ寄席ノ構造圖面ヲ添ヘ所轄警察署ヘ願出許可ヲ受クヘシ

第二條　寄席ニ於テハ特ニ警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クルニアラサレハ左ノ演藝ノ外興行スルヲ許サス

一　講談　一　落語　一　淨瑠理　一　手踊　一　唄　一　音曲　一　寫繪

一　操人形　一　手品

第三條　世安ヲ害シ風俗ヲ紊ルノ演藝ヲナサシムヘカラス

第四條　客席ヲ暗黑ニシ又ハ客ヲ樂屋ニ入ラシムヘカラス

第五條　興業毎ニ演藝者ノ族籍氏名及藝名技藝トモ所轄警察署又ハ分署ニ屆出ヘシ

第六條　無鑑札ノ者ニハ演藝セシムヘカラス

第七條　高樓敷アルモノハ客ノ員數ヲ定メ警察署又ハ分署ノ認可ヲ受ケ定員外ノ客人ヲ入ルヘカラス

第八條　席場ハ潔ヲ清潔ニシ便所ハ臭氣ノ客席ニ及ハサル樣構造スヘシ

第九條　夜間ハ十二時限リ閉席スヘシ

第十條　廢業又ハ席主變換シタルトキハ十日以內ニ所轄警察署又ハ分署ニ屆出ヘシ

第十一條　本則第一條第二條第三條第四條第五條第六條第七條ニ違背シタル者ハ違警罪ニ依リ罰セラルヘシ

○明治二十二年二月二日北海道廳令第十五號

本年一月北海道廳令第四號寄席取締規則第六條ハ當分ノ內之ヲ施行セス

○明治二十二年一月二十六日北海道廳令第五號

諸興行取締規則左ノ通定ム

但明治十七年六月函館縣甲第十八號布達ハ廢止ス

諸興行取締規則

第一條　諸興行トハ相撲輕業觀世物曲馬力持ノ類ヲ云フ

第二條　前條ノ興行ヲナサントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第三條　世安ヲ害シ風俗ヲ紊ルノ所爲ヲナサシムヘカラス

第四條　觀客ヲ藝人ノ休息所ニ入ラシムヘカラス

第五條　興行場ニハ警察官ノ席場ヲ設クヘシ

第六條　興行時間ハ午後十二時限リトス

第七條　本則第二條第三條第四條ニ違背シタル者ハ違警罪ニ依リ罰セラルヘシ

○明治二十二年十一月二十九日北海道廳訓令號外警察署宛

近來觀物興行ヲ爲ス者ノ中禽獸蛇蝎ノ類ヲ生存ノ儘斷截シ又ハ之ヲ嚙噛シ其他殘酷ノ所業ヲ爲シ衆庶ノ觀覽ニ供スルモノ有之由右ハ風俗上最モ可厭モノニ付向後同樣ノ技ヲ演セントスル者アラハ嚴ニ之ヲ制禁スヘシ

○明治十七年九月三十日根室縣甲第五十九號布達

藝人取締規則別紙ノ通相定メ來ル十月十五日ヨリ施行ス

但現營業者ハ此規則ニ依リ同日限リ願出鑑札ヲ受クヘシ

右布達候事

（別　紙）

藝人取締規則

第一條　藝人（俳優軍談落語曲馬白拍子道化師等總テ劇場寄席類物場等ニ於テ營業ヲ爲ス者）タラントスル者ハ戸長（戸長アラサル地ハ郡長）ノ奥印ヲ受ケ所轄警察署又ハ分署ヘ願出テ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條　廢業スルトキハ第一條ノ手續ニ從ヒ所轄警察署又ハ分署ヘ屆出テ鑑札ヲ返納スヘシ

第三條　屬籍住所氏名ヲ轉換シ又ハ鑑札ヲ遺失毀損シタルトキハ第一條手續ニ從ヒ所轄警察署又ハ分署ヘ願出テ更ニ鑑札ヲ受クヘシ

但遺失毀損ニ係ルモノハ奥印ヲ要セス

第四條　第一條第三條ノ場合ニ於テハ鑑札手數料トシテ金拾錢ヲ納ムヘシ

第五條　夜間十二時ヲ過キ演劇又ハ講談等ヲ爲スヘカラス

但小屋掛ニ係ルモノハ日沒限トス

第六條　興行ノ許可ヲ得サル場所ニ於テ演劇講談等ヲ爲スヘカラス

第七條　猥褻又ハ世安ニ妨害アルノ所作講談等及劇場ニアラサル場所ニ於テ演劇類似ノ所作ヲ爲スヘカラス

第八條　寄席ニ於テ燈火ヲ消シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ客席ヲ暗黑ニスヘカラス

第九條　寄席ニ於テ來客ヘ鬪ヲ賣リ當リ鬪ト唱ヘ物品ヲ與フヘカラス

第十條　此規則ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

○明治二十八年三月十九日北海道廳令第二十六號

遊技場取締規則左ノ通リ定ム

但シ明治十五年六月札幌縣甲第五十九號布達ハ廢止ス

遊技場取締規則

第一條　本則ニ於テ遊技場ト稱スルハ其方法ノ何タルヲ問ハス衆人ヲシテ遊技ヲ爲サシムル公開ノ場所ヲ云フ

第二條　遊技場ヲ開設セントスル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ其改造變更ヲ要スルトキ亦同シ

一　場　所

二　遊技ノ方法
三　大弓場半弓場及室內射的場ハ其構造ノ仕樣書及圖面

第三條　大弓場半弓場及室內射的場ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ
一　大弓場及半弓場ノ射場ハ高サ八尺以上ニシテ幅一丈以上ノ石垣又ハ厚壁土俵ヲ以テ構造シ射道ノ上部及兩側ハ危險ヲ防クニ足ルヘキ構造ヲ爲スヘシ
二　室內射的場ノ射場ハ高サ五尺以上ニシテ土壁厚板若クハ鐵板ヲ以テシ兩側ハ危險ヲ防クニ足ルヘキ構造ヲ爲スヘシ

第四條　大弓場半弓場及室內射的場ハ新築改造變更トモ落成ノ上所轄警察官署ニ屆出檢査ヲ受クヘシ其檢査ヲ受クルニアラサレハ使用スルコトヲ得ス
檢査ヲ經タルモノト雖モ破損其他ノ事情ニ依リ危險ト認ムルトキハ警察官署ニ於テ修繕改造若クハ使用ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ

第五條　遊技場ニ於テハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ
一　白癡瘋癲者及酩酊者ニ遊技ヲ爲サシムヘカラス
二　開場時間ハ日出ヨリ午後十二時ヲ限リトス
三　賭博ニ類スル所業ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス
四　通行人ニ遊技ヲ勸メ又ハ客ノ求メナキ飲食物ヲ供スヘカラス
五　客ヲ宿泊セシムヘカラス若シ止ヲ得ス宿泊セシムルトキハ即時警察官署ニ屆出ヘシ
六　猥褻ノ所業ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス

第六條　馬又ハ弓銃ヲ使用スル遊技場ニ於テハ狂暴ナル馬匹若クハ破損シタル銃器弓矢等ヲ使用セシムヘカラス
御術又ハ射法ニ慣レサル者ニハ其方法ヲ敎示シ危害ヲ爲ササル樣注意スヘシ

第七條　遊技料ハ場內見易キ場所ニ揭示スヘシ

第八條　遊技場ニ於テ婦女ヲ雇入レ又ハ同居セシメタルトキハ其姓籍氏名年齡及年月日等ヲ記シ三日以內ニ所轄警察官署ニ屆出ヘシ其轉居又ハ解雇シタルトキ亦同シ

第九條　場主轉居改氏名死亡（死亡ノトキハ相續人ヨリ）若クハ廢場シタルトキハ五日以內ニ所轄警察官署ニ屆出ヘシ

第十條　本則第二條第四條第一項第五條第六條第七條第八條第九條ニ違背シ又ハ第四條第二項ノ命ヲ受ケ之ニ從ハサル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十一條　從來ノ遊技場ニシテ其構造ノ制限アルモノハ本則施行ノ日ヨリ三箇月以內其他ハ一箇月以內ニ本則第二條ニ依リ出願許可ヲ受クヘシ

○明治二十一年三月三十一日北海道廳令第二十一號
藝妓取締規則左ノ通相定メ本年五月一日ヨリ施行ス
但明治十六年七月函館縣甲第三十四號布達及明治十八年三月札幌縣甲第十號布達明治十六年十一月根室

縣甲第五十三號布達ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

藝妓取締規則

第一條　藝妓營業ヲ爲サントスル者ハ願書ニ族籍住所氏名年齡藝名等級ヲ記載シ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條　族籍住所氏名藝名等級ヲ變換シ及ヒ鑑札ヲ遺失毀損シタル時ハ第一條ノ手續ヲ以テ更ニ所轄警察署又ハ分署ニ願出鑑札ノ書換ヲ受クヘシ

第三條　免許鑑札ハ營業時間常ニ携帶スヘシ

第四條　免許鑑札ハ貸借又ハ讓與スルヲ得ス

第五條　廢業スル者ハ免許鑑札ヲ返納スヘシ

第六條　藝妓ハ便宜組合ヲ設ケ同業中ヨリ世話人一名ヲ撰擧シ所轄警察署又ハ分署ニ屆出認可ヲ受クヘシ

第七條　藝妓ハ娼妓兼業ノ者ニアラサレハ貸座敷ニ寄留若クハ宿泊スルヲ得ス

第八條　本則第一條第三條第四條第七條ニ違犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

本則第二條第五條ニ違背シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス（二十八年十月縣令第八十號ヲ以テ改正）

○明治二十七年二月二十二日北海道廳令第七號

明治二十一年三月北海道廳令第二十號貸座敷娼妓取締規則左ノ通改正ス

貸座敷娼妓取締規則

第一章　通則

第一條　貸座敷ハ本廳ニ於テ指定シタル區域地內娼妓ハ貸座敷內ニ限リ許可スルモノトス

第二條　貸座敷營業ヲ爲サントスル者ハ族籍住所氏名年齡等級（樓名又ハ屋號ヲ附スルモノハ其樓名屋號トモ）ヲ記シ取締ノ加印ヲ受ケ所轄警察官署ヘ願出許可ヲ受クヘシ

第三條　娼妓タラントスル者ハ族籍住所氏名年齡（妓名アルモノハ其妓名）揚代金ヲ記シ父母（父母ナキトキハ後見人）父母及寄留スヘキ貸座敷主ト連署シ取締ノ加印ヲ受ケ所轄警察官署ヘ願出免許證ヲ受クヘシ（二十七年四月廳令第二十號ヲ以テ括弧內父母ナキトキハノ下親權ヲ行フモノノ六字ヲ後見人ノ三字ニ改ム）

第四條　左ニ記載シタル各項ノ一ニ當ルモノハ貸座敷營業人タルコトヲ得ス

一　二十歲未滿ニシテ後見人ナキ者

二　白痴瘋癲ナル者

三　幼者略取誘拐ノ罪ヲ犯シタル者

四　公權剝奪及停止中ノ者

第五條　左ニ記載シタル各項ノ一ニ當ルモノハ娼妓タルコトヲ得ス

一　十六歲未滿ノ者

二　父母又ハ後見人ノ承諾ナキ者（二十七年四月縣令第二十號ヲ以テ又ハノ下親權ヲ行フ者ノ六字ヲ後見人ノ三字ニ改ム）

第六條　左ニ記載シタル各項ノ一ニ當ル者ハ取締ノ加印ヲ受ケ五日以內ニ所轄警察官署ヘ屆出娼

妓ハ免許證ノ返納又ハ書換再受ノ手續ヲ爲ス可シ

但娼妓ハ尚ホ貸座敷主ト連署スヘシ

一　廢業又ハ死亡シタルトキ（貸座敷主死亡ノトキハ相續人ヨリ娼妓死亡ノトキハ貸座敷主ヨリ）

二　轉居（警察官署間ノトキニ限ル）又ハ氏名、妓名、樓名、屋號ヲ變更シ若クハ妓名、樓名、屋號ヲ新ニ設ケタルトキ

三　等級（貸座敷ニ限ル）又ハ揚代金ヲ變更シタルトキ

四　免許證ヲ遺失毀損シタルトキ

五　寄留娼妓失踪逃亡又ハ復歸シタルトキ

第七條　貸座敷營業者又ハ娼妓ニシテ警察官署ノ異ナル地ニ移轉セントスルトキハ第六條ニ依リ廢業ノ屆出ヲ爲シ更ニ第二條又ハ第三條ノ手續ヲ爲ス可シ但娼妓ハ以前許可ヲ受ケタル警察官署ノ證明アルニ於テハ父母又ハ後見人ノ連署ヲ要セス

第八條　貸座敷營業者又ハ娼妓ハ左ノ等級ニ從ヒ其月ノ賦金ハ翌月十五日限リ指定ノ金庫又ハ收入官吏ニ納ムヘシ但シ廢業シタル者ハ即日之ヲ納付スヘシ

貸座敷　一ケ月

等級	金額	率
一等	金參圓	寄留娼妓十名以上ノ者
二等	金二圓	寄留娼妓五名以上十名未滿ノ者
三等	金一圓	寄留娼妓五名未滿ノ者

娼妓　一ケ月

等級	金額	率
一等	金七十五錢	揚代金七十五錢以上ノ者
二等	金五十錢	揚代金五十錢以上七十五錢未滿ノ者
三等	金二十五錢	揚代金五十錢未滿ノ者

賦金ハ月ノ十五日前後ヲ以テ區別シ十六日後ニ許可又ハ免許證ヲ受ケタル者及十五日前ニ廢業シタル者ハ各半額トス又其等級ヲ變更シタルトキ十五日前ナレハ其月全額十六日後ナレハ其月半額ヲ新等級ニ依リ納付スヘシ

第九條　貸座敷又ハ娼妓休業三十日以上ニ渉ルトキハ日割ヲ以テ其賦金ヲ免除ス但休業就業トモ所轄警察官署ヘ屆出尚娼妓休業ノトキハ免許證ヲ差出シ就業ノトキハ之レカ交付ヲ受クヘシ

前項ノ屆出ヲ爲ササルトキハ賦金免除ノ限リニアラス

第十條　娼妓黴毒治療中ハ日割ヲ以テ賦金ヲ免除ス

第十一條　貸座敷營業者又ハ娼妓ハ一區域毎ニ正副取締一名宛ヲ選擧シ所轄警察官署ニ屆出認可ヲ受クヘシ但土地ノ狀況ニヨリ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケ取締一名ヲ置クコトヲ得

第十二條　取締ハ貸座敷主丁年以上ノ男子ニシテ普通書讀ニ通スルモノニ限ル但土地ノ狀況ニヨリ本條ノ取締ヲ選ム能ハサルトキハ適宜選擧スル事ヲ得

第十三條　取締ノ任期ハ三箇年トス滿期ノ後尚ホ再選スルコトヲ得但任期中ト雖トモ不適當ト認ムルトキハ所轄警察官署ニ於テ改選ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條　取締ハ左ノ事項ヲ取扱フヘシ

一　貸座敷娼妓業務上ノ願屆ニ加印スル事

二　貸座敷娼妓一般ノ監督スル事

三　警察官署ノ指揮ニ從ヒ檢黴ノ事務ニ從事スル事

第十五條　貸座敷又ハ娼妓ニ於テ雇人ヲ置キタルトキハ族籍住所氏名年齡ヲ記シ三日以內ニ所轄警察官署ニ屆出可シ

解雇シタルトキハ五日以內ニ前項ニヨリ屆出可シ

第十六條　業體ニ關スル事ハ雇人ノ所爲ト雖トモ雇主其責ヲ免ルルコトヲ得ス

第十七條　貸座敷營業者又ハ娼妓ハ一區域每ニ規約ヲ設ケ取締ノ加印ヲ受ケ所轄警察官署ニ屆出認可ヲ受クヘシ其變更シタルトキ亦同シ但規約ニ入ラサルモノハ其業ヲ爲スコトヲ得ス

第十八條　貸座敷營業者又ハ娼妓ハ通行人ニ遊興ヲ勸メ若クハ家族雇人同居人ヲシテ勸誘セシムヘカラス

第十九條　貸座敷營業者又ハ娼妓ハ客ヲ誘引スルノ廣告ヲ爲ス可ラス

第二章　貸座敷

第二十條　貸座敷ハ帳簿ヲ製シ客ノ住所氏名年齡容貌及衣服ノ品類等ヲ詳記スヘシ但帳簿ハ三箇年間之ヲ保存スヘシ

第二十一條　貸座敷ハ別記雛形ノ看板ヲ掲ケ夜間ハ尚ホ標燈ヲ掲クヘシ

第二十二條　貸座敷ハ學校ノ徽章ヲ著ケタル學生、生徒並十六歲未滿ノ者ニ遊興セシムヘカラス

第二十三條　貸座敷ハ抵當トシテ客ノ衣服又ハ物品ヲ受取ルヘカラス但警察官吏ノ承認アルモノハ此限ニアラス

第二十四條　貸座敷ハ客ノ需メナキ酒肴其他ノ物品ヲ出シ又ハ藝妓幇間等ヲ强ユヘカラス

第二十五條　貸座敷ハ娼妓ニ贅費ヲ爲サシメ又ハ正當ノ理由ナクシテ娼妓ノ廢業若クハ轉寓ヲ拒ム可ラス

第二十六條　貸座敷ハ貸座敷娼妓業體ニ關スル規則類ヲ見易キ場所ニ掲ケ平假名ヲ付シ置クヘシ

第二十七條　貸座敷營業者一周間以上旅行スルトキハ相當ノ代理人ヲ定メ所轄警察官署ヘ屆出ヘシ

第三章　娼妓

第二十八條　娼妓客席ニ陪シタルトキハ免許證ヲ携携スヘシ警察官吏又ハ遊客ニ於テ之ヲ見ントスルトキハ拒ムコトヲ得ス

第二十九條　免許證ハ他人ニ貸與スルコトヲ得ス

第三十條　娼妓ハ黴毒其他觸接性ノ傳染病ニ罹リタルトキハ客席ニ陪ス可ラス

第三十一條　娼妓ハ黴毒檢査及官署出頭ノ外貸座敷敷地指定區域外ニ出ツルヲ得ス若シ已ムヲ得

サル事故アリ外出シ又ハ他ニ宿泊セントスルトキハ所轄警察官署又ハ駐在巡査ニ屆出認可ヲ受クヘシ

第三十二條　娼妓檢黴驅黴ノ規則ハ別ニ之ヲ定ム

第三十三條　娼妓ハ貸座敷敷地指定區域内ニ限リ藝妓ヲ兼業スルヲ得

第四章　罰則

第三十四條　本則第二條第七條第八條第十八條第十九條第二十條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十八條第二十九條第三十條第三十一條ニ違犯シタルモノハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第六條第十五條第二十七條ニ違犯シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第三條ニ違犯シタルモノハ刑法第四百二十五條第十項ニ依リ處分セラルヘシ

第五章　補則

第三十五條　免許地トシテ指定シタルニアラサル場所ハ本則施行ノ日現在營業シアルモノノ外貸座敷ノ新規營業ヲ許サス

第三十六條　本則施行以前ヨリ引續キ營業ヲ爲スモノノ賦金納付額ハ第八條第三項ノ區分ニ準スルモノトス

看板雛形

第六十七	屋號又ハ樓名	貸座敷營業氏名

○明治二十一年四月六日北海道廳訓令號外（警察署（宗谷警察署ヲ除ク）宛）府縣ヨリ寄留ノ者ニテ貸座敷娼妓營業願出候節ハ自今該府縣添翰ノ有無ニ拘ハラス詮議ノ上許否シ藝妓ハ添翰ナキモノト雖モ許可スルヲ得

○明治二十八年七月十九日北海道廳訓第二百二十六號（郡區役所警察署分署戸長役場宛同）警察取締上地方稅ニ關スル諸營業及貸座敷娼妓開廢業休業改名代替娼妓黴毒入院就業等ノ場合ニハ其時時警察署又ハ同分署ヨリ所轄郡區役所若クハ戸長役場ヘ通報スヘシ

但シ戸長ニ於テ本項ノ通報ヲ受ダルトキハ直チニ所轄郡役所ヘ報告スヘシ

○明治二十七年二月二十二日北海道廳令第八號

明治二十六年六月北海道廳令第二十四號檢黴驅黴規則左ノ通改正ス

檢黴驅黴規則

第一章　檢黴

第一條　娼妓アル地ニハ檢黴所ヲ置キ醫員ヲシテ身體ヲ檢査セシム

第二條　娼妓ハ以下各條ノ規定ニ從ヒ檢黴所ニ出檢査ヲ經檢査證ニ黴毒有無ノ證印ヲ受ヘシ但休業中ト雖トモ寄寓貸座敷内ニアル者ハ仍ホ本條ニ依ルモノトス

第三條　檢査ハ左ノ三種ニ區別ス

第一　定日檢査

第二　臨時檢査

第三　寓所檢査

第四條　定日檢査ハ毎周一度之ヲ行フ但其日時ハ所轄警察官署ノ定ムル處ニヨル

第五條　臨時檢査ハ左ニ記載シタルモノニ行フ

第一　新ニ就業セントスルモノ

第二　黴毒治療ヲ終ヘ退院又ハ退所セントスルモノ

第三　休業ノ爲メ定日ノ檢査ヲ受ケサルモノニシテ就業セントスルモノ

第四　黴毒ノ兆候アリト自覺シタルモノ

第六條　寓所檢査ハ定日檢黴所ニ出頭シ能ハサル疾病者ノ爲メ其寄寓貸座敷ニ就キ之ヲ行フ

第七條　娼妓ハ無毒ノ證ヲ得ルニアラサレハ就業スルコトヲ得ス但本項無毒ノ證ハ次回ノ檢査迄有効トス

第八條　娼妓疾病ノ爲メ所定ノ當日檢黴所ニ出頭シ能ハサルトキハ貸座敷主連署檢査所ニ屆出可シ

第九條　娼妓檢黴ニ關スル順序ハ所轄警察官署ノ定ムル處ニ從フ可シ

第二章　驅黴

第十條　娼妓ハ黴毒治療ノ爲メ一地方共同シ驅黴院（黴毒治療ノ爲メ特設シタル病院ヲ云フ）又ハ治療所（他ノ病院若クハ醫師其他ノ居宅ヲ以テ黴毒治療ニ充テタル所ヲ云フ）ヲ設ケ擔當醫員ヲ定メ貸座敷娼妓取締ヨリ所轄警察官署ニ屆出認可ヲ受ク可シ其變更シタルトキ亦同シ

警察官署ニ於テ不適當ト認ムルトキハ其改設若クハ更任ヲ命スルコトアル可シ

第十一條　娼妓黴毒アリト認メラレタルトキハ直ニ驅黴院又ハ治療所ニ入リ治療ス可シ

第十二條　驅黴院又ハ治療所ニ入リタル娼妓ニシテ退院又ハ退所セントスルトキハ當該醫師ノ證明書ヲ添ヘ所轄警察官署又ハ駐在巡査ニ屆出ツ可シ

第十三條　娼妓入院又ハ入所ノ場合ニ於テハ免許證ヲ警察官吏ニ差出シ退院又ハ退所ノ際之レカ交付ヲ受ク可シ

第十四條　驅黴院又ハ治療所ニ關スル規定及費用支辨ノ方法ハ當業者之ヲ定メ貸座敷娼妓取締ヨリ所轄警察官署ニ屆出認可ヲ受ク可シ

第十五條　娼妓入院又ハ入所中ハ所轄警察官署又ハ駐在巡査ノ許可ヲ受クルニアラサレハ外出スルヲ得ス

第三章　罰則

第十六條　本則第二條第七條第八條第十一條第十三條第十五條ニ違犯シタル者ハ二日以上五日以

下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第十七條　本則第十條ニ背キ驅黴院又ハ治療所ヲ設ケサルトキハ其業ヲ停止スルコトアル可シ

○明治二十八年十二月十六日北海道廳訓第三百五十四號（警察署同分署宛）

貸座敷娼妓並檢黴驅黴規則ニ關スル取扱手續左ノ通リ定ム

但シ明治二十一年四月四日北海道廳訓令號外貸座敷娼妓取締規則取扱手續明治二十七年二訓第六十二號ヲ廢止ス

貸座敷娼妓並檢黴驅黴規則ニ關スル取扱手續

第一條　貸座敷又ハ娼妓營業願ヲ受ケタルトキハ規則第四條又ハ第五條ニ抵觸セサルヤ否ヤヲ調査シ許否スヘシ

第二條　娼妓免許證ハ第一號樣式黴毒檢査證ハ第二號樣式ニ依リ調製スヘシ

第三條　娼妓ノ外出又ハ宿泊ヲ認可セントスルトキハ其場所及所用ノ目的ヲ調査シ不都合ナキ者ニ限リ之ヲ認可スヘシ

第四條　檢黴ハ警察醫又ハ囑託醫師ヲシテ執行セシムヘシ

第五條　左ノ場合ニ於テハ謄本ヲ添ヘ警部長ニ報告スヘシ

一　營業規約ヲ認可シタルトキ

一　驅黴院又ハ治療所ニ關スル規定及費用支辨ノ方法ヲ認可シタルトキ

一　檢黴ニ關スル順序ヲ定メタルトキ

（樣式）

第一號樣式　（用紙厚紙）

第　號

表

幅

三

面寸

縱五寸

娼妓免許證

族籍住所

妓名　氏　名

年齡

裏面

明治　年　月　日下付

何警察（分）署

署印

第二號樣式　（用紙厚紙但半紙版）

娼妓黴毒檢査證

樓名（屋號）誰某方寄留

氏　名

檢査	有毒無毒ノ別及醫師認印	檢査	有毒無毒ノ別及醫師認印	檢査	有毒無毒ノ別及醫師認印	檢査	有毒無毒ノ別及醫師認印
月日	有毒	月日		月日		月日	
月日	無毒	月日		月日		月日	

月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日

○明治二十四年六月十五日北海道廳告示第十六號

北海道根室國根室郡根室彌生町六丁目七丁目及同町接續地根室村字ハツタラ五十三番地ヲ以テ貸座敷免許地ト定ム

事故　何月何日新規就業ニ付臨時檢査ス○何月何日退院又ハ退所ニ付臨時檢査ス

○明治二十五年四月二日北海道廳告示第二十五號

北海道膽振國室蘭郡室蘭本町通字（チイナナシ）ヲ以テ娼妓貸座敷免許地ト定ム

○明治二十五年五月二十八日北海道廳訓第百四十五號（檜山外五郡役所宛）

檜山郡江差新地町貸座敷營業免許地更ニ新地裏町迄取廣メ該營業免許地ト定ム

○明治二十五年五月二十八日北海道廳訓第百四十五號（江差警察署宛）

檜山郡江差新地町貸座敷營業免許地更ニ新地裏町迄取廣メ該營業免許地ト相定候條夫夫達方取計ルヘシ

○明治二十六年七月八日北海道廳訓第二百八號（小樽警察署宛）

古平郡古平貸座敷免許地ハ自今新地町五番地ヨリ同町二十七番地迄ノ間ト定メ候條取締ヘ達方取計フヘシ

（同年同月同日同號ヲ以テ小樽郡役所ヘ同一ノ訓令アリ略ス）

○明治二十六年十月二十五日北海道廳訓第二百九十八號（釧路外十二郡役所宛）

厚岸郡厚岸貸座敷ハ自今別紙圖面ノ個所ヲ以テ假免許地區域ト定ム

（圖面ハ略ス）

○明治二十六年十一月十八日北海道廳告示第七十六號

千島國沙那郡留別村字「トセップ」ヲ貸座敷娼妓免許地ト定ム

○明治二十七年八月二十五日北海道廳告示第六十七號

日高國幌泉郡幌泉村貸座敷免許地ハ自今字澤町ノ内左記圖面ノ箇所ヲ以テ區域トス

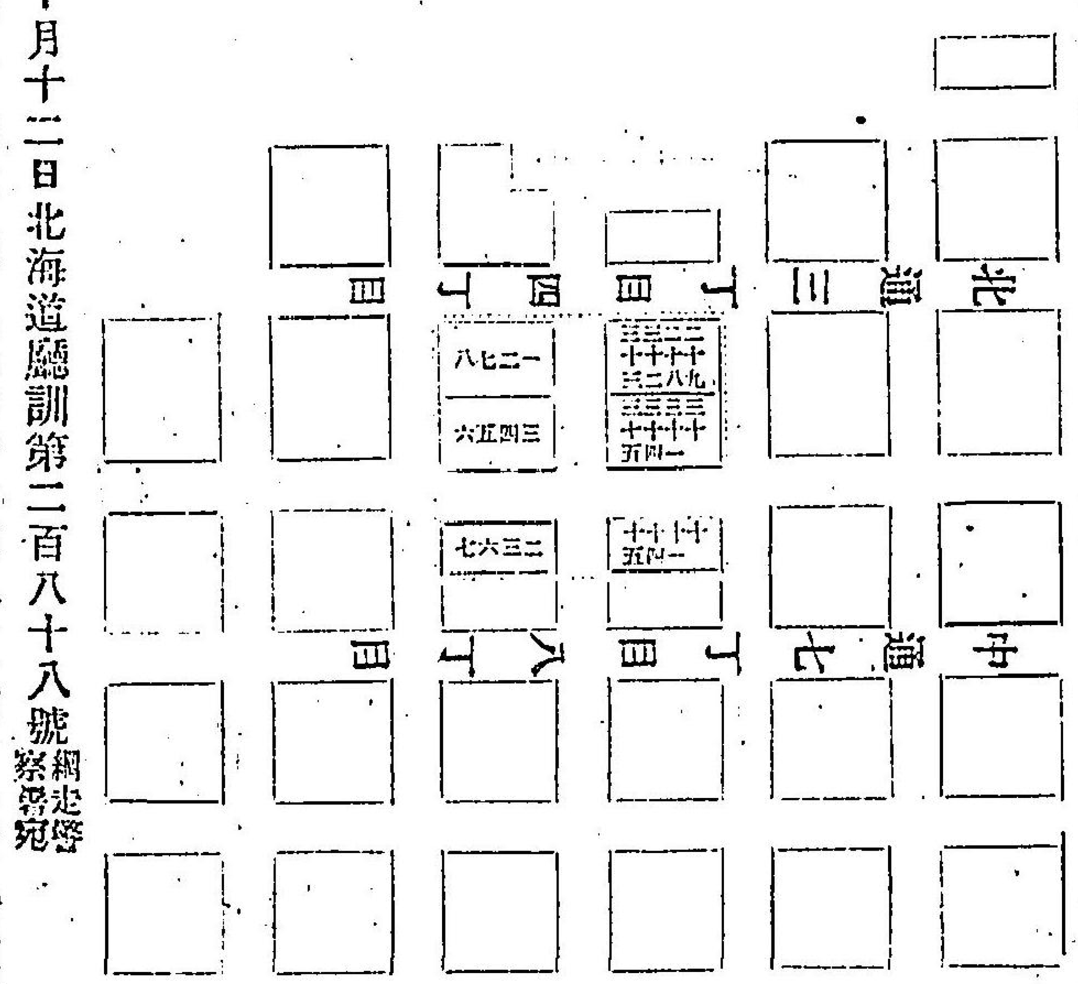
○明治二十七年九月二十八日北海道廳告示第七十七號

十勝國廣尾郡茂寄村貸座敷免許地區域左記圖面ノ通リ定ム

○明治二十七年九月二十八日北海道廳訓第二百七十四號釧路警察署茂寄警察分署宛

十勝國廣尾郡茂寄村貸座敷免許地區域ノ義ハ今回告示第七十七號ヲ以テ指定候ニ付右區域外ニ於ケル現在營業者ハ來ル明治三十年九月三十日迄ニ指定地内ニ移轉スルニアラサレハ其營業ノ存續ヲ許サス候條右ノ趣營業者ニ傳達スヘシ

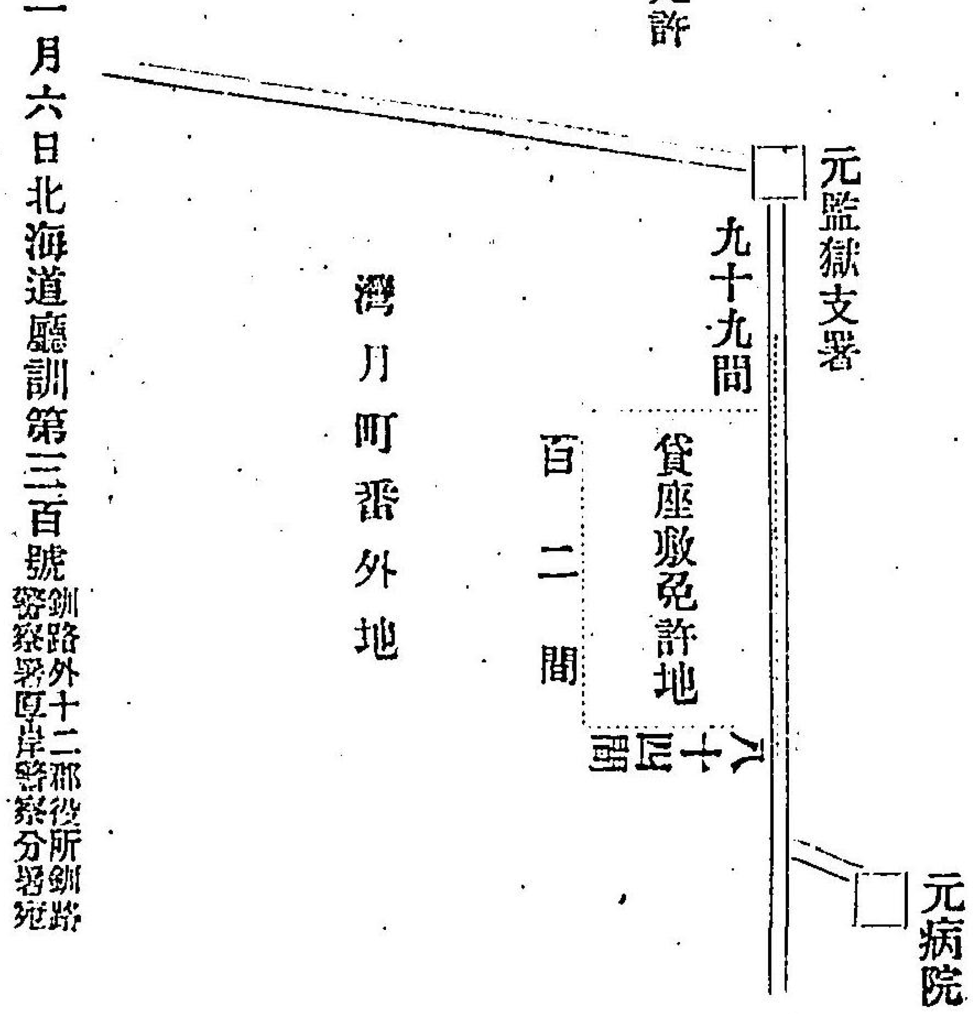
○明治二十七年十月十二日北海道廳告示第八十二號
北見國網走郡北見町貸座敷免許地區域左記圖面ノ通リ定ム



……線ノ内ハ貸座敷免許地區域ニシテ數字ハ番地ナリ

○明治二十七年十月十二日北海道廳訓第二百八十八號網走警察署宛
北見國網走郡北見町貸座敷免許地區域告示第八十二號ヲ以テ指定候ニ付テハ右區域外ニ在ル現在

營業者ハ來ル明治三十九年九月三十日迄ニ指定地内ニ移轉スルニアラサレハ其營業ノ存續ヲ許サス候條右ノ趣營業者ニ傳達スヘシ
○明治二十七年十一月六日北海道廳告示第八十五號
釧路國厚岸郡厚岸貸座敷免許地區域左記圖面ノ通リ定ム



……線ハ貸座敷免許地區城トス

○明治二十七年十一月六日北海道廳訓第三百號釧路外十二郡役所釧路警察署厚岸警察分署宛
明治二十六年十月訓第二百九十八號原岸郡厚岸貸座敷假免許地ノ義ハ明治三十年十月三十一日限リ

廢止ス但シ同區域地內ニ於テハ新規營業ヲ許サス

○明治二十七年十一月二十七日北海道廳告示第九十一號

後志國古宇郡盃村貸座敷免許地區域左記圖面ノ通リ定ム

……線ノ內ハ貸座敷免許地區域ナリ

六十間

○明治二十七年十二月四日北海道廳告示第九十四號

天塩國苫前郡羽幌村貸座敷免許地左ノ通リ定ム

……線ハ貸座敷免許地區域ナリ

○明治二十七年十二月六日北海道廳告示第九十六號

後志國瀬棚郡瀬棚村貸座敷免許地左ノ通リ定ム

○明治二十七年十二月二十二日北海道廳告示第百三號

天塩國留萌郡留萌村貸座敷免許地區域左ノ通リ定ム

……線ノ内ハ貸座敷免許地區域ナリ

○明治二十七年十二月二十二日北海道廳訓第三百五十五號（增毛警察署、留萌警察分署宛）

天塩國留萌郡留萌村貸座敷免許地區域告示第百三號ヲ以テ指定候ニ付テハ右區域外ニ在ル現在營業者ハ來ル明治二十八年十二月三十一日迄ニ指定地内ニ移轉スルニアラサレハ其營業ノ存續ヲ許サス候條右ノ趣營業者ニ傳達スヘシ

○明治二十八年二月二十日北海道廳告示第十六號

渡島國松前郡吉岡村貸座敷免許地ハ同村字寺町清水町ヲ以テ其區域トス

○明治二十八年二月二十日北海道廳訓第三十九號（福山警察署、島警察分署宛）

渡島國松前郡吉岡村貸座敷免許地區域告示第十六號ヲ以テ相定候ニ付テハ右區域外ニ在ル現在營業者ハ本年十二月三十一日迄ニ指定地内ニ移轉スルニアラサレハ其營業ノ存續ヲ許サス候條右ノ趣營業者ニ傳達スヘシ

○明治二十八年三月十四日北海道廳告示第三十號

天塩國苫前郡燒尻村貸座敷免許地左ノ通リ定ム

○明治二十八年三月十五日北海道廳告示第三十四號

天塩國苫前郡苫前村貸座敷免許地左ノ通リ定ム

……線ノ内ハ貸座敷免許地區域ナリ

○明治二十八年三月十五日北海道廳訓第七十六號（增毛警察署苫前警察分署宛）

天塩國苫前郡苫前村貸座敷免許地區域告示第三十四號ヲ以テ指定候ニ就テハ右區域外ニ在ル現在營業者ハ來ル明治二十九年三月三十一日迄ニ指定地內ニ移轉スルニアラサレハ其營業ノ存續ヲ許サス候條右ノ趣營業者ヘ傳達スヘシ

○明治二十八年三月三十日北海道廳告示第四十五號

膽振國室蘭郡本町通字（ヲイナヲシ）娼妓貸座敷免許地ヲ廢シ更ニ同郡幕西町ヲ以テ貸座敷免許地ト定ム

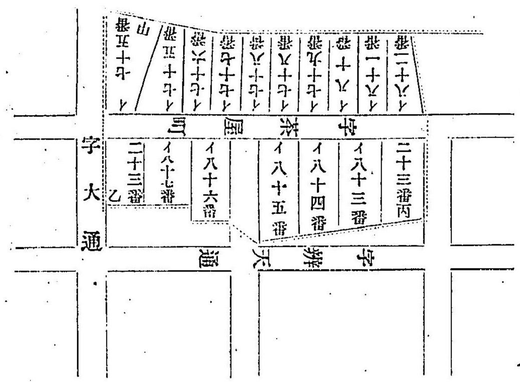
○明治二十八年三月三十日北海道廳訓第九十三號（室蘭警察署宛）

膽振國室蘭郡室蘭貸座敷免許地ハ今回更ニ告示第四十五號ヲ以テ指定候ニ就テハ右區域外ニ在ル現在營業者ハ來ル明治二十八年十二月三十一日迄ニ指定地內ニ移轉スルニアラサレハ其營業ノ存續ヲ許サス候條右ノ趣營業者ヘ傳達スヘシ

○明治二十八年四月六日北海道廳告示第四十九號

後志國古宇郡神惠內村貸座敷免許地區域左ノ通リ定ム

……線ノ內ハ貸座敷免許地區域ナリ



○明治二十八年六月五日北海道廳告示第六十九號

後志國忍路郡塩谷村貸座敷免許地左ノ通リ定ム

……線ノ内ハ貸座敷免許地區域ナリ

○明治二十八年六月二十八日北海道廳告示第七十七號

石狩國空知郡岩見澤村貸座敷免許地左ノ通リ變更ス

……線ノ内ハ貸座敷免許地區域ナリ

○明治二十八年九月七日北海道廳告示第九十八號

北見國禮文郡香深村貸座敷免許地左ノ通リ變更ス

……線ノ内ハ貸座敷免許地區域ナリ

○明治二十九年四月十六日北海道廳告示第六十七號

北見國枝幸郡枝幸村貸座敷免許地左ノ通リ定ム

……線ノ内ハ貸座敷免許地區域ナリ

○明治二十九年五月二十八日北海道廳告示第九十七號

後志國小樽郡住ノ江町貸座敷免許地ヲ廢止シ更ニ入船町與左記圖面ノ箇所ヲ以テ貸座敷免許地ト定ム但シ現在ノ貸座敷營業者ニ限リ住ノ江町舊貸座敷免許地内ニ於テハ明治三十年十二月三十一日迄其營業ヲ存續スルコトヲ得

……線ノ内ハ貸座敷免許地區域ナリ

○明治二十九年九月二十日北海道廳告示第百七十四號
釧路國厚岸郡霧多布村貸座敷免許地左ノ通リ變更ス但シ區域外ニ係ル現在貸座敷營業者ハ明治二十九年十二月三十一日迄其營業ヲ存續スルコトヲ得

……線ノ内ハ貸座敷免許地區域ナリ

○明治二十九年十月十五日北海道廳告示第百八十六號
石狩國空知郡瀧川村貸座敷免許地左ノ通リ定ム

……線ノ内ハ貸座敷免許地區域ナリ

字空知太

○明治三十年一月九日北海道廳告示第四號

後志國古宇郡泊村貸座敷免許地區域左ノ通リ定ム但シ現在ノ區域外營業者ハ明治三十年十二月三

十一日迄其營業ヲ存續スルコトヲ得

○明治三十年三月十六日北海道廳告示第五十四號

日高國浦河郡浦河村貸座敷免許地區域左ノ通リ定ム但シ區域外ニ係ル現在貸座敷營業者ハ明治三十年十二月三十一日迄其營業ヲ存續スルコトヲ得

浦河村字鱗別

○明治三十年五月二十一日北海道廳告示第百十一號

根室國野付郡別海村貸座敷免許地左ノ通リ定ム

○明治三十年八月十日北海道廳告示第百七十三號

石狩國上川郡旭川村貸座敷免許地左ノ通リ定ム

○明治三十年九月一日北海道廳告示第百九十三號
千島國蘂取郡蘂取村字ニクウル四十七番地四十八番地四十九番地五十番地五十一番地五十二番地
五十三番地五十四番地五十五番地五十六番地五十七番地五十八番地ヲ以テ貸座敷免許地トス
○明治三十年八月十七日北海道廳告示第百七十九號
後志國小樽郡住ノ江町舊貸座敷免許地内營業存續期間明治三十二年六月三十日迄延期ス
○明治二十二年十一月二十一日北海道廳令第六十七號
宿屋取締規則左ノ通相定メ明治二十三年一月一日ヨリ施行ス
但明治十一年十一月開拓使函館支廳第百十四號布達明治十四年八月同廳第五十號布達明治十六年三月函館縣甲第十號布達同年三月同縣甲第十九號布達明治十七年五月同縣甲第十三號布達及明治十六年六月根室縣甲第三十三號布達ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

宿屋取締規則

第一章　通則

第一條　宿屋ヲ分テ旅人宿下宿屋木賃宿ノ三種トス

第二條　宿屋營業ヲ爲サントスル者ハ其種類ヲ記シ營業用ニ供スル建物及間取等ヲ記シタル圖面ヲ以テ所轄警察署又ハ分署ニ願出允許ヲ請フヘシ其間取等ヲ變更シタル時ハ圖面ヲ以テ屆出認可ヲ受クヘシ

第三條　左ノ各項ニ觸ルル者ハ允許ヲ與ヘス

一　未丁年者ニシテ後見人ナキ者
二　白痴瘋癲者
三　強盜盜及詐僞取財ノ罪ヲ犯シタル者
四　監視中ノ者

第四條　改氏名又ハ廢業シタル時ハ其旨所轄警察署又ハ分署ニ屆出ヘシ

第五條　宿屋營業人ハ看板ヲ店頭ニ掲クヘシ

第六條　營業人ハ所轄警察署又ハ分署ノ部內ヲ以テ區域トシ其種類ニ從ヒ各組合ヲ設クヘシ
但部內ノ狀況ニ依リ警察署又ハ分署ノ認可ヲ受ケ便宜之ヲ數組トナスコトヲ得

第七條　組合ヲ設ケス又ハ組合ニ入ラスシテ營業ヲナスヘカラス

第八條　組合ニハ各營業人中ヨリ取締一人ヲ公撰シ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

第九條　取締ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ
一　宿屋營業ニ關スル規則命令ヲ營業人ニ通知スル事
二　組合營業人ノ願屆ニ加印スル事
三　取締ヶ撰擧ニ關スル事務ヲ取扱フ事
右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第十條　組合ニ於テハ規約ヲ定メ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條　强テ客ヲ誘引スヘカラス

第十二條　宿泊人ノ所有品ハ特ニ其寄託ヲ受クサルモ紛失セサル樣注意スヘシ

第十三條　宿泊人ノ承諾ナクシテ來訪者其他ノ者ヲ濫リニ其室內ニ入ラシムヘカラス

第十四條　宿泊人疾病ニ罹ル時ハ醫藥食物等其求メニ應シ特ニ懇切ニ取扱フヘシ

第十五條　宿泊人變死ニ係リ又ハ其所有品紛失シタル時ハ即時ニ警察署分署巡査交番所若クハ巡行ノ巡査ニ屆出ヘシ

第十六條　宿泊料ノ抵償トシテ私擅ニ宿泊人ノ所有品ヲ押取シ又ハ受領スヘカラス

第十七條　宿泊人ニ遊興ヲ勸メ又ハ宿泊料外ノ金錢ヲ得ル目的ヲ以テ客ノ求メナキ飲食物ヲ供スヘカラス

第十八條　宿泊料其他宿泊人ニ關スル緊要ノ事項ハ帳場及客ノ見易キ場所ニ掲示スヘシ

第十九條　午後十二時後歌舞音曲ヲ爲サシムヘカラス

第二章　旅人宿

第二十條　旅人宿ハ客室ニ充分ノ光線ヲ取且空氣ノ流通ヲ便ナラシムヘシ

第二十一條　客室毎ニ堅固ナル錠前附ノ押入又ハ戶棚等ヲ設クヘシ

第二十二條　二階以上ノ客室二十坪以上アルモノハ階子二箇以上ヲ設クヘシ
但階子ノ幅ハ四尺以上タルヘシ

第二十三條　便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル所ニ設ケ屎尿ヲ受容スヘキ部分ハ漏脫滲透セサル樣構造スヘシ

第二十四條　便所ハ日日清潔ニ掃除ヲ爲スヘシ

第二十五條　客室ノ番號ハ其出入口ニ掲示スヘシ

第二十六條　正當ノ理由ナクシテ旅人ノ宿泊ヲ拒絶スヘカラス

第二十七條　旅人宿營業人ハ左ノ書式ニ從ヒ宿泊人名簿ヲ調製シ宿泊人發著毎ニ原簿ニ記入シ且甲乙書式ニ從ヒ所轄警察署又ハ分署ニ屆出ヘシ

但警察署分署ナキ地ハ甲乙書式ノ屆出ヲナスニ及ハス

宿泊人名簿書式（用紙寸法適宜）

番號	氏名	年齢	職業	族籍	住所	相貌ノ特徴其他事故	前夜宿泊所	行先地	到著地日時刻	出發月日時刻

甲號（用紙寸法適宜）

明治何年何月何日投宿屆

郡區町村番地族籍屋號何　某　印

第　何　號

氏名	族籍	住所	年齢	職業	前夜宿泊所	行先地	投宿日時	相貌特徴其他事故

乙號

何治何年何月何日出發	郡區町村番地族籍屋號何	某 ㊞
氏名		
投宿番號		
出發日時		

第三章　下宿屋

第二十八條　下宿屋トハ一箇月ノ賄料座敷料等ヲ約定シ寄寓セシムルヲ云フ

第二十九條　下宿屋營業人ハ下宿人ノ族籍住所職業氏名年齢及下宿ノ事由ヲ記シタル屆書ヲ所轄警察署又ハ分署ニ差出シ檢印ヲ受ケ所持スヘシ

第三十條　本則第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條ハ下宿屋ニ於テモ適用スヘシ

第三十一條　下宿屋ハ下宿人ノ族籍氏名ヲ記シタル木札ヲ店頭又ハ門戸ニ掲示スヘシ

第三十二條　下宿人他ニ轉宿シ又ハ三日以上外泊シテ其所在不分明ナル時ハ所轄警察署又ハ分署ニ屆出ツヘシ

第四章　木賃宿

第三十三條　木賃宿ハ宿泊人滯在中外泊シタル者アル時ハ所轄警察署又ハ分署ニ屆出スヘシ

但警察署分署ナキ地ハ帳簿ニ記入シ警察官吏ノ調査ニ備フヘシ

第三十四條　宿泊人屆出方ハ本則第二十七條ノ例ニ從フヘシ

第三十五條　本則第二條第四條第十一條第十五條第十六條第十七條第十九條第二十七條第二十九條第三十二條第三十三條第三十四條ニ違背シタル者及第七條ニ違背シ組合ニ入ラスシテ營業ヲ爲シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

○明治二十二年十一月二十一日北海道廳令第六十八號

明治二十二年十一月北海道廳令第六十七號宿屋取締規則第二條營業用ニ供スル建物及間取ニ關スル事項及第二十條ヨリ第二十五條ニ至ルマテ並第三十條ハ札幌函館兩區福山江差海都岩内小樽增毛室蘭釧路厚岸根室各町及森苫小牧浦河幌泉ノ四箇村ヲ除クノ外當分之ヲ施行セス

○明治二十二年十二月五日北海道廳訓令號外（警察部分署宛）

宿屋取締規則ノ儀左ノ取扱心得ニヨリ施行スヘシ

宿屋取締規則取扱心得

第一條　規則第二條中營業ノ用ニ供スル建物及間取ニ關スル事項ノ施行地ニ於テハ第三條及第二十條乃至第二十三條ニ牴觸セサルヤ且構造堅牢ニシテ非常口等具備シ危險ノ虞ナキヤヲ調査シテ之ヲ許可スヘシ但同條前記ノ事項ヲ施行セサル地ハ第三條牴觸ノ有無ヲ調査シテ許否スヘシ

第二條　規則第五條ノ看板ハ左ノ雛形ニヨラシムヘシ但樓名館名屋號等長名ノ上ニ記載スル妨ナシトス

第三條　規則第六條ハ從來組合アリ不都合ナキモノハ儘トシ新タニ之ヲ設クルモノハ專ラ營業者ノ便宜ヲ計ルコトニ注意スヘシ

第四條　規則第八條ノ取締ハ男子ニシテ筆算ニ通シ且不正ノ所業等之ナキモノナルヤヲ調査シテ認可スヘシ

第五條　規則第九條ノ規約ニ於テハ宿泊料其他組合必要ノ條項ヲ結約セシムヘシ

第六條　規則第十八條緊要ノ事項ハ必スシモ客室ニ掲載セシムルニ及ハサルヲ以テ廊下等ノ如キ見易キ場所ニ掲載セシムルコトトスヘシ

第七條　規則第二十條乃至第二十五條及第三十條ハ施行ノ地ニ於テハ實地檢査ヲ爲シ之ヲ實行セシムヘシ

第八條　規則第二十七條ノ警察署分署アラサル地ノ帳簿ハ巡査巡回ノ日ヲ以テ調査ヲ爲サシムヘシ

第九條　規則第三十一條ノ標札ハ長サ四寸巾壹寸五分ヨリ少ナカラサルモノヲ用ヒシムヘシ

第十條　規則第三十二條第三十三條屆出ノ外泊人ハ常ニ其擧動ニ注意シ該營業人屆出ニ對スル實効ヲ奏スルコトヲ期スヘシ但警察署分署ナキ地ハ第八條ノ手續ニ依リ調査セシメ之ヲ署長ニ報告セシムヘシ

木札

旅人宿（下宿屋 木賃宿）　區町村番地　氏名

竪三尺　幅七寸

○明治八年十二月十五日開拓使函館支廳番外遠外國人遊歩規程內ニ係ル市在戸長宛外國人遊歩規程內市街村落ニ於テ止宿ノ義ニ付第百八十九號御達之趣モ有之候ニ付テハ宿泊渡世ノ者ヘ兼テ諭達致シ置可申若右外國人止宿ヲ名トシ地所家屋ヲ賃借スルカ商賣取引スルカ又ハ其事ヲ企ル趣見聞候ハハ函館支廳民事課或ハ出張所ヘ早々申出可受指圖此旨相達候事

○明治二十四年十二月五日北海道廳令第五十一號

宿屋營業者ト否トニ拘ハラス外國人ヲ宿泊セシメタルトキハ左ノ事項ヲ詳記シ速ニ所轄警察署又ハ分署ヘ屆出ヘシ但遊歩規定外ノ地ニ於テハ旅行免狀ヲ携帶セサル者ヨリ宿泊ノ申込ヲ受ケタルトキハ即時警察官吏ヘ屆出ヘシ

一　國籍住所氏名年齡職業

二　宿泊ヲ要スル事由

三　宿泊一週間以上ニ及フ者ニ付テハ一週間毎ニ其滯在ヲ要スル事由

四　出發シタルトキハ其日時

本令ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

○明治三十年四月十日北海道廳令第十八號

料理店業取締規則左ノ通リ定ム

但シ明治二十二年一月北海道廳令第六號料理屋及飲食店取締規則ハ廢止ス

料理店業取締規則

第一條　本則ニ於テ料理店業ト稱スルハ客室ヲ設ケテ飲食物ヲ販賣スルモノヲ云フ

第二條　料理店業ヲ爲サントスル者ハ營業ニ供スル家宅内部ノ構造ヲ記シタル圖面ヲ添ヘ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ其位置及構造ヲ變更セントスルトキモ亦同シ

第三條　左ニ掲クル各號ノ一ニ當ルモノハ料理店業ヲ許可セサルコトアルヘシ

許可ノ後ト雖モ本條ニ抵觸シタル者ハ所轄警察官署ニ於テ其失効ヲ命スルコトアルヘシ

一　學校病院ニ接近シ又ハ公安上必要ト認メタル場所

二　未成年者又ハ白痴瘋癲者ニシテ營業上ノ責任ヲ負擔スル父母又ハ後見人ヲ有セサル者

三　略取誘拐又ハ猥褻姦淫ノ罪ニ依リ處刑セラレ刑期滿限後三箇年ヲ經過セサル者

四　密賣淫並其媒介容止ノ罪ニ依リ處刑セラレ後二箇年ヲ經過セサル者

五　本則ニ依リ三回以上處罰セラレ後二箇年ヲ經過セサル者

六　他人ニ名義ヲ假シテ營業ヲ爲スノ事實アリト認メタル者

七　第三號第四號第五號ニ觸ルル者ヲ雇人トシテ使用シ又ハ同居セシメ若クハ後見人ト爲ス者

八　同一家屋ニ於テ旅人宿業ヲ爲ス者

第四條　雇人ヲ使用シ若クハ婦女ヲ同居セシメントスルトキハ其屬籍住所氏名年齢ヲ記シ所轄警察官署ニ屆出ヘシ

第五條　廢業死亡又ハ改氏名ノトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ屆出ヘシ但シ死亡ノトキハ相續人ヨリ屆出ヘシ

雇人ノ解雇死亡改氏名又ハ同居婦女ノ死亡改氏名轉居ノトキモ亦前項ニ同シ

第六條　街路ニ於テ言語擧動ヲ以テ客ヲ誘引シ又ハ家屬同居人若クハ雇人ヲシテ之ヲ爲サシムヘカラス

第七條　客ノ衣服又ハ物品ヲ抵當トシテ受取リ若クハ賣却又ハ質入ノ周旋ヲ爲スヘカラス但シ警察官吏ノ承認ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス

第八條　客ノ需ナキ飲食物ヲ出シ又ハ藝妓幇間等ヲ强ユヘカラス

第九條　同居シアラサル藝妓又ハ來客ヲ宿泊セシムルコトヲ得ス但シ止ヲ得サル事情アリテ宿泊ヲ要スルトキハ其事由ヲ記シ即時所轄警察官署又ハ駐在巡査ニ屆出ヘシ

第十條　本則第二條第四條第五條第六條第七條第八條第九條ニ違犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十一條　業務ニ關スル家屬同居人又ハ雇人ノ所爲ハ營業者其責ヲ免ルルコトヲ得ス

第十二條　從前ノ營業者ハ本則施行ノ日ヨリ三十日以内ニ家宅内部ノ構造ヲ記シ所轄警察官署ニ屆出ヘシ

○明治二十八年十二月二十一日北海道廳令第九十九號

雇人口入營業取締規則左ノ通リ定ム

但シ明治十四年一月開拓使函館支廳第七號布達及同年四月根室支廳甲第二十三號布達雇人受宿規則ハ廢止ス

雇人口入營業取締規則

第一條　本則ニ於テ雇人口入營業ト稱スルハ名稱ノ如何ヲ問ハス手數料ヲ受ケ雇人ノ周旋ヲ爲ス者ヲ云フ

第二條　雇人口入營業ヲ爲サントスル者ハ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第三條　左ニ掲クル各項ノ一ニ當ル者ニハ雇人口入營業ヲ許可セス許可ノ後ト雖モ本條ニ抵觸スル者ハ其失効ヲ命ス

一　未成年者又ハ白痴瘋癲者ニシテ營業上ノ責任ヲ負擔スル父母又ハ後見人ヲ有セサル者

二　强竊盜詐欺取財器取誘拐猥褻姦淫賭博及贓物ニ關スル罪ニ依リ處刑セラレ刑期滿限後三箇年ヲ經過セサル者

三　本則ニ依リ三回以上處罰セラレ後二箇年ヲ經過セサル者

四　素行不良ト認ムル者

五　第二項第三項第四項ニ觸ルル者及宿屋料理屋飲食店並貸座敷營業者ニ名義ヲ假シテ營業ヲ爲スノ事實アリト認ムル者（二十九年三月勅令第十號ヲ以テ及以下ノ十六字追加）

六　第二項第三項第四項ニ觸ルル者ヲ傭役シ又ハ同居セシメ若クハ後見人ト爲ス者

第四條　營業者ハ宿屋料理屋飲食店並貸座敷營業ヲ兼ヲ又ハ其營業ト同一家屋内ニ於テ營業スルコトヲ得ス

第五條　業務ヲ處辨セシムル爲メ雇人ヲ置カントスルトキハ其族籍住所氏名年齢ヲ記シ所轄警察官署ニ屆出ヘシ

第六條　轉居改氏名死亡若クハ廢業シタルトキハ五日以内ニ所轄警察官署ニ屆出ヘシ但シ死亡ノトキハ相續人ヨリ屆出ヘシ

雇人ノ解雇死亡又ハ族籍氏名變更ノトキモ亦前項ニ同シ

第七條　營業者ハ左ニ掲クル者ノ口入ヲ爲スヘカラス

一　未成年者ニシテ父母又ハ後見人ノ承諾ナキ者

二　婦ニシテ夫ノ承諾ナキ者

三　身元詳ナラサル者

第八條　營業者ハ雇人ノ來歷其他雇主ニ必要ノ事項ヲ詐ハリ若クハ之ヲ庇隱シテ口入ヲ爲スヘカラス

第九條　營業者ハ場所ノ如何ヲ問ハス請求ナキ者ニ雇人タランコトヲ勸誘シ又ハ他人ヲシテ勸誘セシムヘカラス

雇期中ノ者ヲ勸誘シテ他ニ口入ヲ爲シ又ハ雇人ノ望マル雇家ヘ强テ周旋ヲ爲スヘカラス

第十條　營業者ハ雇主雇人ヲ解傭シ又ハ雇人雇家ヲ辭セントスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十一條　營業者ハ口入スヘキ雇人ヲ宿泊セシムルコトヲ得ス但シ止ヲ得サル事情アリ宿泊セシメントスルトキハ族籍住所氏名年齢ヲ記シ所轄警察官署ニ屆出認可ヲ受クヘシ

第十二條　雇人口入手數料ハ雇給額十分ノ一以内トシ雇主及雇人ノ雙方ヨリ半額宛ヲ受領スヘシ但シ雇主又ハ雇人ノ承諾アリタルトキハ其受領額ヲ平分セサルモ妨ケナシ

第十三條　雇期中解雇シタルトキハ其給額ニ割合手數料ヲ精算シ雇主及雇人ニ返却スヘシ但シ其手數料三十錢ニ滿タサルトキハ此限ニアラス

第十四條　手數料ハ雇傭契約累年ニ亘ルモ一箇年分ヲ越ルコトヲ得ス

第十五條　營業者ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ手數料ノ外報酬ヲ求ムヘカラス

第十六條　營業者ハ口入スヘキ雇人ノ物品ヲ賣却又ハ質入ノ周旋ヲ爲シ若シクハ手數料ノ抵當トシテ物品ヲ受領スヘカラス但シ警察官吏ノ承認アルモノハ此限ニアラス

第十七條　手數料ハ帳場其他見易キ場所ニ掲示シ置クヘシ

第十八條　營業者申合規約ヲ設ケタルトキハ所轄警察官署ニ屆出認可ヲ受クヘシ其變更セントスルトキモ亦同シ

第十九條　營業者ハ雇人口入簿ヲ製シ別記樣式ニ從ヒ記載スヘシ

前項ノ帳簿ハ最終記載ノ日ヨリ滿三箇年間保存スヘシ

第二十條　前條ノ帳簿ハ使用前帳簿ノ紙首ニ其紙數ヲ記シ所轄警察官署ニ差出シ檢印ヲ受クヘシ

第二十一條　帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以內ニ其事由ヲ疏明シ所轄警察官署ニ屆出ヘシ

第二十二條　警察官吏ハ臨時帳簿ヲ檢査スルコトアルヘシ營業者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十三條　本則第二條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條第二十條第二十一條ニ違背シ又ハ第二十二條帳簿ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十四條　營業上ニ關シテハ家族又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十五條　從來ノ營業者ハ本則施行後一箇月以內ニ更ニ出願ノ手續ヲ爲スヘシ

（別記樣式）

雇人口入簿　（裏面同一）

番號	第何號		雇人ノ原籍	何府縣何郡區何町村何番地華士族平民	
申込年月日	明治何年何月何日		住所氏名身分職業及配偶者ノ有無	何某男女有無夫妻 何郡區何町村何番地何某方寄留 何 何年何月何日生	某
身元引請人住所氏名身分職業	何郡區何町村何番地華士族平民 何業　何	某	雇人ノ種類及就雇年月日	下婢又ハ何々何年月間 明治何年何月何日	
雇主住所氏名身分職業	何郡區何町村何番地華士族平民 何業　何	某	解雇年月日及手數料返納高	解雇年月日（解雇年月日ハ雇期ヲ經過シ解雇シタルモノハ記スルニ及ハス以下亦同シ） 明治何年何月何日　金何錢	
給料及手數料	一年金何圓　金何十錢				
番號			雇人ノ原籍		

申年月日	身元引請人住所氏名身分職業	雇主住所氏名身分職業	給料及手數料	住所氏名身分年齢及配偶者ノ有無	雇人ノ種類雇期及就雇年月日	解雇年月日及手數料返附高

○明治十八年二月二十六日函館縣甲第十二號布達

外國船乘組稼人口入營業者取締概則左ノ通相定候條此旨布達候事

外國船乘組稼人口入營業者取締概則

第一條　外國船乘組稼人ノ口入營業ヲ爲サント欲スル者ハ二名以上ノ保證人ヲ以テ區長ノ奥書ヲ受ケ當廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ

第二條　營業者及保證人ハ函館區内ニ住居ヲ定メ五百圓以上ノ不動產若クハ之ニ該當スル公債證書或ハ銀行等ノ株券ヲ有スル者ニアラサレハ許可セス

但該營業者ノ人員ハ適宜制限スルコトアルヘシ

第三條　第一第二條ノ手續ヲ經テ許可ヲ得タル者ハ左ノ雛形ニ依リ招牌英和對照ヲ製シ當廳ノ檢印ヲ受ケ其店頭ニ掲出スヘシ

英字對照

免許

何國何區何町何番地

外國船乘組稼人口入營業

氏名

長凡ソ三尺

幅凡ソ一尺

第四條　該營業者轉居若クハ廢業シタルトキハ區長ノ奥書ヲ受ケ其旨當廳ヘ屆出ヘシ

但シ營業興廢ノ郡度所轄警察署ニ屆出ヘシ

第五條　該營業者ニ於テ水火夫雇入ノ紹介ヲ爲ストキハ當廳ヨリ示シ置ク所ノ約定書樣式ニ倣ヒ訂約セシムヘシ

但シ約定書式ハ營業ノ許可ヲ與フル際之ヲ付與スヘシ

第六條　該營業者ハ豫ヲ簿冊ヲ製シ置キ被雇者ノ族籍氏名年齢住所及ヒ雇主ノ國籍氏名船號又ハ航行ノ地方其他双方間ニ成立タル約定ノ要旨ヲ登記シ每年年分ヲ取纏メ當廳ヘ申報スヘシ

但シ取締上ニ付時々巡査ヲシテ帳簿ノ點檢ヲナサシムルコトアルヘシ

第七條　該營業者ハ雇主及被雇者ノ双方ヨリ相當ノ手數料ヲ受取ルコトヲ得ルト雖モ其額ハ豫メ當廳ノ許可ヲ受クヘシ

第八條　第一第三第四第五第六第七條ノ規則ニ背クモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルルノ外尚ホ其情狀ニ依リ營業ヲ停止シ又ハ禁止スルコトアルヘシ

○明治二十六年十一月十五日北海道廳令第三十八號

通船營業取締規則左ノ通リ定ム

但明治十五年八月函館縣甲第二十五號布達同十八年六月根室縣甲第三十七號布達ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

通船營業取締規則

第一章　通則

第一條　通船營業トハ通船ヲ使用シ船夫ヲシテ港灣內ニ於テ客ノ送迎又ハ手荷物ノ運漕ヲ爲サシムル營業者ヲ云フ

第二條　通船營業ヲ爲サントスルモノハ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第三條　營業者ハ船夫ノ族籍身分住所氏名年齡ヲ記シ所轄警察官署ヘ屆出一人毎ニ鑑札ヲ受クヘシ

營業者自ラ船夫ノ業ヲ爲サントスルトキハ船夫ノ鑑札ヲ受クヘシ

第四條　營業ニ關スル願屆ハ總テ取締ノ加印ヲ要ス但組合ヲ設ケサルトキハ此限リニアラス

第五條　營業者ハ別記雛形ノ標旗標燈ヲ製シ標旗ハ所轄警察官署ヘ差出檢印ヲ受クヘシ

第六條　船體ハ營業出願ノ節及毎年四月所轄警察官署ノ檢査ヲ受ケ其證ヲ受クヘシ

新造、改造、修繕又ハ讓受買受ヲ爲シタルトキハ定則ニ拘ハラス前項ノ例ニ從フヘシ

第七條　船夫鑑札及標旗ハ毎年四月所轄警察官署ノ檢査ヲ受クヘシ

第六條第七條ノ檢査期日竝ニ場所ハ所轄警察官署ノ定ムル所ニ從フヘシ

第九條　檢査證、鑑札、標旗ヲ遺失毀損シ又ハ身上ニ異動ヲ生シタルトキハ其再渡書換又ハ檢印ヲ受クヘシ

第十條　左ノ場合ニ於テハ五日以內ニ所轄警察官署ヘ屆出檢査證又ハ鑑札ハ之ヲ返納シ標記ハ消印ヲ受クヘシ

一　廢業又ハ廢船シタルトキ

二　通船ヲ賣渡又ハ讓渡タルトキ

三　船夫ヲ解罷シタルトキ

第十一條　檢査證ハ船內艫部見易キ所ニ釘付スヘシ

第十二條　檢査證、鑑札、標旗ハ賣渡讓渡又ハ貸與スヘカラス

第十三條　檢査證アル通船ト雖モ破損若クハ腐朽ニ至リ危險ト認ムルトキハ警察官吏ニ於テ檢査證ヲ引上ケ其使用ヲ停正スルコトアルヘシ

第二章　船體ノ構造及船夫ノ資格

第十四條　船體ハ堅牢ニシテ其構造ハ重量吃水線ヲ劃スヘキモノトス

第十五條　船夫ハ左ノ資格ヲ有スル者ニ限ル

一　年齡滿二十年以上ニシテ身體强壯ナルモノ

二　船夫ノ業ニ熟練シタルモノ

第三章　就業制限

第十六條　船夫ハ所轄警察官署ニテ定メタル場所ノ外船客ノ上陸乘船及ヒ手荷物ノ揚ケ卸ヲナス
ヘカラス

第十七條　通船ニハ昼間標旗夜間ハ標燈ヲ船艫ニ掲出スヘシ

第十八條　船夫ノ服裝ハ法被股引又ハ半股引ヲ用フヘシ

第十九條　船夫ハ鑑札ヲ携帶シ警察官吏又ハ乘客ニ於テ見ンコトヲ求メタルトキハ直ニ之ヲ示ス
ヘシ

第二十條　船夫ハ正當ノ事由ナクシテ出船ヲ拒ミ又ハ酩酊シテ其業ヲ執ルヘカラス

第二十一條　航路ノ妨害トナルヘキ場所ハ通船ヲ繫留スヘカラス

第二十二條　船舶ノ投錨後ニアラサレハ通船ヲ近付クヘカラス

第二十三條　通船ヲ併漕シ又ハ競漕スヘカラス

第四章　賃錢及乘載制限

第二十四條　乘客及手荷物賃錢額ハ組合（組合ヲ設ケサルトキハ營業者）ニ於テ之ヲ定メ所轄警察官署ニ屆出ヘシ

賃錢額ハ警察官署指定ノ場所及ヒ船内艫部見易キ所ニ掲示スヘシ

前項ノ賃錢額ハ英文ヲ以テ併記セシムルコトアルヘシ

第二十五條　何等ノ名義ヲ以テスルモ乘客ニ對シ定額外ノ賃錢ヲ請求スヘカラス

第二十六條　乘客及ヒ手荷物ノ乘載量ハ吃水線ヲ超ユヘカラス但風波ノ模樣ニ依リ警察官吏ニ於

テ臨時其乘載ヲ制限スルコトアルヘシ

第二十七條　危害品又ハ六種傳染病患者ハ警察官吏ノ指揮アルニアラサレハ乘載スヘカラス

第五章　營業組合

第二十八條　通船營業者ハ一港灣毎ニ組合ヲ設クヘシ但土地ノ狀況ニ依リ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケ組合ヲ設クス又ハ數組ニ分離スルコトヲ得

第二十九條　警察官署ノ認可ナクシテ組合ヲ設クス又ハ組合ニ入ラスシテ營業ヲナスヘカラス

第三十條　組合ニハ取締人一名ヲ置クヘシ其取締ハ組合營業者中ヨリ撰擧シ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

第三十一條　取締ハ營業上ニ類スル諸般ノ監督ヲ爲スヘキモノトス

第三十二條　組合ニ於テハ其規約ヲ定メ所轄警察官署ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條　組合ヲ數個ニ分チタルトキハ連合規約ヲ定メ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十四條　組合員ニ於テハ營業者ノ加入ヲ拒ムヘカラス

第三十五條　取締ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

一　營業ニ關スル規則命令ヲ營業人ニ通知スルコト

二　營業人ノ願屆ニ加印スルコト

三　賃錢定額ヲ掲出スルコト

四　取締撰擧ニ關スル事務ヲ取扱フコト

右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第三十六條　警察官署ニ於テ取締ニ不都合アリト認ムルトキハ之レヲ改選セシムルコトアルヘシ

第六章　罰則

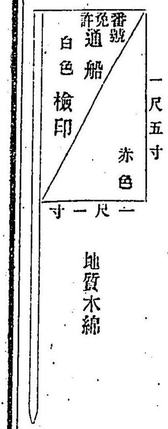
第三十七條　本則第二條第三條第五條第六條第七條第九條第十條第十一條第十二條第十六條第十七條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二項第二十五條第二十六條第一項第二十七條第二十九條第三十四條ニ違背シ又ハ第二十四條第三項及第二十六條但書警察官ノ指揮ヲ受ケ其命ニ從ハサルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

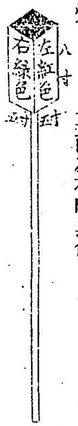
第三十八條　本則第三條第十四條第十五條第二十一條第二十二條第二十三條第二十六條第二十七條第三十七條ハ賃錢ヲ取ラサル附通船ニモ適用ス

第三十九條　從前許可ヲ受ケタル營業者及船夫ハ本令施行ノ日ヨリ一箇月以内ニ更ニ本則ニヨリ出願等ノ手續ヲ爲スヘシ

標旗



標燈　裏面左右暗黑色



○明治二十六年十一月十四日北海道廳訓第三百十四號警察署、廳分署宛

通船營業取締規則取扱手續左ノ通リ定ム

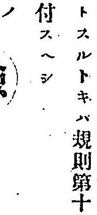
通船營業取締規則取扱手續

第一條　警察官署ニ於テハ第一號第二號ノ帳簿ヲ調製シ船体及標旗鑑札ノ檢査事項等ヲ記載スヘシ

第二條　船體檢査證ハ第三號雛形ニヨリ木札ヲ以テ調製スヘシ

第三條　船夫鑑札ヲ下付セントスルトキハ規則第十五條ニヨリ調査シ不都合ナシト認ムルモノニ限リ第四號雛形ノ鑑札ヲ下付スヘシ

第四條　檢査證又ハ船夫鑑札ノ檢印ハ下ノ烙印ヲ用ユヘシ



第五條　檢査證又ハ船夫鑑札ヘ捺スヘキ署印ハ烙印ヲ用ユルモノトス

第六條　檢査證又ハ船夫鑑札ハ六箇年毎ニ更改スヘシ

第七條　船客上陸乘船荷物揚卸場ハ必要ニ應シ之ヲ指定シ第五號雛形ノ標木ヲ樹ツヘシ

（第一號ヨリ第五號ニ至ル雛形略ス）

○明治二十三年四月二十四日北海道廳令第十八號

港内取締規則左ノ通相定ム

但明治十四年一月開拓使函館支廳第四號布達及同年月同支廳第十一號布達ハ廢止ス

港内取締規則

第一章　通則

第一條　本則ハ第二章ニ記載スル各港内及其海岸地ニ適用ス

第二條　左ノ事項ハ圖面ヲ添ヘ所轄警察署ヲ經由シ本廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

一　船舶定錨標ヲ設置及改造スル事

二　棧橋架設又ハ標燈其他ノ目標ヲ建設及改造スル事

第三條　左ノ事項ハ圖面ヲ添ヘ所轄郡區役所ヲ經由シ本廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

一　波止場物揚場石垣板柵等ヲ築造建設及改造スル事

第四條　左ノ事項ハ圖面ヲ添ヘ所轄警察署ニ願出許可ヲ受クヘシ

但函館港ニ於テハ第六項第七項ハ函館警察署水上警察所ニ本文ノ手續ヲ爲スヘシ（二十五年三月廳令第十四號ヲ以テ七項ハノ下改正）

一　繫船杭又ハ筏等ノ繫留杭ヲ建設改造及修理スル事

二　波除杭石垣根留等ヲ建設改造及修理スル事

三　棧橋標燈其他ノ目標及波止場物揚場石垣板柵等ヲ修理スル事

四　海中浚渫又ハ土砂ヲ採掘スル事

五　游泳場ヲ設クル事

六　波止場物揚場及海岸地ニ一夜以上諸車其他ノ物品ヲ置ク事

七　足代ヲ設クル事

八　花火其他火技ヲ弄スル事

第五條　左ノ事項ハ二日以前所轄警察署ニ屆出ヘシ

一　船舶ノ進水式ヲ執行スル事

二　端艇ノ競漕ヲ執行スル事

三　施餓鬼ヲ執行スル事

第六條　第二條第三條第四條ノ各項ニシテ一旦許可シタルモノト雖トモ不都合ノ廉アリト認ムル時ハ之ヲ差止メ又ハ改造ヲ命スルコトアルヘシ

第七條　前條ニ記載シタル各條ノ各項ニシテ撤去又ハ讓受等ヲナシタル時ハ速ニ許可ヲ受ケタル官署ニ屆出ヘシ

第八條　船舶及筏等ハ他ノ船舶出入ノ航路ニ障碍ナキ場所ヲ撰ミ碇泊スヘシ

但シ障碍ノ場所ト認ムル時ハ他ニ碇泊ヲ命スルコトアルヘシ

第九條　船舶ノ燈火及航法ハ明治二十五年法律第五號海上衝突豫防法ニ遵フヘシ（二十八年十月廳令第七十七號ヲ以テ改正）

第十條　軍艦ヲ除クノ外火藥其他破裂質ヲ含有スル物品ヲ搭載シタル船舶又ハ傳染病者ヲ搭載シタル船舶ハ速ニ所轄警察署（函館港ハ函館警察署水上警察所又ハ水上巡邏ノ巡査）ニ屆出其指示スル場所ニ碇泊スヘシ其火藥及破裂質ヲ含有スル物品ヲ搭載セントスル時モ亦同シ（二十五年三月聽令第十四號ヲ以テ割註更正）

第十一條　港內ニ建物ヲ設ケ又ハ波止場物揚場棧橋海岸地等ニ車馬竹木其他ノ品物ヲ放置スヘカラス

第十二條　棧橋又ハ堤防ノ害トナルヘキ場所若クハ護岸ノ建設物並浮標礁標其他標木等ニ船舶及筏等ヲ繫留スヘカラス

第十三條　波止場物揚場ノ沿岸ニ濫ニ船舶及筏等ヲ繫留スヘカラス

第十四條　他人ノ繫キタル船舶及筏等ヲ解放スヘカラス

第十五條　水路ニ船舶其他ノ物件ヲ横ヘ又ハ竝列シテ通航ノ妨害ヲナスヘカラス

第十六條　港內及波止場物揚場其他沿岸堤防地等ニ塵芥瓦礫炭灰其他禽獸ノ死屍等渾テ障害物ヲ投棄スヘカラス

第十七條　棧橋又ハ波止場物揚場外ニ於テ濫ニ乘客及荷物ノ揚卸ヲナスヘカラス

但シ棧橋ハ荷物積卸ノ爲メ特設シタルモノノ外手荷物外ノ荷物ヲ積卸スルヲ得ス（二十八年十二月聽令第九十八號ヲ以テ但書改正）

第十八條　夜間燈火ナクシテ乘客及荷物ノ揚卸シテナスヘカラス

第十九條　港內ニ於テ濫ニ發砲スヘカラス

第二章　各港

第二十條　函館港ハ山脊泊町南端ヨリ上磯郡上磯村有川末流ニ至ル直線ヲ以テ其經界トス

第二十一條　根室港ハ辨天嶋西端ヨリ「ルヱカ」岬迄及同嶋東端ヨリ根室村字ペンケムイ岬ニ至ル直線ヲ以テ其經界トス（二十八年四月聽令第三十七號ヲ以テ改正）

第二十二條　根室港ハ西洋形帆走船及日本形船ハ辨天嶋ニ沿フテ碇泊シ漁船ハ其東方ニ於テ碇泊スヘシ（二十八年四月聽令第三十七號ヲ以テ改正）

第二十三條　小樽港ハ小樽郡熊碓村字平磯岬ヨリ高嶋郡高嶋村字「カヤシバ」岬ニ至ル直線ヲ以テ其經界トス（二十八年二月聽令第四號ヲ以テ「鹿ヶ岬」ヲ「カヤシバ」岬ト改ム）

第二十四條　室蘭港ハ繪鞆村字シクツシ岬ヨリ輪西村字ホロモイ岬ニ至ル直線ヲ以テ其經界トス

第二十五條　江差港ハ鷗島ヲ以テ起點ト爲シ南ハ寺小屋町字武士川北ハ片原町字輪島澤ニ至ル直線ヲ以テ其經界トス（二十六年十一月聽令第三十九號ヲ以テ第二十四條第二十五條追加）

第三章　罰例

第二十六條　本則第二條第三條第四條第五條第七條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十八條第十九條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス（二十八年十月聽令第七十七號ヲ以テ改正）

○明治九年五月二十日開拓使函館支廳第六十一號布達

函館稅關東脇ニアル波止場ヲ以テ外國船乘込ノ內國人乘船上陸場ト相定候條爲心得此旨布達候事

○明治二十三年五月二日北海道廳令第二十四號

河川航通船規則左ノ通相定メ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス

河川航通船規則

第一條　航通船トハ汽船西洋形帆走船日本形船及筏ヲ總稱ス

第二條　河川ヲ航通スル船舶ハ陸地曳船ニ係ルモノヲ除クノ外上航下航共各其右方ヲ航行スヘシ

（二十三年八月廳令第四十七號ヲ以テ船舶ハノ下「陸地曳船ニ係ルモノヲ除クノ外」十四字追加）併航横航若クハ斜航シ他船ノ航路ヲ妨害スヘカラス

第三條　上航ノモノ下航ノモノニ遭遇スルトキハ上航ノモノ右方ニ避クヘシ

第四條　屈曲セル場所若クハ霧中ニ於テハ汽笛號鐘號角其他ヲ以テ信號ヲナシ且ツ一時間六海里以上ノ速力ヲ以テ進航スヘカラス

第五條　同一ノ航路ニ進航スルトキハ直流ノ場所又ハ他船ヲ超過セントスル場合ヲ除クノ外必ス相當ノ距離ヲ保ツヘシ

第六條　夜中航行スルトキ西洋形船日本形回漕船ハ海上衝突豫防規則第三條ノ燈火ヲ掲ケ其他ノ船舶ハ左ノ區別ニ從ヒ燈火ヲ船首ニ掲クヘシ

但燈火ノ位置ハ水面上四尺以上ニ掲クヘシ

上航船　白燈貳個（縦ニ連掲ス）

下航船　白燈壹個

第七條　航行中ハ競走ヲ爲スヘカラス

第八條　船舶ヲ繫留セントスルトキハ勉メテ偏隅ニ繫キ他船ノ航路ヲ梗塞スヘカラス

第九條　堤防若クハ河底其他ノ築造物ヲ損害スヘカラス

第十條　途中ニ於テ故障ヲ生シ航行シ能ハサル場合ニ於テハ他船ノ航通ヲ妨ケサル樣其手配ヲナスヘシ

第十一條　第二條第二項第三條第四條第六條第七條第八條第九條第十條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス（二十八年十月廳令第七十八號ヲ以テ改正）

附則

本則ハ當分ノ内石狩川釧路川ノ外之レヲ施行セス

○明治二十一年十二月二十一日北海道廳令第七十五號

畜犬取締規則左ノ通定ム

但明治十一年四月開拓使函館支廳第三十八號布達明治十七年三月札幌縣甲第九號布達明治十六年七月根室縣甲第四十號布達ハ廢止

畜犬取締規則

第一條　畜犬ニハ其畜主ノ住所氏名ヲ記シタル頸環又ハ牌子ヲ附ケ置クヘシ

第二條　畜犬狂猛ニシテ人畜ヲ害スルノ虞アルトキハ嚴ニ之ヲ繫留スヘシ

第三條　畜犬傳染病ニ罹リタルトキハ警察署又ハ分署ニ屆出ヘシ

但此場合ニ於テハ時宜ニ依リ撲殺スルコトアルヘシ

第四條　頸環又ハ牌子ナキ犬ハ無主ノモノトシ處分スヘシ

第五條　第二條ノ繫鎖ヲ怠ルニ因リ違警罪ニ處セラレタル時ハ其畜犬ヲ警察署又ハ分署ニ於テ撲殺スルコトアルヘシ

○明治二十七年四月十三日北海道廳令第十七號

銃砲取締細則左ノ通リ定ム

但シ明治十八年八月根室縣甲第四十六號布達銃砲賣買讓與心得ハ廢止ス

銃砲取締細則

第一條　銃砲賣買營業ヲ爲サントスル者ハ所轄警察官署ヲ經當廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

免許鑑札ヲ受ケタル後三箇月以上店舗ヲ設ケス又ハ六箇月以上休業シ又ハ同期間賣買セサル者若クハ他人ニ名義ヲ假シテ營業ヲ爲スノ事實アルモノト認メタルトキハ失効ヲ命スルコトアルヘシ（三十一年四月廳令第二十六號ヲ以テ追加）

第二條　免許銃製造、軍用銃又ハ免許銃修繕營業ヲ爲サントスル者ハ所轄警察官署ヲ經當廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

第三條　銃砲賣買營業者ヨリ軍用銃ヲ買受クントスルトキハ銃名及賣渡人ノ住所氏名ヲ記シ所轄警察官署ニ願出免手形ヲ受ケ買取タルトキハ五日以內ニ其檢印番號及買受タル月日ヲ同署ニ屆出ヘシ

銃砲賣買營業者ニ非サル者ヨリ軍用銃ヲ買受又ハ讓受ケントスルトキハ銃名及檢印番號ヲ記シ

其賣主又ハ讓渡主ト連署所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第四條　銃砲賣買營業者ニ非サル者免許銃ヲ買受又ハ讓受ケタルトキハ五日以內ニ其銃名玉目及賣主又ハ讓渡主ノ住所氏名ヲ記シ所轄警察官署ニ屆出ヘシ

第五條　銃砲賣買營業者ニ非サル者其所持ノ銃砲ヲ他ノ警察官署所轄內ノ者ニ賣渡又ハ讓渡タルトキハ五日以內ニ所轄警察官署ニ屆出ヘシ

第六條　免許銃製造營業者ハ其製造又ハ改造シタル銃砲ヲ銃砲賣買營業者ニ非サル者ニ直賣スルヿトヲ得ス

第七條　銃砲賣買營業者免許鑑札ヲ亡失毀損シ又ハ轉居（同一警察官署所轄內ノトキニ限ル）改氏名（死亡ノトキハ相續人ヨリ）及廢業シタルトキハ五日以內ニ所轄警察官署ヲ經當廳ニ屆出其書換再受若クハ返納ノ手續ヲ爲スヘシ

免許銃製造、銃砲修繕營業者轉居改氏名死亡（死亡ノトキハ相續人ヨリ）及廢業ノトキモ亦前項ニ據リ屆出ヘシ

第八條　銃砲賣買營業者他ノ警察官署所轄內ヘ轉居スルトキハ免許ノ効ヲ失フ此場合ニ於テハ五日以內ニ所轄警察官署ヲ經當廳ニ屆出免許鑑札ヲ返納スヘシ

第九條　銃砲所有者銃砲ヲ亡失シ又ハ改氏名轉居死亡（死亡ノトキハ相續人ヨリ）シタルトキハ五日以內ニ所轄警察官署ニ屆出ヘシ但シ他ノ警察官署所轄內ニ轉居シタルトキハ五日以內ニ其轉居地先所轄警察官署ニモ屆出ヘシ

他府縣ヨリ銃砲所持ノ上移住、寄留又ハ復歸シタルトキハ銃名及檢印番號ヲ記シ前項ニ據リ屆